平成9・10・11年度

伊勢原市教育委員会研究委託

研究紀要

研究テーマ

生きる力の育成

～生徒一人ひとりが
生き生きと活動できる場作りを通して～

伊勢原市立伊勢原中学校

はじめに

校長　大木一夫

これからの教育は、多くの知識を教え込む教育から、子どもたちに自ら学び自ら考える力を育成する教育へと転換しなくてはいけない。また、社会の変化に主体的に対応できる力を育成するとともに、豊かな心やたくましさをはぐくまなくてはならない。

子どもたちには知識を覚えていることより、自分で考え自分の考えをもち、それを自分の言葉で表現できる力を身につけ、それを実際の生活に生かすことが大切である。

“生きる力”とは、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力をいう。

また、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康と体力である、といわれている。

平成９年度に伊勢原市教育委員会より３年間の研究委託を受ける。本校生徒の実態は元気に挨拶ができ明るく素直だが、自分の考えや意見を全面に出さない。そこで、私たち教師が学校において、生徒一人ひとりが生き生きと活動してほしい、そのような場を多く設定していくことが楽しい学校づくりにつながると考えた。また授業や行事に主体的に取り組み、生き生きと活動する生徒に育てていきたいと考え“生きる力の育成”を研究テーマとし、サブテーマに“生徒一人ひとりが生き生きと活動できる場作りを通して”を設定し研究に取り組んだ。

一人ひとりが生き生きと活動するということは、一人ひとりが自ら考え主体的に行動することであり、将来の“生きる力”になっていくと考えた。

特に本校では学習や行事（特に体験的な行事）に取り組むことがテーマに迫ると考えた。

前にも述べたが、授業では教師が一方的に教え込むのではなく、生徒が自ら主体的に生き生きと学習に取り組めるように指導法・教材教具等の工夫改善に取り組んだ。

また、教科ばらばらに学習するのではなく、教科どうし関連させたり、乗り入れ等を行って横断的に学習し、学習意欲を高められると考えた。

また体験的な行事では生徒が考え、決定し、実行するという流れを基本に、行事に主体的に取り組ませることにより、生き生きさせたいと考える。特に体験的な行事は実際の生活体験を通して全人的な人間形成を図る場として最も良いと考える。

本校にはいろいろな体験的な行事があるが、特に１年の名人に学ぶ会、２年の職場見学、３年の修学旅行、全学年のふれあい活動を生きる力を育む行事と考える。

今後も一層の研鑽をつみ、取り組んでいきたいと考える。

諸先生方のご指導・ご助言をよろしくお願いします。

最後になりましたが、本校の研究推進にあたり伊勢原市教育委員会をはじめ、各校の皆様に心より感謝し、お礼を申し上げます。

≪　目　次　≫

Ⅰ　研究の概要

1、研究テーマ …… 1ページ
2、研究テーマ設定の理由
3、研究のねらい
4、研究組織 …… 2
5、研究経過（3年次）
6、研究構想図 …… 4

Ⅱ 研究内容

1、授業研究部 …… 5

(1) 研究の経過
A、体験的な活動を取り入れた授業
B、横断的な授業
(2) 平成11年度各教科の指導の重点及び年間指導計画 …… 6
(3) 成果と問題点 …… 9

2、体験活動研究部 …… 9

(1) 研究の経過
(2) 4つの体験的な行事のねらい、取り組みの流れ、まとめ
(3) 成果と問題点 …… 12
(4) 平成11年度年間行事計画 …… 13

Ⅲ 今後の課題 …… 14

Ⅳ 1、2年次の研究の経過 …… 16

授業研究部の実践

A 体験的な活動を取り入れた授業

1、国語科 …… 21
2、社会科 …… 27
3、数学科 …… 32
4、理科 …… 36
5、音楽科 …… 37
6、美術科 …… 43
7、保健体育科 …… 49
8、技術科 …… 50
9、家庭科 …… 55
10、英語科 …… 69

B 横断的な授業

1、理科 —— 技術科（2年電気） ---------- 71
2、国語科 —— 技術科（3年修学旅行新聞作り） ---------- 75
3、家庭科 —— 美術科（3年絵本作り） ---------- 77
4、国語科 —— 社会科（2年平家物語） ---------- 81
5、保健体育科 —— 理科（1、2年動物のからだ） ---------- 84
6、数学科 —— 理科（1年比例） ---------- 89
7、保健体育科 —— 理科（2年環境の保全） ---------- 92
8、英語科 —— 家庭科（1年朝食作り） ---------- 94
9、音楽科 —— 英語科（2年Yesterday Once More） ---------- 97

体験活動研究部の実践

1、名人に学ぶ会（1年） ---------- 99

2、職場見学（2年） ---------- 104

3、修学旅行（3年） ---------- 111

4、ふれあい活動（全学年） ---------- 121

Ⅰ　研　究　の　概　要

１、研究テーマ

生きる力の育成

～ 生徒一人ひとりが生き生きと活動できる場作りを通して ～

２、研究テーマ設定の理由

平成９年度に伊勢原市教育委員会より３年間の研究委託を受け、アンケート調査や話し合いを通してどのような研究をしていくのか検討した。その結果、平成９年度（１年次）は、「生徒一人ひとりが生き生きと活動できる場作りをめざして」というテーマで研究に取り組むことにした。私たち教師が、学校において生徒一人ひとりが生き生きと活動してほしい、そのような場を多く設定していくことが楽しい学校づくりにつながると考えたからである。また、元気にあいさつができ明るく素直だが、反面自分の考えや意見をあまり持たず他人任せな面があるという本校生徒の実態もあった。そこで、授業や行事（特に体験的な行事）に主体的に取り組み、生き生きと活動する生徒に育てていきたいと考え、このテーマを設定した。

一人ひとりが生き生きと活動するということは、一人ひとりが自ら考え主体的に行動することであり、それが将来の「生きる力」となっていくのではないかと考えた。生きる力とは、情報化、国際化、少子化など変化の激しいこれからの社会を生き抜いていくための知恵・力である。いかなる状況下であっても、自ら考え、主体的に行動できることが「生きる力」そのものではないかと考える。平成１０年度（２年次）からは研究の最終的なねらいである「生きる力の育成」を研究テーマとし、「生徒一人ひとりが生き生きと活動できる場作りを通して」それに迫ることにした。

３、研究のねらい

生徒一人ひとりが自ら主体的に生き生きと学習や行事（特に体験的な行事）に取り組むことができるようにすることにより、生きる力を育てる。

(1) 授業という場

授業においては、教師が一方的に教え込むのではなく、生徒が自ら主体的に生き生きと学習に取り組めるよう指導法、教材・教具等の工夫・改善に取り組むことから始めた。２年次からは、単なる知識の習得や座学にならないように体験的な活動をできるだけ授業に取り入れたり、実物を見せたりして学習のリアリティ化を図りつつ、学習に主体的な取り組みができるよう、よりよい指導法を探った。

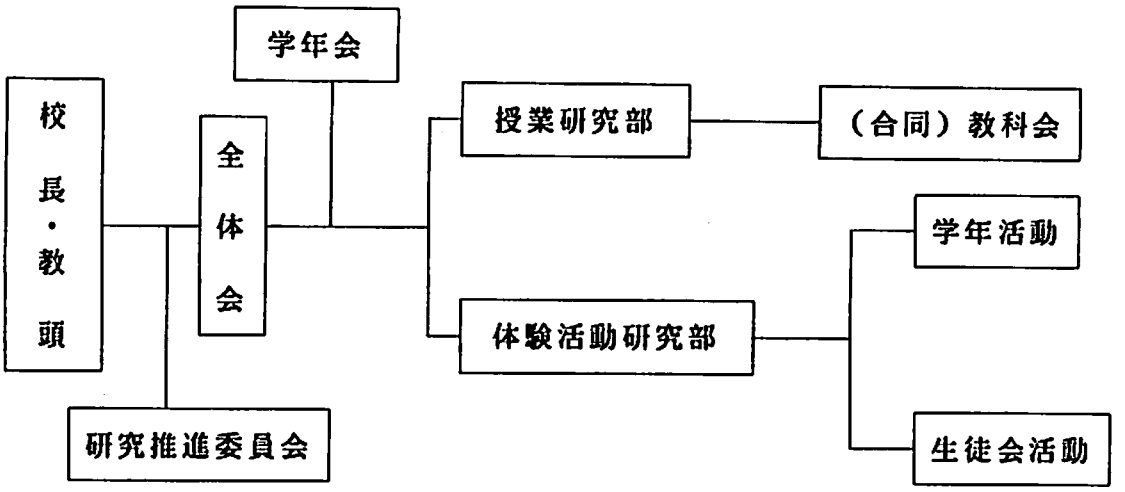
また各教科をばらばらに学習するのではなく、教科どうし関連のあるところは関連させまとめて学習したり、乗り入れ等を行ったりして横断的に学習することにより、生徒の興味をさらに喚起でき、学習意欲を高められると考えた。縦糸一本の学力が横糸でも繋がることにより、より深い理解が得られ、「生きて働く学力」に繋がっていくと考えられる。一方教師にとっても他教科の内容を知ることは、授業展開を考える上でも大変有意義なことである。

(2) 体験的な行事という場

生徒が自分たちで考え、決定し、実行するという手順を基本に、行事に主体的に取り組ませることにより生き生きさせたいと考える。特に体験的な行事は、実際の生活体験を通して全人的な人間形成を図る、即ち「なすことによって学ぶ」場として最も良いと考える。生徒が興味・関心を持って取り組み、自らを試したり、試行錯誤をしながらも成し遂げたりする体験は「生きる力」を育むはずである。生活体験の不足、人間関係の希薄化が言われる今日、体験的な行事が大変重要なのではないか。本校には色々な体験的な行事があるが、特に名人に学ぶ会（１年）、職場見学（２年）、修学旅行（３年）、ふれあい活動（全学年）を生きる力を育む体験的

な行事と位置づけ、研究をすすめた。

４、研究組織



５、研究経過

平成１１年度（３年次）

４.７　第１回研究推進委員会
　昨年度の研究の確認、研究組織、本年度の研究の取り組みについて
　次回研究会について
４.１９　第１回校内研究全体会
　昨年度の研究の概要の確認、研究の組織について
　本年度の取り組みについて
　①授業研究部
　　横断的な授業の実践、研究授業の取り組みについて
　　各教科年間指導計画について
　②体験活動研究部
　　４つの体験的な行事の改善と事後の反省を引き続き行うことを確認（特にふれあい活動について研究する）
　教科会
５.２０　第２回研究推進委員会
　本年度の研究授業について、研究報告会について
　２年次の問題点について、研究のまとめ方について
　次回研究会について
５.２１　第１回合同教科会
　昨年度の反省、本年度の横断的な授業について
　合同教科会
５.２８　第２回校内研究全体会
　本年度の研究授業について（予定、指導案・参観・反省などの確認）
　研究報告会について、研究のまとめについて
　教科会
６.４　研究授業（美術科）
６.７　第２回合同教科会
６.１３～１５　修学旅行（３年）
６.１６　職場見学（２年）
６.１７　第３回研究推進委員会
　夏休みの予定について、研究のまとめについて

次回研究会について
６．２５　研究授業（家庭科）全員で参観
６．２８　第３回校内研究全体会
今までに行われた研究授業について、今後の予定について確認
教科会
指導案の検討、研究のまとめ
７．５　体験活動研究部会
７．７　第３回合同教科会
７．８　第４回研究推進委員会
紀要のまとめ方について
７．１４　研究授業（音楽科）
７．１６　第４回校内研究全体会
研究授業について、今後の予定の確認
教科会
８．２　第５回研究推進委員会
研究のまとめの内容検討、指導案の検討
８．３　第６回研究推進委員会
研究のまとめの内容検討、次回研究会について
８．２６　第５回校内研究全体会
研究のまとめの内容検討
教科会
８．３１　第７回研究推進委員会
研究のまとめの内容検討、体験活動部のまとめの内容検討、
その他の実践の検討
９．１６　第４回合同教科会
９．１７　第８回研究推進委員会
研究のまとめの内容検討
９．２０　第６回校内研究全体会
研究のまとめの内容検討、合同教科会からの報告
９．２９　第９回研究推進委員会
今後の取り組みについて
１０．８　第１０回研究推進委員会
１０．１３　第７回校内研究全体会
１０．２２　第８回校内研究全体会
第５回合同教科会
１０．２７　第１１回研究推進委員会
１１．５　第１２回研究推進委員会
１１．８　第９回校内研究全体会
１１．１２　研究報告会

《研究構想図》

学校教育目標

地域の実情や生徒の実態をふまえ、平和な社会の形成者として人間性豊かな生徒の育成に努める

(1) 生命の尊さを知り、心身共に健康な生徒
(2) お互いの立場を考え、思いやりのある生徒
(3) 知性を磨き、創造力豊かな生徒
(4) 主体的にたくましく生きる生徒

研究テーマ

生きる力の育成
生徒一人ひとりが生き生きと活動できる場作りを通して

研究のねらい

生徒一人ひとりが自ら主体的に生き生きと学習や行事に取り組むことができるようにすることにより、生きる力を育てる

- 教科間の関連・重複部分の見直しによる横断的な学習での興味、関心の醸成と生きて働く力づくり
- 主体的に学べるような授業展開
- 体験的な行事への主体的な取り組み

授業研究部

・クロスカリキュラム
・教材・教具の工夫・改善
・体験的な学習

体験活動研究部

・名人に学ぶ会
・職場見学
・修学旅行
・ふれあい活動

＜指導要領＞

各教科および学年相互間の関連を図る、系統的、発展的な指導（各教科、道徳および特別活動それぞれの目標、指導内容を検討し、指導内容の不必要な重複を避けたり、重要な指導内容が欠落しないように配慮するとともに、指導の時期、時間配分、指導方法などに関しても相互の関連を考慮した上で計画が立てられることが大切である。）

体験的な活動の重視、自発的な学習の促進（各教科等の指導に当たっては、体験的な活動を重視するとともに、生徒の興味や関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるように工夫すること。）

・心豊かな人間の育成（豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図ること）
・自己教育力の育成（自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること）
（・基礎・基本の重視と個性教育の推進）
（・文化・伝統の尊重と国際理解の推進）

Ⅱ　研　究　内　容

１、授業研究部

(1) 研究の経過

A、体験的な活動を取り入れた授業

生徒が主体的に生き生きと授業に取り組めるように指導法、教材、教具等の工夫・改善に取り組むことにした。１年次は教科や一人ひとりの研究に委ねられてきたが、２年次からは、単なる知識の習得や座学にならないように、できるだけ体験的な活動を取り入れ、学習のリアリティ化を図り、生徒が主体的に学べるような授業展開の工夫・改善に取り組んだ。生徒が実際に行ったり体験したりできることは、できるだけ授業に取り入れたり、できるだけ実物を見せたりした。そうすることで五感を通して対象を認識でき、より深い理解が得られ、「生きて働く力」、「生きる力」となっていくと考えた。

２、３年次は授業研究を中心に行った。教科会の時間を週１回設定し、話し合いの時間を確保した。研究授業をできるだけ参観するようにし、月１回の研究全体会でその報告とそれについての話し合いを行った。また研究授業を特設して全教師が参観できる日程を設定するなどの工夫も行った。体験的な活動を取り入れ、どのように授業を展開すれば、生徒が主体的に生き生きするかを探った。特に３年次は教科会の取り組みの充実を図った。

B、横断的な授業

１年次は、生徒の興味を喚起し、学習意欲を高め、「生きて働く学力」を育成することをめざして、教科どうしの連携を重点に研究をすすめた。各教科の題材に視点を置く年間指導計画を作成することから始め、教科相互の共通性や関連を探った。グループに分かれ、実施可能な教科間教材を抜き出し、授業形態を検討した。その結果、２年次に教科間のクロスカリキュラムを８組実践することになった。新しい試みであり手探り状態の実践だったが、研究授業を通してその成果とともに改善すべき点が明らかになった。それらをふまえ３年次は、２年次に実践した８組に新たに国語 ― 技術（修学旅行新聞作り）を加え、よりよい授業作りに取り組んだ。「横断的」にする意味・ねらいをおさえ、本研究のねらいに迫ることにした。また３年次は毎月１回合同教科会を設定し、教科間の打ち合わせの時間を確保した。

＜平成１１年度の横断的な授業＞

- 理科 ―― 技術（２年）電気
- 理科 ―― 保体（２年）動物のからだ
- 国語 ―― 技術（３年）修学旅行新聞作り
- 家庭 ―― 美術（３年）絵本作り
- 国語 ―― 社会（２年）平家物語
- 保体 ―― 理科（２年）環境の保全
- 数学 ―― 理科（１年）比例
- 英語 ―― 家庭（１年）朝食作り
- 音楽 ―― 英語（２年）Yesterday Once More

(2) 平成１１年度各教科の指導の重点及び年間指導計画

研究のねらいの達成をめざして、各教科で指導の重点を検討し、次のように決定した。また、横断的な授業を実践するために、教科会並びに合同教科会で話し合いを行い、年間指導計画を作成した。

平成１１年度各教科の指導の重点

国語	・「伝え合う力」を高めるために、国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成する ・豊かな言語感覚を養うために、体験学習を取り入れた表現活動や他教科との連携を図る
社会	・指導教材の精選と他教科との連携を図る。 ・地域素材の発掘と教材化を一層充実させる。
数学	・基礎的・基本的な内容の重点化を図るとともに、指導内容の精選に努める。 ・生徒自ら課題を発見し、主体的に学習できるよう指導を工夫・改善する。
理科	・生徒一人ひとりが興味・関心をもち、意欲的な学習ができるよう指導法を工夫する。 ・生徒自らの活動を大切にし、生徒の主体性を生かせるよう支援する。
音楽	・一人ひとりに関心、意欲を持たせる音楽活動。 ・「感動の体験」をもてるような指導の方法と発表の場を工夫する。
美術	・生徒が自分のよさや可能性を発揮し、主体的に表現方法を身につけることができるよう、支援的な指導に努める。
保体	・保健分野で、他教科との連携を深めながらクロスカリキュラムの実践を図るとともに体験的な学習を積極的に取り入れていく。 ・選択制と男女共習を実践し、その授業体制を確立させる。
技術	・指導内容を精選し、基本的事項の定着を図る。 ・創造する楽しさや完成の喜びを体験させる授業の展開に努める。
家庭	・指導内容を精選し、基本的事項の定着を図る。 ・体験的な学習を通して、生活に生かせる技術を学び、創造する楽しさ、協力の大切さを味わえるよう支援的指導に努める。 ・仕事の楽しさ・協力する大切さ、完成の喜びを味わわせる。
英語	・生徒一人ひとりを生かした活発な言語活動のための指導方法の工夫や改善を図る。 ・できるだけ実際的な場面や活動を取り入れるようにする。

年間指導計画 1 （国語・社会・音楽・美術・英語）

平成１１年５月

		4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
国語	1年	言葉との出会い 見えないもの 自己紹介カード	表現Ⅰ 分かり易く説明する 話し言葉と書き言葉	想像力を豊かに きょうき 文法１ 外来語 ものがたり 物語人のあり方	言葉遊び 読書１ 碑 読書 と図書館利用	俳句 自然の中で 火の風	心象風景を詩にする 話し合いの方法 漢字の成立	文学を楽しむ ナポレオン 心豊かのサーカス 文法2 表現2 心象風景を詩作	古典を楽しむ ◇百人一首の話	天の羽衣 稚児の飴食ひたること 矛盾	読書２ 方言のファッション 共に生きるために 敬語 いた、思った、漢字のおしゃべり	心の一冊のアルバム 読書３ 木を植えた人
	2年	生きる力 春のいぶき ＴＶ 類義語対義語	生きるための知恵、言葉について メモをとる、漢字のしおり、 表現1 意見を述べる	平和を考える わたしの一番きれいだったとき ぼくの初恋	用言の活用 和語漢語外来語 ものがたり 物語を読もう 表現2	古典に親しむ 文語の表現 のれんの内 言葉が通じなかったとき うまいものを作って調べる	この本を推薦します 国際社会の中で 「三国志」ってなんだろう	三国志の音楽 考察を深める文化 小短歌を読む	形 走れメロス 文法 ◇新聞を作ろう	視野を広げる ◇神奈川沖浪裏 わたしはあなたがいい	ヴェロニカ 文法 漢字	読書 半分のふるさと 漢字の練習室
	3年	見方を変えて 生き イメージからの発想 人との対話を通じて言葉を考える	単語のしくみ 三分間スピーチ 漢字のしおり	調べて報告する 感性を磨く ◇学習を深める ゆらぐ学習	読書 ごはん ・題材を決めて読む ◇新聞を作ろう	現代文明の中で ・隠喩の表現にまつわる人間関係 環境問題を 三国志の中で	漢字 古典を読む 天の香具山 春は あけぼの	源泉の思ひ 古文の表現 漢詩 表現 思考文章を作ろう	文学を味わう レモン風味、感覚、心地よ 文法 敬語のはたらき 漢字	読書 変わりゆく言語 明日を考える 日録 日本のゴミ	豊 漢字のしおり 読書 絵本 漢字の練習室	→
社会	1年	世界の国々	人々の生活と環境 アメリカ合衆国	アメリカ合衆国 ＥＵ諸国	ＥＵ諸国	東南アジア	日本の自然 ◇身近な地域	西南日本 九州 中国・四国	中央日本 近畿地方 中部地方	中央日本 関東地方	東北日本 東北・北海道 日本と世界	日本の課題 環境問題 国際化社会
	2年	◇文明のおこり 日本の古代社会 と東アジア	律令国家の成立	貴族の政治と 文化の国風化	鎌倉幕府と元の 襲来	室町幕府と民衆 イスラムと東 ヨーロッパの ルネサンスへの動き 宗教改革を	江戸幕府の成立 産業の発達と 町人文化	ゆらぐ幕藩体制 市民革命 産業革 命とアジア侵略	開国と幕府倒壊 明治維新と 文明開化	立憲政治の開始 近代日本と中国 朝鮮侵略	資本主義の発達 と日本 第一次 大戦と民族解放	ファシズムと戦 争 新しい日本 戦後の世界
	3年	私たちと社会生 活 情報と社会 現代文化	家族生活と人権 婚姻 相続 扶養	人権尊重と憲法 国民の権利 義務 平和主義	民主政治と政治 参加 国会 国民 主権 議院内閣制	内閣 裁判所 地方公共団体の 政治 選挙と政党	くらしと経済 経済活動 ◇ 企 業のしくみ 財政	国民生活と福祉 消費生活の向上 消費者保護	社会保障の充実 環境と資源 老人福祉	経済と国際協力 世界経済と日本 経済の自由化	国際社会と平和 国際連合と平和 活動	国際政治と日本
音楽	1年	校歌 明日という大空 花の街	アルトリコーダー 導入 春（鑑賞）	主人は冷たい土 の中に ＡＲアニー ローリーオーラリ	◇車にゆられて ＡＲ我は海の子 アマリリス	赤とんぼ 朝の風に	合唱祭練習	魔王（鑑賞）	雅楽「越天楽」 （鑑賞）	モルダウ 鑑賞 リコーダー アンサンブル	さくらさくら	まとめ
	2年	夢の世界を 翼をください ＡＲ牧人の歌	Tomorrow 夏の思い出 ＡＲムーンリバー	交響曲第５番 ハ短調（鑑賞）	浜辺の歌 Rモルダウ	荒城の月 夏の日の贈り 物	合唱祭の練習	R Yesterday Once More	アイーダ 鑑賞	箏曲 「六段の調 べ」（鑑賞）	◇打楽器アンサ ンブル	まとめ
	3年	花	花	少年時代	水の戯れ 鑑賞	夢を君の手に	合唱祭練習	Yesterday	長唄「勧進帳」 （鑑賞）	卒業式の歌	卒業式の歌	卒業式の歌
美術	1年	オリエンテーション 「話しかける 手」	色彩の基本 構図の基本	アクリル画 「学校からの風 景」下絵	→	→	→	西洋美術史 「鑑賞～ゴシック」 ◇曲からのイメ	ージによる立体構成	西洋美術史 「ルネサンス北 方ルネサンス」	レタリング 明朝体 ゴシック体	◇モダンテクニ ック いろいろな 表現技法の体験
	2年	◇自己決定主題 によるポスター 下絵	→	→	彩色	彩色	レリーフ	西洋美術史 「現代」	→	スクラッチ画 →	→	日本美術史 「飛鳥～鎌倉」
	3年	日本美術史 世界美術史(1)	彩色 ◇仏像の点描模 写	→	彩色	抽象彫刻 →	→	→	世界美術史(2)	鑑賞 →	→	→
英語	1年	アルファベット 文字と音声 あいさつ	教室英語 好きなものは 身の回りの英語	身の回りの英語 スポーツ食べ物数字 デービス先生に聞いてみよう	デービス先生の家 族 食べ物	新しい友達のペ ンとメグ ◇うちにおいで	あいさつ ペンフレンドからの手紙 生徒と交換 交換を 書き 送る	バスケットをし よう アップルパ イを作ろう	和製英語 Do Re Mi 祭だ 季節 序数	◇ペン漢字に挑 戦	◇トニーからの 手紙 教科学校行 事 英会話クラブで	風船とウミガメ Ｓｉｎｇ
	2年	春休み Family Tree	ホームシック 飛行機で	Weather 世界の 標識 ◇オーストラリア からの手紙	風景の言い方 Imagine	◇ホームステイ I am a tree	イメージ 職業	Yesterday Once More ロンドン 鶴の恩返し	◇道案内 地球にやさしく	animals I II 映画	英語になった日 本語 スコットの悲劇	The snow man
	3年	インターネット 顔と身体 Where does it hurt?	笑い話 いろいろなもの の数え方	◇ヒューストンでのホームステイ My home 家のことを たずねる Honesty	インドの生活と 言語 ◇電話の会 話 英語のことわざ	ボランティア活 動 ディベイト	五鳴みどりと音 楽 ◇Shopping 外食	驚くべき話「新 聞記事より」 感情の表現	I Just Called to Say I Love You アンネの日記	ＥＴ映画より	総復習 mis re overの つく言葉	卒業の言葉

～～～はクロスカリキュラム ◇は体験的な活動として力を入れる単元

年間指導計画２（数学・理科・保健体育・技術家庭）

平成１１年 ５月

		４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
数学	１年	正の数・負の数	正の数・負の数の計算	―→文字を	使った式―→	―→方程式―→	変化	と対応―→	平面図形	―→	―→◇空間図形	―→
	２年	式の計算―→	連立方程式―→	不等式	一次関数―→	―→図形	の調べ方―→	図形と合同―→	図形と	相似―→	資料の整理	数のいろいろな表し方
	３年	式の計算―→	―→平方根	―→	二次方程式―→	関数―→	円の性質―→	◇図	形と計量―→	◇確率と	標本調査―→	―→
理科	１年	植物の生活と種類 ◇身近な生物の観察	植物の体のつくりとはたらき	植物の仲間とその特徴	物質とその変化 身の回りの物質と水溶液	気体とその性質	物質の状態とその変化 身の周りの現象	力とその働き 圧力とその働き	光の性質 音の性質 熱と温度	地球と太陽系 太陽と月・地球 天体の日周運動	四季の星座と季節の変化 惑星と太陽系	総まとめ
	２年	電流とその働き 電流の流れ方	―→	動物の生活と種類 動物の体のつくりと働き	動物の仲間とその特徴	化学変化と分子原子 化学変化と燃焼 化合物分解	化学変化と物質の量	物質のしくみ	電流と電子 電流と磁界	天気とその変化 ◇天気の変化	空気中の水 気圧と天気 日本の天気	総まとめ
	３年	化学変化とイオン 水溶液と電流	酸・アルカリ・塩	生物のつながり 生物の体をつくっているもの	生物のふえ方と遺伝 生物同士の類縁関係と進化	生物の生活と互いのつながり	運動とエネルギー 力の働き 物体の運動	仕事とエネルギー 科学技術の進歩と生活	◇大地の変化 火山・地震	土地の変化 地層 大地の変動	地球と人間 地球の環境 人類と自然	自然界の調和 総まとめ
保健体育	１年	体操 スポーツテスト	バレーボール	保健（からだの発達）	水泳	体育祭の練習 器械運動	柔道	保健（心の発達と健康）	サッカー	陸上競技 持久走	体育知識（運動と心身の	バスケットボール
	２年	体操 スポーツテスト	器械運動	陸上競技 走り幅跳び 保健（健康と栄養）	水泳	体育祭の練習 柔道	サッカー	保健 環境の利用と保全	陸上競技 砲丸投げ ハードル走	バスケットボール	体育知識（体力の測定） バレーボール	体育知識（運動の練習）
	３年	体操 スポーツテスト	柔道	保健（事故とその防止）◇（応急手当）	水泳	体育祭の練習 ソフトボール	器械運動 保健（病気の予防）	器械運動	バスケットボール	保健（健康と生活） 球技選択	―→	―→
技術	１年	木材と私たちの生活 木材の特徴	木製品の設計	木製品の製作の準備 製図 設計	木製品の製作	―→						木材の有効利用
	２年	電気と私たちの生活	電気回路の構成 回路図と図記号	回路計 電源と負荷 テーブルタップの作成	オームの法則	電気機器のしくみ 間接照明蛍光灯の製作	―→	電気機器の保守と点検	電気機器と屋内配線	電気回路の製作 電子部品のはたらき	電気回路の製作	電気の有効利用
	３年	情報と私たちの生活	コンピューターの操作と用語 キーボード等の基本操作	ソフトウェアの利用	◇文書の作成 修学旅行新聞	◇栽培（菊づくり 福助）		飛行機の設計 製作 翼ケン		名刺の作成	情報化社会と私たちの生活	―→
家庭	１年	家庭の仕事 家庭生活 着るための仕事 ボタンつけ	まつり縫い 刺し子の花ふきん作り	衣類の保管	編み物の洗濯	食生活 食べるための仕事	朝食作り① 家庭のはたらき 家族の構成役割	消費者教育 家庭の経済 収入と支出	フレッシュマンコード 男女の仕事 思春期 大人への成長	私たちの環境 生活排水 ゴミ問題 私たちの住町	食べるための仕事 弁当作り②	住むための仕事 掃除の仕方 洗剤の扱い方
	２年	私たちの食生活 栄養所要量 各栄養素の働き	食品群別摂取量のめやす 間違えの原因と問題	食品の流通 コールドチェーン 生産者と 加工業者 食品添加物	調理実習① めんを用いた料理	夏の課題のまとめと発表 地域の食品	栄養バランスの良い献立を考える コンピュータで献立を組み 献立をつくってみよう	調理実習② 基本的に栄養のとれた一食分を作ろう	調理実習③ 魚を用いた料理	調理実習④ 小麦粉を用いた料理	課題解決にむけて	よりよい食生活をめざして
	３年	私たちと子ども 幼児の心身の発達	受精から誕生まで（0歳～3歳児） ◇保育実習	幼児の体の特徴 発達の特徴 運動機能の発達	幼児と遊び 遊びと発達 色水について おやつ作り①	幼児の遊び 遊び おもちゃ◇ 絵本製作 （実践下絵のアドバイス）	幼児の心の働き 情緒の発達 言語 認知発達	社会性の発達 ことばの発達 情緒発達	安全な遊び場所 おやつの実習②	手芸 ワンポイント 刺繍	おやつ作り③ 子どもが育つ環境 不適切な 社会環境	―→

～～はクロスカリキュラム ◇は体験的な活動として力を入れる単元

(3) 成果と問題点

各教科で指導法の見直し、教材・教具の工夫、改善に努めた結果、どの教科でも生徒が自ら生き生きと学習に取り組めるようになった。成果の一つとしては学習内容に体験的な活動を取り入れることによって、生徒の興味・関心が高まり、生徒個々の中により深い理解をもたらしたことがあげられる。

まず体験的な活動を取り入れた授業では、具体的な資料や実物を見せることで生徒の五感に訴え、知識として理解していたことが実際に見て触れて使いこなせるようになった。そのことが生徒の興味・関心をより高めることにつながった。また、家庭科での保育実習体験、社会科での模擬株取引体験、音楽科でのリズム創作体験などに取り組むことで、生き生きと学習課題に取り組む態度を育てることができた。

体験的な学習を一層進めるに当たっては、体験的な学習のあり方を確認するとともに、今までの指導法にとらわれない自由な発想へと転換を図り、多様な学習形態と弾力的な指導計画、教材の開発・工夫に積極的に努めていきたい。

次に、横断的な授業においては、本来二つの教科で別々に指導していた学習内容を一つに整理することで、時間的なゆとりをもたらすことができた。各教科の年間指導計画も、それぞれの教科目標の達成に支障のない範囲で、横断的かつ弾力的なものを作成した。そのために教科会を週一回時間割の中に設定したり、合同教科会を定期的に開催するなど教科間の連絡、連携を図った。生徒も横断的な授業をすることで、単独教科の授業の時よりも学習内容をより広く、より深く理解できた。教師にとっても、一体となって指導に当たることで教科間の交流が増え、生徒の興味・関心を生かした柔軟な学習形態を取り入れたり、生徒一人ひとりの学習を支援することができた。

今後、新教育課程への移行を見据えつつ、生徒の興味・関心に応じた体験的、横断的な学習をどう取り入れて行くべきか。生徒一人ひとり生き生きと活動できる授業のため、改めてどんな教材を、どれだけの時間をかけて、どの教科で学習していくか、多様かつ柔軟な発想で新しい授業を創造していきたい。

2、体験活動研究部

(1) 研究の経過

1年次は本校の行事の見直しを行った。「なすことによって学ぶ」場である行事の中で、特に名人に学ぶ会（1年）、職場見学（2年）、修学旅行（3年）、ふれあい活動（全学年）を体験的な行事と位置づけた。その中で生徒を生き生きと主体的に活動させることにより、生きる力の育成をめざすことにした。また行事の後に教師と生徒がきちんと反省を行い、次年度に生かすことを確認した。2年次は4つの行事のねらいや目的の検討を行いながら、実践し、終了後に反省を行った。3年次は特にふれあい活動を中心に、より主体的なものになるよう研究をすすめた。

(2) 4つの体験的な行事のねらい、取り組みの流れ、まとめ

① 名人に学ぶ会（1年）

1. ねらい

地域に住んでいる方で色々な技術を持っている方（名人）に、日常の生活や文化にまつわる物を作ることを通して、話を聞いたり、その技術を学ぶことで生徒自身の生き方を考える一助とする。また地域の方とのふれあいの中で開かれた学校をめざす。

2. 取り組みの流れ

生徒の希望アンケート実施

↓

（地域のいろいろな技術を持っている方【名人】との折衝）

（コースの設定）

↓
生徒個人が選択
↓
実行
↓
名人に対するお礼の手紙を書く、反省

3．まとめ（平成１０年度）

生徒の表情は真剣そのものであった。また楽しく生き生きと活動できたことが名人へのお礼の手紙から読みとることができた。教師側の事前の準備に多少の課題が残ったが、ねらいは達成できた。また、地域との連携という意味からも意義は大きかった。

② 職場見学（２年）

1．ねらい
1 生徒一人ひとりが、興味・関心のある職場を見学したり、仕事を体験することを通して、生き方や将来への目標を考える。
2 働いている人たちに接し、話を聞く中で、社会で働く大人の姿を知る。
3 申し込みから礼状の発送まで経験することで、社会生活の基本を学びとる。

2．取り組みの流れ
進路に関する事前学習
↓
自分の興味・関心のある職場を考える
↓
自分で職種・職場探し
↓
同じ職種・職場ごとのグループにまとまる
↓
訪問先に見学の申し込みをする
↓
グループによる綿密な行程の立案・検討
↓
実行
↓
報告書の作成、礼状の発送、反省

3．まとめ（平成１１年度）

生徒へのアンケートの結果を見ると、職場探し、訪問先へのアポイントメント、行程表の作成等への主体的な取り組みが「良くできた」が 90～95 %、全体的に「充実した」が 93 %と高く、ねらいを充分達成できたと言える。見学だけでなく実際に体験させてもらった生徒の方が得るものが多かったようだ。教師側の負担が大きい行事であるが、生徒にとっていろいろな意味で収穫の多い活動であった。

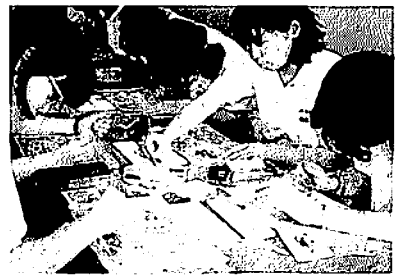
③ 修学旅行（３年）

1．ねらい
1 自主的、計画的な行動力を養う。

2 京都・奈良の歴史や伝統文化にふれ、知識を深めるとともに感性を養う。
3 社会の人々とのふれあいを通して、社会性や公徳心を身につけさせる。
4 中学校生活の思い出をつくり、よりよい人間関係を養う。

2. 取り組みのながれ

ビデオを使い事前学習
↓
京都・奈良で何を見たい、何を知りたい、何をしたいか一人ひとりが考える
2日目　班別自主行動、体験学習（夜）
3日目　個人選択による体験学習
↓
目的意識の明確化（なぜそれを選んだのか）
↓
実行
↓
反省



3. まとめ（平成１１年度）

生徒へのアンケートの結果を見ると、２日目の班別自主行動に 25% が「不満」と答えているが、その内容を見てみると、「時間が足りなかった」「もっと見たかった」「ゆっくり見れなかった」等、前向きの不満であった。３日目の体験学習の満足度が約 90% と高いのは、個人の選択がしっかり行われたためと考えられる。目的意識をしっかり持った生徒ほど充実感があったようである。生徒に選択させるための情報提供や目的意識を高める工夫に時間をかけることでより主体的な取り組みが可能となった。もう少しゆとりある日程づくりが課題となった。

④ ふれあい活動（全学年）

1. ねらい

自分たちが郷土に何ができるかを考えることから始まった空き缶拾いやごみ拾いを通して、生徒、教師、保護者、地域の方とのお互いの交流を深め、郷土愛、連帯感を養う。

2. 取り組みの流れ

本校のふれあい活動の歴史を学ぶ
学級委員が生徒会から出た実施要項をクラスで説明する
（目的、当日の動き、ゴミの分別、準備する物等）
↓
色別の縦割り集団別に活動場所を決める
↓
クラスの活動場所を決める
クラスでグループ作り、役割分担をする
↓
実行
↓
反省

3．まとめ（平成１０年度）

アンケート結果では、約７０％の生徒がカンやゴミをよく拾ったとなっているので、ねらいは達成できたと思われる。しかしながら、事前の指導や生徒委員会の関わり等、もっと主体的な活動となるような工夫が必要である。

(3) 成果と問題点

生徒一人ひとりが生き生きと活動できる場づくりとして、行事の中から、1年『名人に学ぶ会』、2年『職場見学』、3年『修学旅行』、全学年『ふれあい活動』をそれぞれ考え、研究を進めた。これは、それぞれの行事が持つ体験的な活動が、生徒に意欲を与え、主体的な行動を身につけたり、学ぶことの楽しさや成就感を体得させるうえで有効であると考えたからである。その実践内容については、体験活動研究部の実践を参照していただきたい。

さて、各行事を通して、生徒はさまざまな体験活動をした。アンケート結果からもわかるように各行事のねらいは、おおむね達成され生徒が生き生きと意欲を持って取り組んだ様子がうかがわれた。生徒の声からも『やってよかった』『楽しかった』『ためになった』等、充実感あふれる感想が多かった。生徒がやらされていると感じる行事では、なかなか充実感を味わうことができないことを考えると、これらの行事に対して、いかに生徒が主体的に取り組んだかがわかる。これは、本研究の大きな成果といえよう。

また、研究を続けていく中で、主体的な行事の創造のためには、絶えず『あなたは何をしたいのか』を問いかける場面を取り入れることが、重要であることに気がついた。すなわち、生徒一人ひとりが自ら考え、自分のやりたいものを明確にさせることによって、個々の主体的な取り組みがはじめて可能になり、それが生き生きとした活動につながっていくと思われたからである。

『一人ひとりが生き生きとした主体性のある行事』

君は、何をしたいの

↑

一人ひとりが考え、自ら選択する

ところで、『あなたは何をしたいのか』を個々に追求させていく場面では、もちろん個人の選択を重視することは当然であるが、生徒のやりたい希望をできる限りかなえ、それを生かせる方策を考えていくことがとても大切なことになる。たとえば、選択肢をたくさん設けることや、場合によってはクラスの枠にとらわれないこと、また、班別活動をする場合でも生徒が選択する過程では、常に個人選択重視の観点から班編成をおこなうことなどである。いずれにせよ、各行事の中で生徒一人ひとりが選択する場をたくさん持つことによって、自分自身の興味関心を追求することができ、学習内容が深められた。また、選択する力も育ち、他に依存することなく自分で考え行動する力がついたことも大きな成果としてあげられよう。

しかし、ふれあい活動が、他の行事にくらべるとやや主体性に欠けるという昨年度の反省があった。ところが、本年度６月のふれあい伊中（いなか）まつりにおいて、生徒会の呼びかけに応じて多くの生徒が自発的に参加し、積極的に活動した。これは、地域の人たちとのかかわりを積極的に求めようとしている芽が育っていることの表れと考えられる。このような子どもたちの持つ潜在的な力をふれあい活動においてどのように引き出していくか、研究をすすめている。

平成１１年度 行事計画

月	儀式的	生徒活動	遠足等（体験的学習）			健康安全	学　　習	その他
４月	着任式 始業式 入学式 離退任式	対面式 新入生 オリエンテーション	１年	２年	３年	身体計測 各種健康診断 交通指導		ＰＴＡ総会・授業参観
５月		色別抽選会	遠足			各種健康診断 避難訓練	中間テスト	家庭訪問 部活動懇談会
６月		生徒総会		職場見学	修学旅行	各種健康診断 貧血検査	期末テスト	教育実習 ２，３年保護者会 学級懇談会 伊中まつり（授業参観）
７月	終業式	壮行会	学	年　活	動		性教育講演会（３年） 人権授業	保護者個々面談
８月								
９月	始業式	体育祭 壮行会				避難訓練	９組キャンプ	授業参観・学級懇談会 市民一斉清掃
１０月		文化祭					中間テスト 平和学習会	地域ふれあい（運動会）
１１月		生徒会選挙					性教育 （１，２年）	
１２月	終業式	ふれあい活動	名人に 学ぶ会	学　年	活　動		期末テスト ９組クリスマス会	保護者個々面談
１月	始業式						性教育（１，２年） １年移動教室	
２月							入社試験 学年末テスト 高校入学試験 ９組３年生を送る会	２年保護者会・懇談会
３月	卒業式 修了式	生徒総会			校外学習		学習状況調査 （２年）	地域ふれあい（清掃）

＜その他＞

全校朝会（原則月１回）、学年集会、安全点検（原則月１回）、あいさつ運動・交通指導（テスト前１週間）

生徒委員会、中央委員会、伊中タイム（原則月１回）

Ⅲ　今　後　の　課　題

生徒一人ひとりが生き生きと活動できる場を授業と行事に設定し、特に体験を通して生きる力の育成をめざしてきた。授業においては、意図的な年間指導計画を考えるにあたり基礎・基本の確認が各教科でなされた。今後は生涯学習の基礎となる自己教育力の育成という観点から、学習の仕方を学べるような指導法の研究も深めていく必要があろう。

次に２００２年に導入される総合的な学習に関わるところを述べたい。

「総合的な学習」は、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」をねらいとしている。体験的な学習として取り上げた家庭科３学年の保育は、このねらいに合った学習ではないかと考えている。生徒は２時間の保育実習で子どもたちとふれあい、予想もしなかった問題にぶつかったり感動したりして、色々なことを学んで帰ってくる。そして下絵の段階で美術科の先生にアドバイスをしてもらい、その子たちのために絵本を作る。

本校で実践している他の横断的な授業は、総合的な学習への土台作りと考えている。教科の枠を取り外さずに行ってきたが、教科の枠にこだわらず、あるいは意識的に枠を外したりして、学習内容を設定していけば総合的な学習となっていくのではないかと考える。その内容設定において生徒の関わりをどのようにするかということは今後の課題であろう。また本校では今までの横断的な授業への取り組みを通して教師間の横のつながりができている。そのため容易に協力体制が取れ、総合的な学習に取り組むにあたって環境づくりができているのではないかと考える。今後の可能性を述べ、今後の課題としたい。

例えば次のようなことが考えられよう。

理科 —— 技術（２年）　→　「電気に関する安全教育」
国語 —— 技術（３年）　→　「新聞を作ろう」
音楽 —— 英語（２年）　→　「世界の音楽」

また１１月に保体 —— 理科（２年）で「環境の保全」を横断的な授業として行っているが、さらに発展的に扱うことができる。各教科の年間指導計画の中から教育課題の一つである「環境」に関わる単元を拾ってみると以下のようなものがある。

国語３年	１月	日本のゴミ
１年	１０月	治水
理科３年	３月	地球の環境、自然界の調和
社会３年	１２月	環境と資源
１年		世界とその諸地域、身近な地域、日本とその諸地域
英語２年	９月	I'm a tree.（森林伐採）
	１２月	地球にやさしく（電池、プラスチック）
家庭１年	１月	私たちの環境（排水、ゴミ問題）
技術１年	４月	木材と私たちの生活

これらを１２月と１月の２か月を「環境の月」として集中的に且つ意識的に扱う（横断的な学習）とか、例えば１年では排水、２年ではゴミ、３年では資源、のように教科の内容と関連づけ、整理して学年別に特設時間に扱うとか、あるいは教科の枠を考えずに環境について、私たちが生徒に考えてほしいあるいは生徒自身が取り組んでみたい内容を検討し、それを各学年に発展的に割り振り、総合的な学習の時間を各学年で設け、そこで扱い、内容的に関わる教科がその１部を受けもつとか、色々な取り組みが考えられる。さらにそれらに体験的な行事である「ふれあい活動」をからめることもできる。また教科間だけでなく道徳や学級活動と関連づけて扱うこともできる。

また本校の体験的な行事は、現在のままあるいは手を加えれば総合的な学習に移行できると考える。特に２学年で実施している職場見学が総合的な学習そのものではないかと考える。職業について理解を深め自分の将来について考える、いわゆる進路学習に加え、希望する職場への電話での申し込みから礼状発送までを経験し、礼儀や約束の時間の厳守等社会生活の基本を体験的に学ぶ絶好の機会となっているからである。また「自己の生き方についての自覚を深める」という「総合的な学習」のねらいとも合致している。

色々な取り組みの可能性を述べてきたが、最後に２００２年に向けての本校の具体的な取り組みについて触れたい。まず今まで行ってきた行事や人権学習などの特別授業の中で、そのまま総合的な学習となりうるものや手を加えればそうなりうるものを検討し

選び出す。また今まで実践してきた横断的な授業の中からもどれをどのように発展的に取り上げ、総合的な学習としていくか検討する。その際、本校の学校教育目標即ち本校の期待する生徒像という観点から検討されなければならないことは言うまでもない。また教科から特別に時間を取ってやりたいことの希望を募り、調整していくことも出てこよう。総合的な学習に充てられる各学年最低７０時間という枠を考えながら、それらを総合的に検討し、決めていくことになるのではないかと考える。

1、2年次の研究の経過

1年次及び2年次の研究経過

平成9年度（1年次）

4.11　第1回研究推進委員会
　職員アンケートについて
4.17　第2回研究推進委員会
　アンケート結果、今後の見通しについて
4.28　第1回校内研究全体会及び学年会
　アンケート結果、研究領域について
5.8　第3回研究推進委員会
　学年会での話し合いの結果をもとに研究領域、研究テーマ、研究組織について検討
5.21　第4回研究推進委員会
　伊勢原市教育委員会指導室長招請
　　今後の教育の基本的な方向、これからの学校教育、校内研究の方向等について
　研究テーマ、研究組織、研究内容、当面の研究予定について
5.29　第2回校内研究全体会
　研究テーマ・研究組織を決定、当面の研究予定について
6.6　第5回研究推進委員会
　研究組織の人的配置、研究内容、次回研究会について
6.9　伊勢原市教育委員会指導室長招請
　本校の研究について
6.18　第6回研究推進委員会
　研究内容（方向性）、おおまかな研究計画、研究の全体構造について
6.20　職場見学（2年）
6.26～28　修学旅行（3年）
7.1　第3回校内研究全体会
　研究組織の確認、研究内容（全体構造）・おおまかな研究計画を決定
　校内研究部会
　　研究内容の確認、今後の研究予定（特に夏休み中にやっておくこと）について
7.11　第7回研究推進委員会
　校内研究部会からの報告、2学期の研究予定について
7.14　職員会議
　校内研究部会からの報告、9月の研究予定の確認
9.8　第8回研究推進委員会
　9月の研究予定、研究テーマ設定の理由・研究のねらいについて
9.19　第4回校内研究全体会
　研究テーマ設定の理由・研究のねらいの確認
　校内研究部会
　　①授業研究部会
　　各教科の関連状況の把握
　　3グループ（国美社、理体技、音数英）に分けて研究をすすめることを決める
　　②体験活動研究部会
　　行事の精選について
　　行事の後に生徒と教師にアンケートを取り、改善していくことにする

１０．７　第９回研究推進委員会
今後の研究の方向、研究先進校訪問について
１０．１３　校内研究部会
１０．１７　伊勢原市教育委員会による学校訪問
研究状況の報告
教科会
１１．１２　第１０回研究推進委員会
今後の研究（２、３学期）、研究先進校訪問について
３学期に校内研修会を持つことを決める
１１．２１　東京都渋谷区立上原中学校訪問
１１．２６　第５回校内研究全体会
上原中学校の研究を報告
校内研究部会
①２グループ（国美社音英、理体技数）に編成し直す
②各学年の行事は固定化していくことにする
１２．８　第１１回研究推進委員会
校内研究部会からの報告
研究の見通しについて
３学期の校内研修会について
１２．１１　校内研究部会
①連携や乗り入れなど実践できることを具体的に検討
②体育祭、文化祭について反省アンケートをもとに検討
１２．１９　ふれあい活動（全学年）
１２．２０　名人に学ぶ会（１年）
１．１３　第１２回研究推進委員会
今後の研究について
(1) 本年度中にまとめておくことについて
(2) 来年度の見通しについて
(3) 研究テーマ、研究組織などについて
１．２３　第６回校内研究全体会
各部会から今までの取り組みの報告
・各部会が本年度中にまとめておくこととその日程について確認
教科会
連携や乗り入れなど実践できることを具体的に各教科で詰める
２．４　校内研修会
岩間和子先生（横浜市立小田中学校）を招請し、クロスカリキュラムについて校内学習会を開く
２．６　第１３回研究推進委員会
本年度中にまとめることの確認
今後の研究について
(1) 授業研究について
基本的には全教科研究授業を行う
・教科の連携～決定された年間計画に従って行う
・指導法等の工夫～「主体的に学ぶ」を基盤に、
「体験的に」「できるだけ実物を使って」
(2) 研究のゴールについて
研究テーマ、どこまで研究をすすめるかについて
全体構想図について
(3) 研究組織について
２．１３　校内研究部会
①連携や乗り入れなど来年度実践することの検討、調整、決定
②本年度の研究のまとめ及び体験的な行事の意義の確認
３．６　第１４回研究推進委員会
(1) 本年度のまとめの検討（各部会、全体）

(2) 来年度の授業研究[指導法等の工夫]について

3.17　第7回校内研究全体会
本年度の研究のまとめ（各部会及び研究推進委員会より）
来年度の研究について

3.18　岐阜県郡上郡八幡町立八幡中学校訪問

平成１０年度（２年次）

4.10　第1回研究推進委員会
昨年度の研究の確認、研究組織について、今後の授業研究について

4.13　第1回校内研究全体会
昨年度の研究の確認、研究組織について、
今後の研究について
①授業研究部
・教科の連携　～　昨年度決定したことを実践
・指導法等の工夫・改善　～　各教科1回は行い
参観と反省会を行う
②体験活動研究部
4つの体験的な活動の目的やねらいの検討
事後の反省

5.8　第2回研究推進委員会
指導案及び反省用紙について、授業研究の年間計画について、
次回研究会について

5.12　第2回校内研究会
研究全体会
指導案・反省について、授業研究の年間計画について
研究部会
①各教科で体験的な活動を洗い出す
②行事終了後の反省やアンケートの検討、行事の記録について

6.3　職場見学（2年）

6.11～13　修学旅行（3年）

6.5　第3回研究推進委員会
2年次の研究への取り組みの確認
次回研究会について

6.23　第3回校内研究全体会
2年次の取り組みの確認
今までの授業実践報告と話し合い
理科ーー技術科(4月)、家庭科(5/18)、美術科(6/12)
各教科からの体験的な活動を取り入れられる単元についての報告と話し合い
今後の予定

7.1　第4回研究推進委員会
「体験」について確認、次回研究会について
今後の研究について

7.8　第4回校内研究全体会
市教育委員会より渡辺、柴田両指導主事を迎え、2年次の研究の概要の報告を行い、助言を受ける

9.18　第5回研究推進委員会
3年次の研究について、研究のまとめ方について
次回研究会について

9.28　第5回校内研究会
今後の研究について、研究のまとめ方について
今までの授業実践報告と話し合い

音楽(9/16)、国語ーー社会(9/30)
教科会
１０.８　第６回研究推進委員会
授業研究について、次回研究会について
先進校の研究発表会への参加、視察について
１０.２１　第６回校内研究全体会
研究全体会
研究授業について提案
11/6（社会）、11/18（体育ーー理科）に研究授業を行い、全員で参観し、研究会をもつ
今までの授業実践報告と話し合い
国語(10/5)
研究部会
①今後に予定されている授業について話し合い、具体的に詰める
②４つの体験的な活動の目的やねらい及び系統化を検討する
１０.３０　横浜国立大学付属鎌倉中学校の研究発表会に参加
１１.６　社会科研究授業、全員参観
１１.１１　第７回研究推進委員会
次回研究会について
体験活動研究部からの提案について
横浜国立大学付属鎌倉中学校の研究発表会の報告
１１.１８　体育科（ーー理科）研究授業、全員参観
第７回校内研究全体会
市教育委員会より渡辺指導主事を迎え、研究会をもつ
参観した２つの研究授業（体験を取り入れた授業と横断的な授業）について
横浜国立大学付属鎌倉中学校の研究の報告
１１.１９　福島県三春町立沢石中学校訪問
１１.２０　筑波大学付属駒場中学校の研究発表会に参加
１２.７　第８回研究推進委員会
次回研究会について、３学期に取り組むことについて
１２.１１　第８回校内研究全体会
体験活動研究部より体験的な行事の３年間の流れについて提案
授業研究について
今までの授業実践報告と話し合い
数学ーー理科、保体ーー理科（共に11/26）
指導案（評価項目）について
「主体的」について話し合う
３学期に取り組むことについて
１２.１９　名人に学ぶ会（１年）
１２.２１　ふれあい活動（全学年）
１.２０　第９回研究推進委員会
「主体的」と思われる行動について、
３学期に取り組むことについて、次回研究会について
１.２９　第９回校内研究全体会
今までの授業実践報告と話し合い
数学(1/14)、家庭科ーー美術(9月、1月)、
英語ーー家庭科(1/29)
体験的な行事の反省
名人に学ぶ会(12/19)、ふれあい活動(12/21)
「主体的」と思われる行動について
３学期に各教科で取り組むことについて
・体験的な活動を取り入れられる単元について、本年度の反省と来年度の計画

・研究授業以外での実践のまとめ
・横断的な授業について、本年度の反省と来年度の計画
・２年次の反省

２．２　第１０回研究推進委員会
２年次のまとめについて、来年度の取り組みについて
次回研究会について

２．１５　合同教科会

２．１７　第１０回校内研究全体会
今までの授業実践報告と話し合い
技術科(2/15)、英語ーー音楽(2/16)
合同教科会の報告
教科会

３．１２　第１１回研究推進委員会
２年次のまとめの検討、来年度の取り組みについて
次回校内研究会について

３．２３　第１１回校内研究全体会
２年次の研究のまとめについて、来年度の方向性について

授業研究部の実践

A　体験的な活動を取り入れた授業

国語科学習指導案

指導者　田中泰子

1　日　時　　平成１０年１０月５日（月）　第５校時

2　学年学級　　中学２年２組　（男子２１名　女子１６名　計３７名）

3　単元名　　自然の中で　　「暴れ川を治める」　私もニュースキャスター
　　説明的文章を活用して、「話す力」を育てる

4　単元の目標・自然と人間との関わりについて書かれた文章を読み、自分の考えを持つ。
　　・説明的文章を活用して、「話す力」を育てる。

5　単元の評価基準

関心・意欲・態度	我が国の治水の文化について関心を持ち、進んで作品に親しみ、話し合いに参加しようとする。
表現	話し合いの話題をとらえ、自分の考えを分かりやすく話すことができる。
理解	文章の展開に即して要点を整理し、筆者の考え方を的確にとらえることができる。
言語事項	語句の文脈上の意味をとらえることができる。

6　単元の指導と生徒の実態

（１）単元の指導について

自然と人間との関わりは密接で深い。しかし、人間中心の傲慢な仕業により、自然の呻き声や叫びが聞かれて久しい。日本の川も例外ではない。「暴れ川を治める」という、説得力あふれた文章を読み、現代的な課題を考え、自己の考えを明確に持って表現していくという学習過程に、これからの情報発信者を育てる意図を見いだしたい。

（２）生徒の実態について

明るく、向上心に富む生徒が多い。自由活発に発言行動しながらも、お互いをクラスの大切な一員として意識して生活をしている。感じたことや考えていることを文章化することにたけた女子が多い一方で、男子は好奇心旺盛で、自分たちの生活や世の中の動きと、今学習している事柄とをうまく関連づけながら発想していくことにかけてはレベルが高い。例えば、短文づくりではユーモアにあふれバラエティに富んだ文がつぎから次へと生まれ、時間が足りなくなるのはいつものことである。その瞬間、瞬間の積み重ねをクラス全体で楽しんでいる。

7　教材について

これからの情報化時代、国際化時代においては、自分の意見や主張を論理的かつ的確に表現する「話す力」はますます必要不可欠のものになるだろう。しかし、中学生や若者をとりまく現状はなかなかきびしい現状である。
さらに、説明的文章を扱った授業は、ともすれば読解中心に傾きがちで、学習者にとっては「楽しい授業」にほど遠いものになりかねない。
そこで今回は、環境問題に真正面から取り組んだ「暴れ川を治める」の学習に、ニュース番組をまねて「話す」活動を取り入れることにした。自分がニュース番組の出演者の１人になったつもりで、読みとったことを聞き手に分かりやすく伝わるような発表原稿を作り、それをクラスのみんなの前で発表するという活動を通して、意欲的で創造的な学習をめざしたい。

8　指導計画（８時間扱い）

理解 ① 初発の感想を持ち、学習の視点に気付く。　（１時間）
　② 文章の構成を考え、ワークシートを用いて、内容を理解し、まとめる。（２時間）
　③ 「水を大地に返す」をキーワードとしてとらえ、自然と現代に生きるわたしたちとの関わり方について確認する。　（１時間）
表現 ① ニュース番組の構成を知り、「基本台本」を読む。　（１時間）本時
　② 配役にそって話す内容を原稿にし、練習する。　（２時間）
　③ 発表会を持ち、評価する。感想をまとめる。　（１時間）

9　本時の指導（第５時）

（１）本時の目標

「ニューススティション」方式によって、主体的に読ませる。

（２）本時の評価基準

関心・意欲・態度	仲間と協力して発表原稿を書こうとする。	〔１〕
表現	自分の役割にそって、分かりやすく伝えるための原稿を書く。	〔２〕
理解	文章の要旨をとらえ、筆者の考え方を理解できる。	〔３〕
言語事項	自分の役割にそって、相手に応じた言葉遣いができる。	〔４〕

（３）本時の指導について

ニュース番組の流れや配役の実際を、ＴＶのＶＴＲを見せることにより、印象深く理解させる。特に、トップニュースは、事件性や話題性があり、中学生でも容易に理解できるインパクトのあるものが必要であろう。

次に、グループに分かれて配役を決める際、お互いの希望や個性を踏まえて決めることができるよう、協力して話し合いを持てるようにしたい。

（４）本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	本時の学習の確認	「暴れ川を治める」の内容をニュース番組にしてみんなに伝えることを確認する。	具体的なニュース番組をあげて、意識付けを図る。	話し合いに参加しているか。〔１〕
展開	ニュース番組の構成を知り、「基本台本」を読む。	ＶＴＲを視聴する。 構成を確認する。 ニュースの紹介と説明 現地からのレポート 識者によるニュースの解説 基本台本を読み、課題の意味を知る。	自分たちが読みとったことを、ニュース仕立てで、表現することの意義を理解させる。	班の仲間と協力して、活動することに意欲を感じているか。〔１〕
	配役を決める。	配役と段落の担当を確認する。 Ａ　Ｍキャスター Ｂ　Ｓキャスター Ｃ　レポーター１ Ｄ．レポーター２ Ｅ　大学教授 Ｆ　評論家	班員のお互いの個性や希望を踏まえて配役を決めていくようにさせる。 台本の内容と本文の段落、ワークシートの設問が一致していることを気付かせる。	同上　〔１〕 段落の要旨をとらえ、筆者の考え方を理解しているか〔３〕
	他のクラスの発表のＶＴＲを見る。	ＶＴＲを見て、自分の役のイメージをふくらませる。	発表で工夫していたところを見つけて、取り入れるよう助言する。	他の良いところを取り入れる姿勢があるか。〔１〕
	原稿に取りかかる	配役にそって、話す内容を原稿にし、練習する。	ワークシートの内容を参考にさせる 必要な資料等を準備する。 参考図書 写真	相手に分かりやすい文章であるか。〔２〕 配役にそった言葉遣いができるか。〔４〕
まとめ	次時の予告	練習と発表のために必要なことや準備するものを確認する。	説明に使用する資料や小道具の大切さを知らせる。	

研究授業を終えて

1，授業者（教科）	田中泰子　（国語科）
2，日時	平成10年10月5日（月） 5校時　1年2組
3，単元	自然の中で「暴れ川を治める」　私もニュースキャスター
4，関連する教科と単元	

5，授業をふりかえって

（1）生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

事前の準備がなされていたため、発言が多かった。番組の配役決めもスムーズに行われた。

2，生徒の活動

話の進め方はプリントになっていたので、やるべき内容が明確で、とまどうこともなく活動できた。しかし、原稿書きに取り組む前に、配役とプリントの設問を再確認させたのは、個々の読解の場を奪ってしまったきらいがある。

あらかじめ、ＶＴＲで他のクラスの発表の様子を見たことで、全体像がつかめたし、より興味が増したようだった。

3，生徒の興味、関心

環境問題に真正面から取り組んだ「暴れ川を治める」の学習に、ニュース番組をまねて「話す」「聞く」の活動を取り入れた。自分が番組の出演者になったつもりで話し、視聴者になったつもりで聞くというのが面白いらしく、意欲的に取り組んでいた。

（2）その他話し合われたこと

・ニュース番組の台本のプリントができていたので、取り組みやすかったようだ。
・実際に発表を行った後の生徒の感想より
「とっても楽しくみんなの特徴が出ていた。こういった授業をまたやりたい。」
「１回こういうのをやってみたかったので、楽しかったです。」
「おもしろかった。いい経験をした。」
「とても楽しかった。みんな手の込んだことをしていて、楽しかった。今度は図書室じゃなく、レポーターとかを違う場所でやったり、本物みたいにしたい。このようなこと（授業）をもっとやりたいと思った。」

国語科　その他の実践

1年

(1)古典を楽しむ　「百人一首」

百人一首の中から自分の好きな歌を1首選び、B5の厚紙に読み札、取り札のカードを作る。その後、そのカードを使って班でカルタ取りをしたが、手作りのカルタ遊びは、愛着があって興味深かった。

(2)ともに生きる　「一万羽のコハクチョウ」

北海道の吉田さんに手紙を書き、学年委員会が募った「白鳥募金」をえさ代として、寄付した。なかなか文章の苦手な生徒も、一人残らず心のこもった手紙を書くことができたし、初めて、便せん、封筒に書いた生徒もいて、よい学習になった。

2年

①文学に親しむ　「短歌に親しむ」

教科書掲載の短歌から自分の好きな歌を選び、鑑賞画、鑑賞文を書いた。廊下に掲示し、お互いに鑑賞し合った。

同じ歌を選んでも、選んだ理由や表現方法の違いに、個性が表れていることに感動したようだ。

②「新聞を作ろう」

身近な話題を記事にした新聞づくりに各々が取り組み、教室に掲示した。お互いに読み合って、理解を深めた。

記事の選び方や、割付の違い、見出しやイラストなどさまざまな苦労をしたができたときの喜びはひとしおだったようだ。

3年

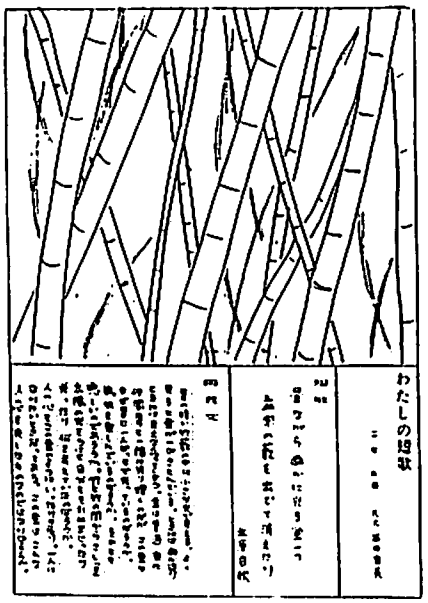
①文学を味わう　「故郷」

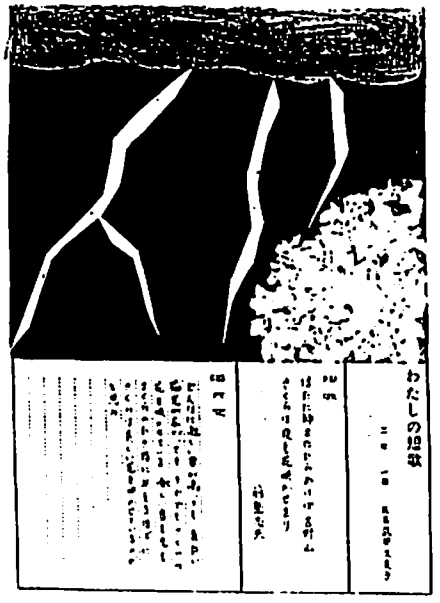
小説「故郷」の時代背景を調べたり、作品を分析した内容を、ニュース形式の台本にあわせて、自分が担当する配役の原稿を書いた。（例　メインキャスター　サブキャスター　レポーター1、2　魯迅　ルントウ　わたし　など）

その後、班ごとに発表すると同時に、友達の発表を聞いて評価カードに記入し、終了後お互いにカードを交換した。（VTR撮影）

②文学を味わう　「レモン哀歌」

班ごとに、読みとった内容を群読で表現し、お互いに評価し合い、カードを交換する。（VTR撮影）





2年の「短歌に親しむ」

3年 ①「故郷」

「故郷」リプキャスター　三年一組一班

離郷直前、灰の山から食器類が掘り出されました。誰の仕業か、確証はありませんが、私は次のように考えています。
[illegible]

※ [illegible]の仕事というのは、とても新鮮で冴えてひきつけられます。しかも※の部の説得力は素晴しいです。独創性へ拍手!!!

[illegible]
それでもやはり子供だから、罪悪感を感じていたことでしょう。それにしても悲しいことですね。

Bサブキャスター （　　）	どうもありがとうございました。全く二人の再会の場面はこの小説のクライマックスでありながら、「悲しむべき厚い壁」という深い絶望が横たわっていますね。 ところで、離郷直前、灰の山から食器類が掘り出されました。誰の仕業か、確証はありませんが、実は私は次のように考えています。 （原稿の例、左の作文） 以上です。
Aメインキャスター （　　）	それでは、これでスタジオあの世からの中継を終わります。 どうもありがとうございました。 「故郷」の離郷の場面では、作者は「私」に「名残惜しい気はしない。」と断言させています。帰郷から離郷までの小説全体の世界が「寂寥、寂寞」感に貫かれていることをまさに実感できますよね。 しかし、最後には、社会全体への「私」の「希望」が述べられて小説が完結するのですが、このことについて私達（私）は次のように考えました。即ち、

3年 ② レモン哀歌

群読の試み

三年1組2班

メンバー フルネーム
[illegible]

一、群読の方法:なぜそのような読み方にしたか理由を記入しなさい。脇に記しおきましょう。

レモン哀歌

高村光太郎

そんなにもあなたはレモンを待っていた
かなしく白くあかるい死の床で
わたしの手からとった一つのレモンを
あなたのきれいな歯ががりりとかんだ
トパアズいろの香気が立つ
その数滴の天のものなるレモンの汁は
ぱっとあなたの意識を正常にした
あなたの青く澄んだ眼がかすかに笑う
わたしの手を握るあなたの力の健康さよ
あなたの咽喉に嵐はあるが
こういう命のせとぎわに
智恵子はもとの智恵子となり
生涯の愛を一瞬にかたむけた
それからひと時
昔山巓でしたような深呼吸を一つして
あなたの機関はそれなり止まった
写真の前に挿した桜の花かげに
すずしく光るレモンを今日も置こう

二、自分たちの発表はいかがでしたか。話しあって感想を記入しなさい。

もっとくり返しや、ところどころで読むところを増やせばよかった。読み方、声の大きさとか声の出し方が思い通りにいかず [illegible] 人がいた。[illegible]

三、他の班の発表を聞いてどう感じましたか。話しあって感想を記入しなさい。

6班の「あなた」「わたし」がきれいで、いそっていてよかった。1班の「がりり」がよかった。どの班もリズミカルによく[illegible]ていたと思う。どの班も声が小さいと思う（上）

社会科（公民的分野）学習指導案

授業者　黒田　努

1、日　　時　　平成10年11月6日（金）　第6校時

2、学　　級　　3年7組　（男子20名　女子18名）

3、場　　所　　視聴覚室

4、単　　元　　第1章　第4節　現代企業のしくみ

5、単元目標　　①資本主義における企業の生産活動は、拡大再生産を続け株式会社のしくみを利用して、自由競争のもとで利潤の追求をめざしている。その中にあって企業は、資金をどのように融通していくのか学び取らせる。
②利潤を追求する企業間の競争が資本主義社会の原動力となっていることを理解させる。また、その競争の中でおこる景気変動の原因や企業の集中によって引き起こされる国民生活の影響なども考えさせる。
③株式学習ゲームを通して政治、経済、社会のいろいろな面に興味、関心を持たせる。

6、単元計画　　株式会社・・・・・・・・・・・・・1時間（本時）
株式学習ゲーム・・・・・・・・・・1時間
企業と金融・・・・・・・・・・・・1時間
企業の活動と景気変動・・・・・・2時間
企業の集中と現代の日本の企業・・1時間
合計　6時間

7、本時の目標　　株式会社は、より多くの資本を集めるために株式を発行していること、並びに株式への投資は資産運用のひとつの有効な手段であることをつかませる

8、学習過程

学習活動	活動への援助	評価
◎生産→流通→消費の流れの中で本時は生産活動の主体である企業についての授業であることを確認する ・私企業と公企業について簡単にふれる		
企業が生産活動するためには何が必要だろうか		
◎資金、土地、労働者（生産の三要素）が必要であることを知る ↓ ◎設備投資や研究開発にかかる多額の資金をどのように集めるのか考える	◎できる限り考えさせ発表させたい 土地や労働者に関してはあまり深入りせず、資金＝資本が大切であることを確認させる	単純かつ柔軟な考えができ発言する
多額の資金はどのように集めるのだろうか		
◎株式会社のしくみを理解する ・株式や株主について説明を聞く 株式の発行により資金を得る、株主は経営に参加し配当を得る ◎株が売買されていることを知る ・証券取引所について説明を聞く ・株価が上下することを知る	◎具体的な例をあげながら株式を発行する意味を考えさせたい ◎プリント資料やOHP資料を使いながら説明をする ◎指導者の体験をもとに株の売買について説明をする ◎株価の上下に関しては需給関係の説明にとどめあまり深入りしない	株式会社のしくみを理解する 説明をしっかり聞く 説明に疑問を持ち発言する
君も株主になってみよう		
◎実際に資金を500万円として 株を買ってみる	◎資料を使い株の売買のしかたを説明する ◎数日前の株式欄と本日のそれをくらべて資産がどのように変わったか確かめさせる ◎単に投資のテクニックを教えるのではなく株式売買は資産運用の有効な方法であることを知らせる	説明をしっかり聞き作業に積極的に取り組む 正確に株が買える

資料　OHP　　株券、朝日新聞株式欄
　　プリント　　朝日新聞株式欄
　　実物　　日本長期信用銀行株券

楽しくよくわかる公民　NO26　組　名前

現代企業のしくみ

〈株式会社〉

☆公企業と私企業

公企業・・・営利を目的としない、国や都道府県、市などが営む

私企業・・・営利を目的とする民間が営む

■1　企業が生産活動をするためには、何が必要だろうか→

◎規模の大きいすぐれた生産設備や新商品の開発に向けての研究

↓

多額の資本が必要

↓

■2　君も株主になって、株式会社の経営に参加しよう

資金は500万円　　株の価格は終値で買う

月　日

	買いたい銘柄（企業）	1株の価格		株数	買い付け金額
1			x		円
				今日は（	円）
2			x		円
				今日は（	円）
3			x		円
				今日は（	円）

株式を売買する

ルール

・元手となる資金は500万円

・投資対象銘柄は東京証券取引所市場第1部銘柄の中から選ぶ

・売買はすべて銘柄ごとに決められた最小売買単位の整数倍でおこなう

1単位

無印　1000株（額面50円の株券）

印　100株（額面500円の株券）

サカタのタネ、アラ石、大東建、新日空調、伊藤園、ユニチャム、リンナイ、マブチ、ソニー、アイワ、京セラ、セガ、任天堂、アデランス、サークルK、ニジマ、Fマート、ヨークベニ、オートバックス、イニロハット、ミニストップ、アコム、日栄、オリックス、東電、東急、テムニ、ニナミなど

太　1株（額面50000円の株券）

JT、NTT、DDI、日テレニム、NTTドコモ、JRなど

・必ず当日の朝刊（東証の終値）を基準とする

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	黒田 勢（社会科）
2、日時	平成（10）年（11）月（6）日（金） （6）校時　（3）年（7）組
3、単元	公民分野『国民生活の向上と経済』第4節「現代の企業のしくみ」
4、関連する教科と単元	

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1. 発言や話し合い

企業が生産活動を始めるにあたって、何が必要かという最初の発問への反応や、新聞の株式欄を用いた資料に対する質問・並びにさまざまな経済的事項に対する素朴な疑問が活発に出され、教師がほぼ意図した通りの流れで授業を進めることができた。

2. 生徒の活動

新聞の株式欄を用いた資料から自分の興味ある企業の状況を把握しようと活発に活動した。そのため机間巡視する教師に積極的に質問していた。

3. 生徒の興味、関心

日本長期信用銀行の実物の株券を見せたことで急速に興味・関心が高まり、授業後の株式模擬売買にうまくつなげることができた。

(2) その他話し合われたこと

・具体的な資料、とりわけ実物（日本長期信用銀行の株券）を使用することにより生徒の興味・関心を高めることができた。

・実際に株式の模擬売買をすることで生徒が主体的に取り組む授業を実現することができた。

社会科　その他の実践

1）2年　単元名『文明のおこり』

《火おこし・土器づくり》体験

人類が道具を獲得し使いこなすために、どのような苦労や工夫をしたかを、体験を通して理解させようとした。

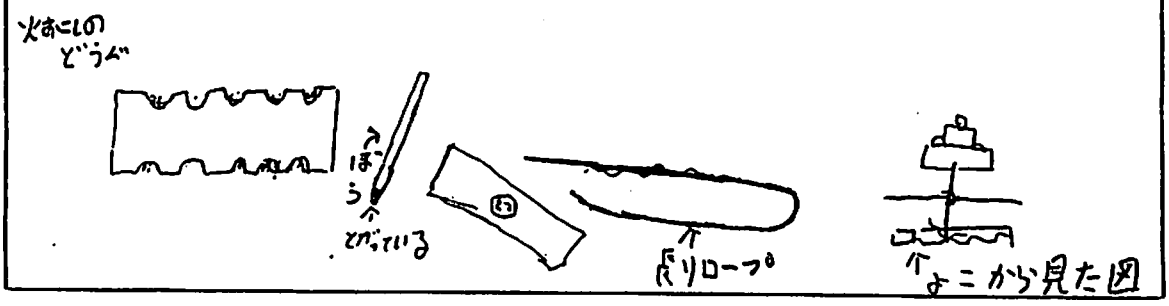
「火おこし」は生活班を単位として、2学級合同のティームティーチングで行い、「土器づくり」は別の時間に各学級で行った。

以下、その授業の感想である。

火おこし・土器づくり

火おこしの感想を書いてください。

大昔の人々は、火を、おこすのに、こんなめんどくさいことをするんだな
と思った今はライターやマッチ、ですぐつくからそう思ったのかもしれないけど、
大昔の人々の火のおこし方はけっこうおもしろかった。
こん度またやりたい。そしてまたやれたら、先生の力をかりずに火を、おこしたい。



土器づくりの感想を書いてください。

・社会の教科書などでは、きちんとした形の土器が写真に出ているが、あんな土器を作るのにはプロが作らなくてはできないと思う。自分が作ったら土器には見えないような形になってしまった。やっぱり昔の人はすごいと思った

・最初は土器を作るのなんて簡単だと思っていたけど実際に作ってみると変になる。
うまい人でも少しは形がくずれている。
僕もそのくらいうまくつくってみたかったけどだめだった
でも楽しかった

2）　3年　単元名『情報と社会』

現代の情報化社会の最先端をいくインターネットとはどのようなものであるかを理解させるために授業をおこなった。

・インターネットを扱えるコンピューターが1台しかないため教師が実際に操作して生徒に見せた。
・伊勢原中学校のHP（ホームページ）を見せ、情報がどのように発信されているかを理解させた
・いろいろな情報元にアクセスすることで情報が簡単にしかも素早く手にはいることを理解させた

生徒一人一人にインターネットの実体験を行えるだけの設備もないので不十分さは否めないが、情報化社会の一端をかいま見ることができ、その問題点に迫ることもできた。

衆議院ホームページ　　1/1 ページ

衆議院議長のメッセージ

衆議院の案内　　憲政記念館
本会議・委員会等　　お知らせ
議案・請願　　事務局・法制局
各種手続きの案内　　国会関連リンク集
衆議院審議中継へ　　国会会議録検索システムへ

English

このホームページに関するお問い合わせはwebmaster@shugiin.go.jpまで
copyright(c) 1997 Shugiin All Rights Reserved

数学科学習指導案

授業者　橋本　貴永

1，日　時　　平成１１年１月１４日（木）第４校時
2，学　級　　３年４組（男子２１名，女子１９名）
3，場　所　　校庭
4，単　元　　６．図形の計量
5，単元目標　　図形の計量に関する性質を理解し，それらを活用することができるようにする。そのために
①三平方の定理について理解し，図形の計量などに活用することができるようにする。
②おうぎ形の弧の長さと面積，円錐，球の表面積と体積を求めることができるようにする。
③相似な図形について，面積の関係や体積の関係を調べ，それを図形の計量に活用できるようにする。
6，単元計画　　１章　三平方の定理（９時間）
§１．三平方の定理－－－－－－－－－３時間
§２．三平方の定理の利用－－－－－５時間
問題演習－－－－－－－－－－－－－－１時間
２章　円錐と球（４時間）
§１．円錐の表面積と体積－－－－－２時間
§２．球の表面積と体積－－－－－－１時間
問題演習－－－－－－－－－－－－－－１時間
３章　相似な図形の計量（４時間）
§１．相似な図形の面積－－－－－－１時間
§２．相似な立体の表面積・体積－－１時間
問題演習－－－－－－－－－－－－－－２時間（本時はその２時間目）
7，本時の指導
（１）目標：　三平方の定理を正しく理解し、実際の場で正しく利用できるかを体験する機会とする。
（２）展開

	学習内容	学習活動	指導上の工夫・評価
導入	◉本時の学習を想起と学習内容の確認。	◇前時、作成したプリントの内容を班員全員で確認し、本時の活動を理解する。	◆前時に提出されたプリントを返却する。
展開	◉校庭に１辺１０ｍの正方形を描く。 ◉描かれた四角形が正方形であることを証明する。	◇班ごとに「三平方の定理」などを使い、直角を作図する。 ◇対角線の長さを測ったりして、正方形であることを証明する。	◆生徒の自由な発想や自主的な活動を大切にする。 ◆班の協力性を高めるよう、指導する。 ☆積極的に課題に取り組んでいるか。 ☆正確な作図ができているか。 ◆完成した班には、達成感が十分に味わえるような評価をする。 ◆完成できなかった班にも、失敗した箇所や理由などを明確にする。
まとめ	◉まとめ	◇「三平方の定理」などの正当性を、実際の場で体感する。	☆「三平方の定理」について、正しい理解と作図ができたか。

「図形の計量」

名前

校庭に1辺10mの正方形を描いてみよう！

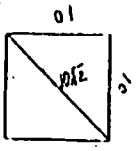
用具

【使える物・・・巻き尺，ラインカー】

1）どのようにしてこの正方形を作り出すか？
（直角をどのように作りますか？）

三平方の定理を使う

2）できた図形が正方形であることを証明するには？



対角線が10mになるようにする

実際にやってみてどうでしたか？

「図形の計量」

名前

校庭に1辺10mの正方形を描いてみよう！

【使える物・・・巻き尺，ラインカー】

1）どのようにしてこの正方形を作り出すか？
（直角をどのように作りますか？）

・円のわく85円の1線に糸を通しその端が通りのとおり
・円5mの円を4つ書くそのわくを結ぶ

2）できた図形が正方形であることを証明するには？

辺がそれぞれ等しい

実際にやってみてどうでしたか？

「図形の計量」

名前

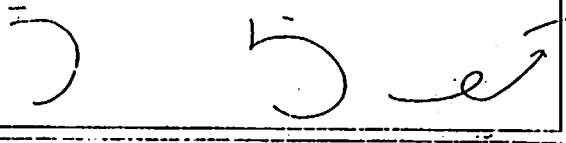
校庭に1辺10mの正方形を描いてみよう！

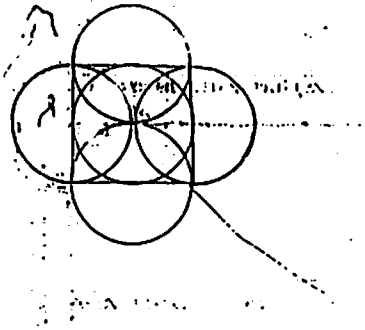
用具

松木，小神社，石黒（時計）

【使える物・・・巻き尺，ラインカー】

1）どのようにしてこの正方形を作り出すか？
（直角をどのように作りますか？）





2）できた図形が正方形であることを証明するには？

実際にやってみてどうでしたか？

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	橋本貴永　（数学科）
2、日時	平成（11）年（1）月（14）日（木） （4）校時　（3）年（4）組
3、単元	図形の計量
4、関連する教科と単元	

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

グループ別に、活動内容を話し合わせたのが良かったのか、活発な話しあいができ、自由な発想のもと、独特な方法が試された。

2，生徒の活動

意欲的に取り組めたと思う。自分たちで考案した方法で、積極的な姿勢が見られた。

思うように、正方形ができなかったグループは、最後まで、相談しながら作業をしたり、思いどおりにいったグループは、全員で歓声をあげたりした姿も見られ、ほほえましい光景であった。

3，生徒の興味、関心

(2) その他話し合われたこと

知識として理解していることでも、実際に使えるようになるには時間が必要。角の二等分線や垂線の作図などを試みているグループを見て、そのように痛感した。

とにかく、楽しく意欲的に授業ができたことが良かった。

数学科　その他の実践

1年　空間図形　「正多面体を作ってみよう」

手順

①いろいろな立体の模型を実際に触れてみる。

②自分の作ろうと思う多面体を１つ選択する。

③事前に練習の用紙に下図を描いてみる。

④下図をはさみで切ってみて、その仕上がりを予想する。

⑤厚紙に立体の展開図を描く。

⑥はさみで切断する。

⑦セロテープ、はさみ等を利用して立体を組み立てる。

⑧お互いの立体を観賞してみる。

2年　相似と縮図　「縮図を利用して高さを調べてみよう」

手順

①事前に測り方を説明する。

②各班ごとに厚紙を利用して直角三角形を１つ作り、直角をはさむ２辺の長さを測る。

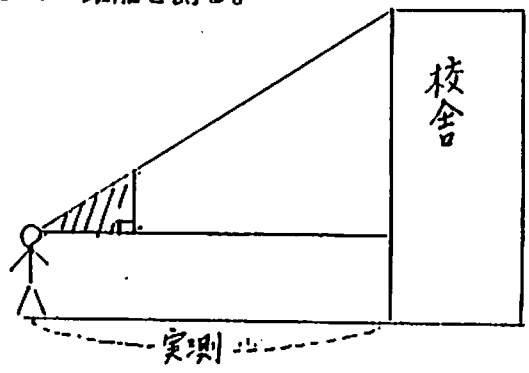
③各班ごとに校舎外で校舎の高さ・ポールの高さ・木の高さを調べる。

④直角をはさむ１辺を地面と平行にし、目線が斜辺と頂上が一致する位置を捜す。

⑤立っている位置から調べている物までの距離を測る。

⑥高さを計算する。

⑦各班で結果を発表し、比べる。



3年　確率　「サイコロの目の出る確立を調べてみよう」

手順

①生徒各自がサイコロを１個用意する。

②各自６０回投げ、出た目の数を記録する。それぞれの目の出た相対度数を調べる。

③班員全員の回数をまとめて、目の出た相対度数を調べる。（1/6に近づく）

④クラス全員の回数をまとめて、目の出た相対度数を調べる（さらに1/6に近づく）

⑤サイコロのそれぞれの目の出る確立は1/6である。

理科　その他の実践

1年・校内の草花を図鑑を片手に観察した。クラスごとに校内の略図にスケッチしたものを貼って掲示した。興味を持てた様子である。
授業の中で子ども科学館のプラネタリウムを使い天体の学習を深めた。
実際の夜空を再現でき、時間と場所も自由に変えられるので理解しやすかった。
2年・当日の新聞の天気図をつかいその日の天気と天気図を比べた。当日なので今の天気と比べることができ、考えやすかった。また何日も集めたものをまとめてパラパラ漫画風につかい、天気の変わる様子を見た。
3年・化学電池をつくるときに果物等をもちより果物電池をつくった。いろいろな果物をつかったので楽しかった。
・岩石の鉱物を調べるときに近くの石材店より墓石の削った粉をもらい観察に使った。鉱物がはっきりときれいに見えた。

全学年共通
・実験・観察において班ごとの作業でなくできる限り一人または2人で行えるよう工夫したところ遊ぶ生徒が少なくなり活動できるようになった。
・夏休みに自由研究を課題とする。特に子ども科学館を利用して進めた。
授業で行った内容に興味を持ち取り組んだものもたくさんあった。
テーマについて　次のように学校での授業内容の延長のもの、環境について、これからの科学に関するものなど広い範囲で取り組んでいました。
・ミョウバンの大きな結晶をつくってみよう
・地球に働く大気の力
・おいしくなるほど電流は流れるの？
・微生物のいる環境
・11円電池
・大気に敏感な植物たち
・光合成と光の関係
・自作スピーカー
・葉脈の不思議
・水中の微小な生物を育てて増やす
・昆虫が食物を食べるようすと口のつくりとの関係
・動物園でいろいろな動物のからだのつくりの観察
・アフリカツノガエルの呼吸の観察
・圧電素子をつかったミニカミナリ
・電球をつくる
・化学電池をつくる
・指示薬をさがす
・天気に関する言い習わし
・れき・砂・泥などの粒の大きさとしずみ方の関係
・マツの葉による大気の汚れ調べ
・酸性雨の酸性の程度
・植物は寝るのか。
・食塩の結晶、砂糖の結晶

感想より
・私たちは平塚にある環境科学センターに行って来ました。簡単な実験ではあったけど「大気の汚染はここまできていて植物たちは大変なめにあっている。そしてその大気の中で人間も暮らしているので世界の命ある生物のためにも大気を汚さないようにしよう」をねらいとし取り組みました。
・学校でイオンの勉強をしました。いろいろな水溶液に電気を流して実験した。それで思いついたのは果物で熟したものと熟していないものでは電流の流れやすさはどう変わるか考えました。
・”簡単に写す”といっても少こし難しい。趣味を自由研究にすると楽しい。一石二鳥でした。
・不思議なことを調べていたらまた不思議な事があったので調べてみた。1つわかったらまた不思議なことが見つかるかもしれない。
・実験は終了したけれど全然まともな答えが出なかった。やればやるほど奥が深いことがわかった。でも楽しかった。
・たくさん失敗をして家の卵がなくなっておこられたけれど黄身だけを固まらせることができて満足です。

音楽科学習指導案

指導者　藤原　浩子

1．日　時　　平成１０年９月１６日（水）　第５校時

2．学年学級　　第１学年５組　（男子２０名　女子１７名　計３７名）

3．単元名　　合唱の楽しさを味わおう。

4．単元の目標　・ハーモニーの美しさに興味を持ち、響きのある声で合唱する。
　　・自分たちでできる合唱作りの基礎を身につけ、主体的に曲を作りあげることの楽しさを味わう。

5．単元の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	合唱する楽しさを味わい、意欲的に歌おうとしている。
音楽的な感受や表現の工夫	歌い合わせる楽しさを感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫することができる。
表現の技能	発声の基礎を理解し表現している。（姿勢、口のあけ方、鼻腔への響かせ方など）
鑑賞の能力	曲想や声の響きを味わって聴いている。

6．単元の指導と生徒の実態

(1)単元の指導について

音楽の授業において、生徒が意欲的・主体的に取り組む活動として合唱は欠かせないものである。歌い合わせる喜びを味わい、心が動かされる（感動）体験はぜひともさせたいものである。それには教師中心の指導だけでなく、生徒達にもできる授業展開が必要になってくる。１年生ではまず、導入として合唱の係の生徒の育成と、自分たちでもできる合唱作りの流れを身につけさせたい。文化祭では合唱の発表をおこなっているので、授業以外の場面でも今後生かされればと考えている。

発声については、男子の変声期のことも十分考慮しながら、一人一人に関わっていきたい。

合唱の係
①コンサートマスター（１人）…練習の時の総まとめ役
②パートリーダー（各パート１人）…パートのまとめ役
③音取り係
④伴奏者
⑤指揮者
　　曲ごとにできるだけ色々な生徒がやる。
⑥音楽係…次時の確認

(2)生徒の実態について

歌うことの好きな生徒が多い学級である。１学期（６月）の段階で男子20名中、ボーイソプラノ７人、変声途中８人変声している５人であった。変声前、変声途中の生徒が多い学級なので一人一人にふさわしい声の出し方をアドバイスしていきたい。女子も積極的によく歌うが、地声が多く歌い方も幼い。

7．教材について

①「ハロー　ハロー」　中明子作詞　アメリカ曲　　（和音合唱）
②「朝の風に」　安西薫作詞　長谷部匡俊作曲　（混声二部合唱）
③「夢の世界を」　美能明子作詞　橋本祥路作曲　（混声三部合唱）

8．指導計画（５時間扱い）

合唱作りの基礎を身につける。　……　２時間
正しい発声を意識しながら、のびのびと歌う。　……　２時間（本時）
豊かな響きを感じながら楽しく歌う。　……　１時間

9．本時の指導（3/3時）

(1)本時の目標

・混声二部合唱の場合と、混声三部合唱の場合の練習方法を身につける。
・発声の基礎を学習し、響きのある声で表現できるようにする。

(2)本時の評価規準

〔　〕は評価規準

音楽への関心・意欲・態度	仲間と協力し、合唱に意欲的に取り組もうとする。	〔1〕
音楽的な感受や表現の工夫	曲の持つ雰囲気を感じ取り、発音や強弱に気をつけて歌うことができる。	〔2〕
表現の技能	音程やリズムをしっかり取り、響きのある声で歌おうとする。	〔3〕
鑑賞の能力	パートの特徴や声の響きを味わって聴くことができる。	〔4〕

(3)本時の指導について

本時の目標は、自分達ですすめる合唱活動の方法に慣れ、さらに響きのある声作りをしていくことである。2学期に合唱をするのはこの授業がほとんどはじめての状態で、夏休み中に変声した生徒もいると思われることから、一人一人にふさわしい歌い方のアドバイスをできるだけしていきたい。全体としては、地声をやめさせ響きのある歌声をつくっていきたい。

(4)本時の展開

〔　〕は評価規準

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	「朝の風に」 パート練習 通唱	・パート別に分かれて一斉展開で練習する。 ・正しい音程、リズムで歌う。	・後半の合唱部分では男子の変声期途中の生徒について1オクターブ下げる指導をする ・姿勢、口のあけ方に注意させる。	◆意欲的に取り組もうとしているか。〔1〕 ◆音程やリズムをしっかり取っているか〔3〕
展開	響きのある声で歌う。	・ハミングから深い響きのある声をつくっていく。 ・いくつかのパターンで発声練習をする。 ・発声で学習したことを生かし、曲の後半部分を練習する。	・どならないで柔らかいやさしい声で歌わせる。 ・鼻腔に響く声で歌わせる。 ・女声は地声をやめさせ、響きが下がらないようにさせる。 ・男声は自分が無理のない範囲で深い響きをつくらせる。	◆鼻の響きに注意して歌っているか。〔3〕
	表現の工夫	・発音や強弱を考えて歌う。 ・伴奏に合わせて合唱する。	・鼻濁音・ハ行・サ行の発音に気をつけさせる。 ・男声の主旋律をたっぷりと歌い上げるよう指示する。 ・他のパートをよく聴きながら歌わせる。	◆発音に気をつけて歌っている。〔2〕 ◆声部の役割を感じとれたか。〔2〕〔4〕
	「夢の世界を」 曲の紹介 パート練習	・模範CDを聴く。 ・3ヶ所に分かれてコンサートマスターのリードでパート練習をする。 ・パートリーダーの指示で練習する。	・それぞれのパートが楽譜のどこを歌うのか確認させる。 ・アルトの男子で男声パートの方が歌いやすい生徒はパートを変更させる。 ・一斉展開で音が取れなかったところを拾って練習させる。	◆曲の雰囲気を感じ取れたか。〔4〕 ◆音程・リズムをしっかりとって意欲的に取り組んでいるか。〔1〕〔3〕
まとめ	通唱する 次時の予告	・音程・リズムをしっかりとって歌う。	・アルトは音程が取りにくいのでオルガンの音を入れる。	◆自分のパートの音を歌えるようになったか。〔3〕

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	藤原浩子　（音楽科）
2、日時	平成（10）年（9）月（16）日（水） （5）校時　（1）年（5）組
3、単元	合唱の楽しさを味わおう
4、関連する教科と単元	

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1. 発言や話し合い

2. 生徒の活動

- まだ回数を多くやっていないのでリーダーとしての役割がまだよくわかっていないようだったが、リーダーとしてみんなをまとめようと努力はしていた。
- 他の生徒達も一生懸命やろうとする姿勢がみられた。
- 音とり係がオルガンを弾いていたが、慣れていないため音をとれない生徒が多く主旋律につられて歌ってしまっていた。

3. 生徒の興味、関心

- 自分達で積極的に歌おうとする気持ちが感じられた。
- 歌うことが好きな生徒達が多いので「楽しい」「よく声が出せた」などの感想が多かった。

(2) その他話し合われたこと

- 一斉展開でのパート練習を行うには、回数を重ねていかないとスムースに行えない。
- 研究授業としては もう時間あとの授業をみてもらったほうが良かった。
- この形での練習に慣れると合唱練習の時間の短縮化、無駄を省くことができると思う。

音楽科学習指導案

指導者　麻生記代子

1　日　時　　平成１１年７月１４日（水）第２校時

2　学　級　　１年７組　（男子１９名　女子１９名　計３８名）

3　単元名　　三拍子の拍子感とリズム伴奏　「オリジナル車にゆられて」の演奏発表

4　単元の目標　　三拍子の拍子感を養い、リズム伴奏（ﾘｽﾞﾑと音色）を工夫する。

5　単元の指導計画（４時間扱い）

1　曲の感じをつかむ　……　１時間
2　リズム伴奏の工夫　……　１時間
3　グループ練習　……　１時間
4　グループ演奏発表会　……　１時間（本時）

6　本時の指導

（１）本時の目標

① 自分たちの工夫した点を説明し、のびのびと表現し発表できる。
② 他のグループの発表をしっかり聞き、それぞれの発表の良い点を認めることができる。

（２）本時の展開

	学習内容	学習活動	指導の工夫・評価
導入	発表前の準備	評価用紙（相互・自己）を準備する 司会者の紹介	発表に対する意欲を高める 司会者と打ち合わせる
展開	発表会開始 発表終了	あらかじめ、決めてある順に発表する （一つの発表は３分以内とする） 1 工夫した点の説明 2 発　表 3 相互評価 一つの発表ごとに、各自記入する 4 自己評価 発表終了後に、各自記入する	司会者の司会進行で進める 積極的に発表会に取り組んでいるか 興味・関心をもって聴いているか うまくできない班にアドバイスする のびのびと表現し発表できたか 他のグループの発表を真剣に聴けたか
まとめ	発表後のまとめ	自己評価表を提出する 次時の予定を聞く	この時間の発表について良かった点を認め 改善点を指摘し、次の時間につなげる

（音楽）科研究授業を終えて

1、授業者	麻生 記代子	
2、日時 学級	平成（11）年（7）月（14）日（水） （2）校時　（1）年（7）組	
3、単元	三拍子の拍子感とリズム伴奏	
4、関連する教科と単元		

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

・少ない時間をうまく使って各班で話し合っていました。

2，生徒の活動

・決められた分担を一生懸命やっていましたが、時間が少なかったため歌詞を覚えることが大変な様子でした。

・発表は緊張してしまったようですが、生徒なりに頑張ってできていました。

3，生徒の興味、関心

・各班で自由に役割等を決められたので楽しく話し合っていました。興味・関心も一斉授業よりも高かったと思う。

(2) 生徒の声、感想など

・時間がもう少しあれば もっと自信を持ってできたと思う。

・時間があれば もっと改造（工夫）してみたかった。

・楽しかった。　等

(3) その他話し合われたこと

音楽科　その他の実践

2年　単元名「打楽器アンサンブル」－『打楽器のための小品』

＜１＞教材について

①生徒達が新たな発見をし、成就感の味わえるような教材

②自由な発想による表現工夫ができる教材

③音楽活動を通して得られる喜びや感動を個人にとどめず、グループ、学級に広げ、感動が共有できる教材

がないかと考え、「打楽器アンサンブル」を選択した。

＜２＞実践について

（指導目標）

①それぞれのパートのリズムを理解し、役割を感じ、全体の響きに気を付けて合奏する。

②手作りの楽器などを工夫し、より美しい音色を追及する。

③他のグループの発表をそれぞれの良さや工夫をしていることを認め合いながら鑑賞する。

（指導計画）……５時間扱い

グループ決め、パート決め　……１時間

パート、グループ練習（課題表で自己評価をする）　……３時間

各グループの発表、反省　……１時間

（考察）

ほぼ９割の生徒が「楽しかった」「どちらかといえば楽しい」という感想を持ち、大体の生徒が、主体的に活動できたようだ。リコーダーなどでは、あまり意欲的に取り組めない生徒も分からないところを他の生徒にききながら一生懸命取り組んでいた。お互いに教え合い、協力し、生き生きと活動でき、目標がある程度達成できたと思う。

打楽器 アンサンブル

曲目	グループのメンバー（リーダーには◎）
打楽器のためのの小品 五	
自分のパート・楽器の種類 オカシのハコの中にビーズ	

項目										
積極的に取り組めたか	集中して練習できたか	グループの人と協力できたか	リズムが理解できたか	正しいリズムでたたくことができたか	音色を考えてたたくことができたか	強弱をつけてたたくことができたか	曲にふさわしい速さでできたか	バランスを考えてできたか	根の強さをうまくできたか	感想・反省
○	○	△	△	○	△	×	△	○	△	今日は、図の通りをやったりと、自分としてはできたと思う。（あわせてもすりはなかった）
○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	みんなと、あわせて全部やった。放課後の特訓のおかげで、うまくできた。もうカンペキ?!（私は強弱をつけること。）
○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	今日はちがうグループの人とも協力してできた。いろんな音でやってみた。
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	さいこうなのてオール○。今日は強弱もつけてやってみた。でもまだグループ内にはカンペキまで行かない。発表にむけてガンバル!!

○…できた、△…少しできた
×…まったくできなかった

2年　組　番氏名

みんなで合奏することによって、クラスの団結力が深まった気がする
また、みじかな物で楽器が作れた、それで音楽ができるという所が音楽のすばらしさだとはだで感じ取れた

ふだんは気がつかなかったものでも、とてもいい音が出たり、おもしろい音がでるのがおもしろく、またそれをあわせてグループで１つの音楽にするのがたのしかった。
・自分のグループと、ほかのグループをくらべると、がっきがちがうので、またちがう音がたのしめた。

ソロもいいけど、アンサンブルは、キレイに合わせるのがすごく楽しい。
キレイに合わせるための練習もすごく楽しかった。
アンサンブルはまとまりがある。強弱など、すごくキレイにできる。
アンサンブルはあまりさんかしなかった。
ちゃんと合わせてやることができた。「アンサンブルは難かしい」という事も学んだ
今度はいろんな楽器を使ってぜひアンサンブルをしたい。

完璧できたとまでは、音楽の楽しさを学んだ
自分達で何か達成できるということは
楽しいことだと思った。特にアンサンブルは、
頭とか節とかを持ってきた間が楽しさがあった。
やっぱこれはみんなの協力なしでは味わえない
楽しさだと思った!!

美術科学習計画案

指導者：伊勢原市立伊勢原中学校
教諭　山川　英枝

1．日　時　平成１０年６月１２日(金)　１．２校時

2．場　所　伊勢原市立伊勢原中学校第２美術室

3．学年学級　１年　６組(３７名)

4．生徒について

明るく素直であり、興味のあることに対しては積極的に取り組んでいく。男女の仲も良く、みんなで協力しようという気持ちを持っている。しかし、まだ幼さが残る生徒も多く、判断力・集中力に欠ける面がみうけられる。美術の授業を集中力と計画性を身につける場としてもとらえたい。

5．題　材「音楽からの立体構成－身近な素材を使って」

6．題材設定の理由

中学校に入学して最初の授業の時、必ず生徒に質問していることがある。それは、「絵を描くのは好き？」「何かつくるのは好き？」毎年のように生徒達の答えは「本物みたいに描けない」「色をぬるとぐちゃぐちゃになっちゃう」「途中で失敗するといやになっちゃう」「でも、何かつくるのは好き」「うまくいくと楽しい」などである。

そう、生徒達は表現することそのものが嫌いなのではなく、自分が表現したい対象が具体的であるがために、思うように描きあがらなかったり、形にならなかったりする不満が積もっているのである。

このような生徒達の現状をふまえ、本題材を設定するにあたり、実際に形や色のないものからの表現とし、何度でも創り直せる柔軟な取り組みができる素材をベースとした。さらに、生徒自身が素材を発見し利用することにより、“見たものを克明に描き出す技術”への執着からの脱却と、抽象的な表現をすることを含め、自分のイメージが形になっていく喜びを味わわせたいと考えた。

また、同じものを聴いても一人一人感じ方や表現の仕方が異なることに気づき、お互いの個性を見つけだし、認めあえるようになって欲しいとの願いから本題材を設定した。

7．指導のねらい

① 自分自身のイメージを大切にし、形や色、質感などの取り合わせを考え、主体的・意欲的な表現活動をする
② 素材を発見し利用する創造性を養う
③ 工夫して表現する楽しさを味わい、表現に対する自信を養う
④ 友人の表現意図を理解し、幅広い表現ができることに気づく

8．養いたい能力・養いたい態度

① 独自の世界を想像し、イメージを膨らませる能力
② 素材を発見し利用する能力
③ 興味を持って表現を工夫しようとする態度
④ 友人の作品の良さを見つけだし、理解しようとする態度

9．学習計画　（１１時間）

イメージトレーニング（１時間）
① 曲を聴いて点や線、抽象的な形、具体的な形とする
② 曲を聴いて色とその組み合わせ、分量を決める
③ 曲を聴いて単語、文章にする
＊ ①②③は、イメージを膨らませる手だてとしてプリントのどこから入っても良い（３曲聴いて、２曲を選び、イメージトレーニング）

１曲目・・・ＥＬ　ＪＡＲＡＢＥ　ＴＡＰＡＴＩＯ
２曲目・・・こんぺい糖の踊り
３曲目・・・花のワルツ

自分が一番印象に残った曲から、立体的な作品にしていくためにアイデアスケッチを練る（１時間）
＊ ベースとなる素材（板、粘土、アクリル絵の具）の特性を知る
自分が表現したいイメージに合う素材を考えていく
自分が表現したいイメージを文章とし、確認する

アイデアスケッチをもとに立体を制作する（８時間）　・・・本時５時間目

鑑賞（１時間）
作品カードに自分の作品への想いを書く
友人の作品を、作品カードを読みながら鑑賞する
鑑賞カードに友人の作品から感じたことを記入し、発表する

10．用意するもの

教師側・・・プリント・板・粘土・粘土べら・アクリル絵の具
生徒側・・・色鉛筆・パレット・筆・水バケツ・自分が使いたい素材
自分が必要な用具

11．評　価

① 形や色、質感などを工夫して自分のイメージを表現できたか
② 身近な素材を自分のイメージにあわせて発見し、利用できたか
③ 楽しく興味を持って制作に取り組めたか
④ 友人の作品と自己の作品との共通点と違いに気づき、幅広い表現が可能なことを理解したか

12　本時の学習計画

学習活動	生徒の思考の流れ	教師の支援と発問	観点別評価の手立て
授業の進め方、留意事項などの話を聞き、学習活動の概要を知る	自分のイメージを立体的な作品にするんだな アイデアスケッチから変化していっていいんだな	イメージトレーニングに続くものとして、作品を創っていくことを伝える 制作過程で思考を進めていってかまわないことを伝える	
曲を聴いてイメージをさらに膨らませる 作品の表現意図や主題を確認する どのようにまとめるか構想を練る 加えたい素材を考え、さらに構成のイメージを深める 完成の見通しを立てる	作品になったとき自分が伝えたいことは何かな？ 立体的にどういう風にしようかな？ どんな素材がいいかな？ 空間が寂しすぎないかな？高さはこの位がいいかな？	アイディアスケッチを見ながら、自分が表現したいことは何なのか再認識するように促す 素材の形態的な特徴を生かして、素材から発想していくことを促す イメージにあう素材を考えていくように促す 空間の感覚を把握しやすいように目の高さで離して全体を見るように促す	<関心・意欲・態度> ◆　進んで制作に取り組み、イメージを表現することに積極的である ◆　イメージを表現しようと試行錯誤しながら努力している ◆　イメージが浮かばず、制作に対して消極的である <発想や構想の能力> ◆　イメージをまとめ、具体的に構成が進んでいる ◆　イメージがまとまりつつあり、具体的な表現方法を模索している ◆　イメージがまとまらず、何を表現したいのかわからない <創造的な技能> ◆　イメージに応じて、素材・表現方法を選択している ◆　イメージにあう素材・表現方法を模索している ◆　イメージにあう素材・表現方法がわからない
進んでいる生徒の作品と発表を聞き、そのイメージを理解する 自分の表現の参考にする	みんないろいろ工夫して、イメージを表現しようとしているな 自分の作品にも工夫を生かしたいな	意欲的に取り組んだ生徒の作品を紹介し、そのイメージを語らせ、それぞれの努力の成果を認めあわせるようにする	<鑑賞の能力> ◆　友人の表現から積極的に良さや美しさを見つけだせる ◆　友人の表現に関心を持って見ることができる ◆　友人の表現に関心を持って見ることができない

美術科 研究授業を終えて

1、授業者	山川　美枝	
2、日時 学級	平成　10年　6月　12日（金） 1．2校時　1年　6組	
3、単元	「音楽からの立体構成」－身近な素材を使って	
4、関連する教科と単元		

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

＊　製作途中の作品を見せあい、自分のイメージを伝えあっていた。

2，生徒の活動

＊　自分のイメージにあわせて自主的に新しい素材を用意し、活用しようとしていた。

＊　曲から感じたイメージを素材と色、形によって工夫しながら表現しようとしていた

3．生徒の興味、関心

＊　級友の持ってきた素材とその使い方に興味を持っていた。

＊　級友の作品をイメージをたずねながら、関心を持ってみることができた。

＊　級友の製作過程に興味を持ち、自分でも取り入れることを試みていた。

(2) 生徒の声、感想など

＊　同じ曲を聴いても、それぞれにイメージが異なることが面白いと感じられた。

＊　自分が思いもよらない表現方法を級友がしていて驚き、感心した。

＊　できあがりつつある作品にそれぞれ個性があって面白いと感じられた。

(3) その他話し合われたこと

美術科学習指導案

指導者　宮村弥生

1．日時　　平成１１年６月４日（金）５校時

2．学級　　[illegible]組（男子１９名　女子１９名　計３８名）

3．単元名　　季節や時刻、天気をイメージし、学校からの風景をアクリルで描く。

4．単元の目標　身近な学校の風景を描きながら、個性的な表現主題の獲得をめざす。
　　また、それを主体的に追求する態度と能力を養う。

5．単元の指導計画（１５時間扱い）

①・「風景のとらえ方」「構図」「アクリル絵の具の特徴や扱い方」について知る。
　・アクリル絵の具の赤と青で彩色をする。（後に下地として使用）　…　１時間
②・屋外にてスケッチをする。（鉛筆使用）　…　４時間
③・「色の感情」について知る。
　・自分の作品の「季節」「時刻」「天気」などを決定する。
　・配色計画を立てる。（色鉛筆使用）　…　１時間
④・「下地の効果」「絵肌の効果」を知る。
　・重ね塗りによる「下地の効果」を体験する。
　・３つの絵肌を試す。　…　１時間（本時）
⑤彩色をする。（アクリル絵の具使用）　…　７時間
⑥鑑賞会をする。　…　１時間

6．本時の指導

（1）本時の目標

・下地により作品の出来上がりがどう違うかを感じる。
・重ね塗りを体験し、重ねた時にわずかに見える下地の効果を味わう。
・３種類の絵肌（マチエル）を試し、その効果を味わう。
・これらの技法を自分の作品にどう生かすかを考える。

（2）本時の展開

	学習内容	学習活動	指導の工夫	評価
導入	・本時の内容把握	・「お化粧の話」を聞き、絵画における下地の存在を知る。 ・本時におこなう内容（下地と絵肌）を知る。	・身近な例を取り上げる。 ・前時の内容を思い出させる。	・しっかり聞いているか ・本時の内容を把握したか。
展開	・「下地の効果」を知る。	・参考作品を二つ見比べながら「どちらが下地付きのの作品か」を考える。 ・解説を聞き、「重ね塗りされた作品の重厚さと、そこに見え隠れする下地の効果」を味わう。 ・その作品に使用した下地を見る。 ・下地における校舎の赤色に注目し、作者の意図（季節の色とその補色）を知る。	・参考作品A「下地付校舎図・夏」 ・参考作品B「下地なし校舎図」 ・何名かを指名し、考えるきっかけとする。 ・参考作品C「Aの下地」	・しっかり見ているか。 ・興味関心を持って考えられたか。 ・下地により作品の出来上がりがどう違うか理解できたか。
	・「絵肌の効果」を知る。	・参考作品を見ながら、「絵肌（マチエル）がどのように違うか」を感じる。	・参考作品D「３種のマチエル」 ①けけけけけマチエル ②かさかさマチエル ③ぼてぼてマチエル	・絵肌の違いに興味関心がもてたか。
	・下地を使った重ね塗りの体験	・下地の上に、その補色に近い色を使って、３種のマチエルになるよう彩色をする。	・キャンバスの裏に、赤と青の下地が既に塗られている。 ・「色相環」拡大版を黒板に貼る。	・補色関係を理解しているか。 ・積極的に彩色に取り組んでいるか。 ・重ね塗りを体験し、重ねた時にわずかに見える下地の効果を味わえたか。 ・３種類の絵肌（マチエル）を試し、その効果を味わえたか。
まとめ	・本時をふりかえる。 ・次時の予告	・重ね塗りの体験をし、どう感じたかを考える。 ・参考作品を見て、３種のマチエルがどこに使われているかを知る。 ・次時以降、自分の作品をどのように彩色するか考える。	・何名かを指名し、いくつかの感想を紹介する。	・意欲的に発言しようとしているか。 ・学習した技法を自分の作品にどう生かすかを考えたか。

（美術）科研究授業を終えて

1、授業者	宮村弥生	
2、日時 学級	平成（11）年（6）月（4）日（金） （5）校時　（1）年（1）組	
3、単元	季節や時刻、天気をイメージし、学校からの風景をアクリルで描く	
4、関連する教科と単元	なし	

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

- 指名された時は、思ったことをはっきりと発言することができた。
- 最後の問いかけについては、手を挙げて、積極的に発言する生徒が数人いた。
  また その発言に対して 周囲の生徒は 集中して 聞くことができた。

2，生徒の活動

- 準備などは 手際よく すすんで 活動することができた。
- 教師の問いかけは 真剣によく聞き、提示された作品を しっかり見ようとする姿が見られた。
- マチエルづくりは、意欲的に取り組む姿が見られ、わからないことについては、机間巡視の中で、自己解決しようとする生徒が多くいた。

3，生徒の興味、関心

- 下地の効果の説明は、提示した作品が小さかったため、見えにくかった。
  もっと大きくして、興味、関心を 強くひいた方が よかった。
- マチエルの種類については、どんな名前をつけたらよいか、楽しそうに考えていてよかったと思う。

(2) 生徒の声、感想など

- マチエルづくりで、"かさかさマチエル" と "すけすけマチエル" を つくることが難しかった。
- マチエルづくりで マチエルの練習をしたので、自分の作品に 試してみたい。
- 絵の具を重ねていくのが とても楽しく、失敗しても 上から 重ねることができてよい。
- 下地づくりの大切さを 参考作品を見て 知ることができた。

(3) その他話し合われたこと

- マチエルづくりで ぬる面積を大きくして、やり直しの活動ができるようにした方がよい。
- 時間的に、下地の効果と マチエルづくりを 分けて 授業をすすめた方が ゆっくりできて よいのではないか。 その方が 子供達も 理解しやすいと思った。

美術科　その他の実践

1学年

単元名：曲からのイメージによる立体構成

・曲を聞いてそのイメージを身近にある素材を使って、立体構成をしていく。聴覚をとぎ澄まし、目に見えないものを形にしていくことは、五感を鍛え、感性を育てるのに、とても重要である。

2学年

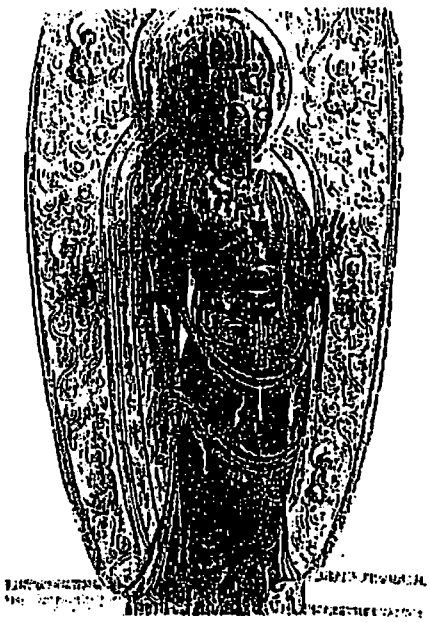
単元名：自己決定主題によるポスター

・自分の身の周りにある問題を考え、訴えたいことをテーマとしてポスターを製作する。テーマを追求するために、見過ごしていた問題なども深く考え、自主的なよりよい学校生活がおくれるようになる。

3学年

単元名：仏像の点描

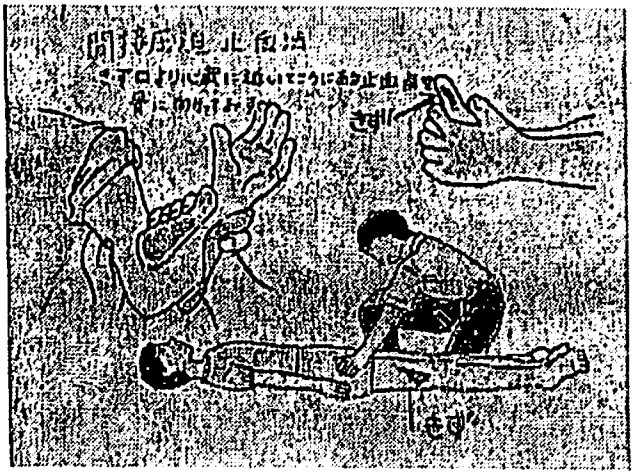
・修学旅行で見る仏像を中心に、自分の好きな仏像を選び点描模写をした。実物を見ることを楽しみにしながら、意欲的に作業をすすめることができた。修学旅行では、自分の点描模写した仏像がとても身近に感じられたという生徒の感想があった。

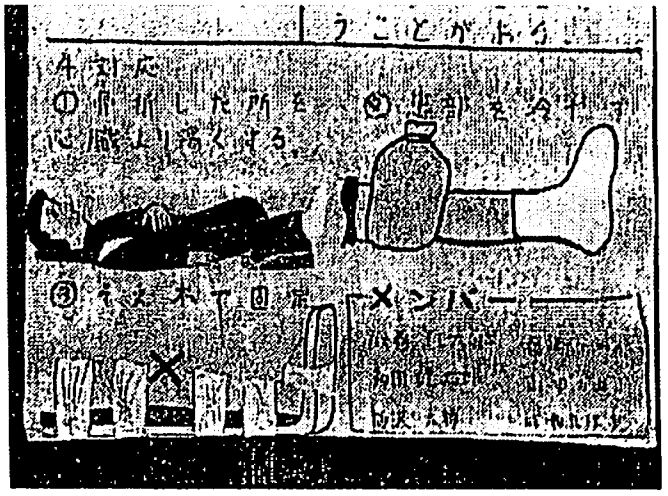


保健体育科　その他の実践

3年生の保健分野の「傷害の防止」の単元で応急処置の学習時に調べ学習を行った。その発表時には模擬演技を交えて、調べた内容の説明をするという発表を行った。日常生活の中でも実際に知っておくと役に立つ内容なので、生徒の興味関心は非常に高かった。

下の図は生徒が調べた資料の一部です。





技術科・理科クロスカリキュラム学習指導案

指導者　　教諭　荻原　敬三

1．日　時　　平成11年2月15日　　3校時

2．学　級　　第2学年5組（生徒数36名）

3．単元名　　技術科「電気」電気機器のしくみ

　　理　科「電流とそのはたらき」電流と電子

4．単元の目標

わたしたちの家庭や社会のあらゆるところで電気機器が利用されています。ここでは、電気機器を観察や実験をとおして、電気回路、電気機器の構成やしくみとその点検の方法を理解させる。家庭で使用する電気機器を安全かつ適切に活用するために行う。そのため身近にある電熱器具、照明器具、電動機を備えた電気機器の中から適切な題材を選び、それに即して指導する。

電気機器については、それぞれ多くの種類があるので、原理的に共通する基本的な構造と働きを重点的に取り上げ、その電気機器の特殊な部分に深入りしないようにする。今回の授業では「白熱電灯と蛍光灯」のしくみについて、理科「電流とそのはたらき」の単元とからめて共通教材として扱うこととする。

5．単元の指導計画

＜技術科＞「電気」　（30時間）	＜理科＞「電流とそのはたらき」
電気とわたしたちの生活	電流の流れ方
1 電気の有効利用と地球環境	電流と電子
2 電気の安全な使い方	電流と磁界
3 電気機器の観察・設計製作	
電気機器の設計要素	
電気・電子部品のはたらきや使い方	共通教材
電気機器のしくみ	
電気を光に変換（白熱灯と蛍光灯）本時	
電気機器の製作	

6．本時の指導

（1）本時の目標

・白熱電球と蛍光ランプの特徴を知り、使い分けができる。

・白熱電球と蛍光ランプの発光のしくみを説明できる。

・蛍光ランプの定格表示を読むことができる。

（2）本時の展開

	学習内容	学　習　活　動	指導の工夫・評価
導入	学習内容の確認	・電気機器全般に共通するしくみはどのようになっているかを調べる。	・電気機器の負荷は、どのような仕事をしているのかまとめさせる。
	電気機器のしくみ	・電気機器のほとんどは電気ｴﾈﾙｷﾞｰを光・熱・動力など他のｴﾈﾙｷﾞｰに変換して利用していることを知る。 ・家庭で使用しているいろいろな電化製品をあげる。	・光、熱、動力、その他に電気機器を分類できるようにする。 ・興味、関心をもって取り組んでいるか。
展	照明器具のしくみ	★白熱電球と蛍光ランプに電流を流して点灯のようすを観察する。	・白熱電球に 20V ～ 100V の電圧を加えて観察させる。 ・蛍光ランプの一方の電極に 20V くらいの電圧を加えて観察させる。

展開	白熱電球の点灯のしくみ	★電熱線に電流を流して、発熱するようすと白熱電球のフィラメントが発熱するようすを比較する。 ★フィラメントに電流を流して、赤熱したようすを観察する。	・白熱電球は、電流の発熱作用を利用したものであることに気づかせる。 ・電圧を徐々に上げていってフィラメントが切れるまで行う。 ・電熱線に電流を流して発熱した時と同じであることに気づかせる。
	白熱電灯の回路	・白熱電灯の回路図を確認する。	・図記号を理解しているか。
	蛍光灯の点灯のしくみ	★シャーペンの芯を使って、アーク放電の実験を観察する。	・蛍光灯は放電作用を利用したものであることに気づかせる。 ・自ら課題を解決しようとしているか。
		★蛍光ランプを水中で割って、水位が上がっていくようすを観察し、なぜこのようになるのか考える。	・水位が上がっていくようすがわかるように着色した水を使用する。 ・蛍光ランプの中はほとんど真空であることに気づかせると同時に、ランプの中に何かが封入されていることをつかませる。 ・水銀蒸気とアルゴンガスが封入されていることを確認する。
		・教科書で白熱電球・蛍光ランプの内部の構造・発光のしくみを確認する。	
	蛍光灯の回路	・蛍光灯の回路図をプリントにかく。 ★蛍光灯の回路を実際につくる。 蛍光ランプ・コンデンサ グロースタータ・安定器 ★特殊蛍光ランプを点灯させ、蛍光物質の違いを知る。	・図記号を用いて回路図をかく。 ・蛍光灯に使われている電気・電子部品の名称とはたらきをまとめさせる。 ・部品の名称・はたらきを発表させる。 ・すすんで発言しようとしているか。
	蛍光ランプの定格表示	・教科書で蛍光ランプの定格例を知る。	・蛍光ランプを見ながら定格表示を読む。 ・積極的に取り組んでいるか。
まとめ	本時のまとめ	・白熱電灯と蛍光灯の違いを確認する。	・発表させる ・すすんで発言しようとしているか。 ・プリントにて確認する。
	次時の予告	・蛍光灯の回路のしくみ	

研 究 授 業 を 終 え て

1、授業者（教科）	荻原　敬三　　(技術 科)
2、　日　時	平成（11）年（ 2 ）月（ 15 ）日（ 月 ） （ 3 ）校時　　（ 2）年（ 5）組
3、　単　元	「電気」電気機器のしくみ　（照明器具）
4、関連する教科と　単元	理科「電流とそのはたらき」電流と電子

5、授 業 を ふ り か え っ て

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

実験・観察を通して、生徒自らが「なぜ？こうなるの」というようなつぶやきを感じさせる授業の取り組みを心がけてきました。

疑問に思ったことを積極的に発言し、質問する生徒が多くいて、授業をすすめるなかで大変取り組みやすかった。

2，生徒の活動

実験・観察を積み重ねていく中で、授業の内容を把握し、理解して行動できるようになってきた。

3，生徒の興味、関心

身近にある白熱電灯や蛍光灯なのに、区別もつかない生徒が多く、照明器具のしくみなど理解する必要など感じさせない生活も現実である。

また、電球などを割った経験もなく内部がどのようになっているのか知らない生徒がほとんどである。現実のものを見せることが大切であると改めて感じました。「このくらいのことは知っているだろう？」「見たことがあるだろう？」は、もう一度確認したほうがよいような毎日です。

(2) その他話し合われたこと

事前に理科で、放電について学習がすんでいたので、蛍光ランプの点灯のしくみなど理解しやすかったようだ。また、蛍光ランプを水中で割った実験なども、気圧についての学習がなされていたので指導しやすかった。

技術科　その他の実践

1年　「間伐丸材によるペン立ての製作」

木材のもつ自然の暖かさを生かす作品ということで4月からとりかかり、それぞれ生徒各自の個性あふれる作品ができました。現実的には使用不能な作品もあり、構想がしっかりまとまっていな生徒も多かった。木材による製作の経験もはじめての生徒がほとんどであった。自分なりの考えを作品に仕上げる喜びはつかめたようだ。

また、間伐丸材を使用することによって、限りある資源を考える上での一資料となれば良いと考えてこの材料を使用しました。環境問題にもふれ、資源を無駄なく活用するように指導しました。

「板材による製作」

各自が自由に設計から製作手順にしたがって、作品を完成させることをねらっていたが、何を作ったら良いのか自分で決められない生徒が多く大変であった。

2年　「時間割表の作成」

情報基礎の学習を2年生と3年生で実施することにしました。2・3年生が授業が重ならなかたからできたことですが。キーボードに慣れコンピュータをより活用することを目的として実施しました。各クラスの時間割表を作成することにより、文字入力や罫線などの操作を通して一般的なワープロ学習を行い、次年度になってからこのデータを元に3年生での時間割表を作成するようしました。

「秋菊の栽培」

草花や野菜などの園芸作物は野生の植物と異なり、人が成育状況に応じて適切な栽培を行って、ようやく美しい花を咲かせたりおいしい野菜が得られる。作物という命あるものの目的に応じて育て方の技術ついて学習を深める目的で菊づくりに望みました。

毎日の水やりはもちろんのこと、日々の手入れにも積極的に取り組む生徒が多く成長を毎日確認し喜んでいる姿が印象的でした。「また、来年も大きな花を咲かせるぞ！！」と意気込んでいる生徒も見受けられました。台風のときなど、菊が心配で鉢を何度となく校舎に移動させたりもしました。

物言わぬ小さな命を大切にする、良いきっかけになったようです。

また、授業のまとめとして栽培日誌のレポートを作成させたところ、何名かの生徒はコンピュータを使用して、写真を貼り付けたりしてレポートづくりに励んでいました。コンピュータの活用がみられ、他の生徒へ、よい影響を与え、放課後友達同士で話し合いながら、ＰＣ教室でレポートの作成を行っている姿が見られました。

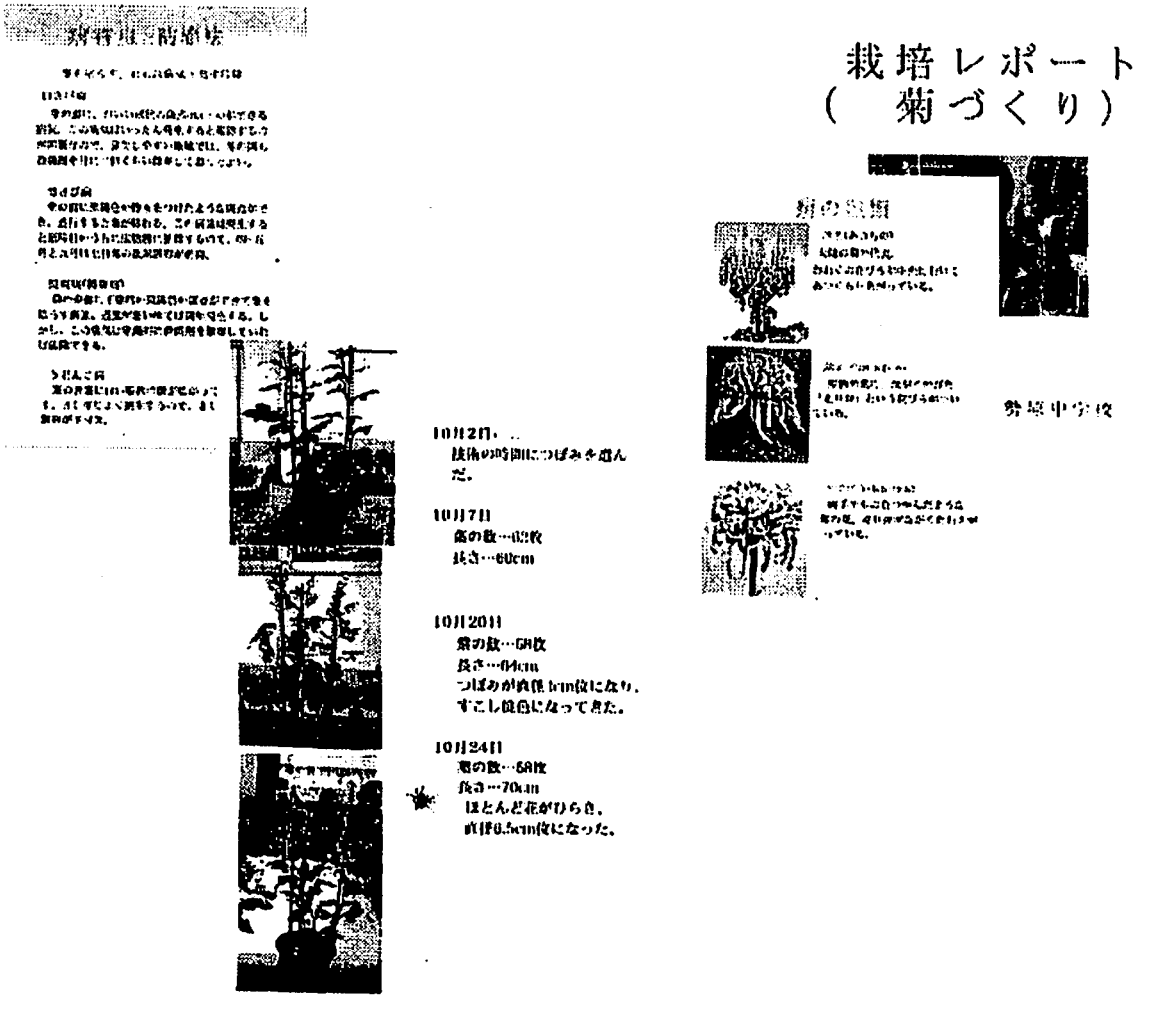
3年　「修学旅行レポート」

1学期は修学旅行を中心に据え、事前に調べた内容と、実際にその場を訪れてみての体験談や感想を、写真を交えて1つのレポートとして、コンピュータを使用して作成した。

技術科としては、ワープロソフト及び図形処理ソフトを活用でき、教材として適していると考える。また、レポートを作成するにおいて、事前に調べる内容は、主として２日目の班別自主活動で訪れる場所に重点を置いたため、生徒個々に主体的に調べ、作成にあたっていた。また、修学旅行後、訪れた場所で撮影した写真を資料としてレポートに取り込み、実際に自分が体験したことや、感じたこと、思ったことなどを感想として書かせたため、内容が同じ場所でも生徒により異なり、よりわかりやすいものとなった。ただ、問題点としては、同時に２種類のソフトを使用したり、写真を取り込ませるなどの作業が伴うため、こちらが考えていた以上に時間がかかり、その辺の工夫が必要であると考える。

「名刺づくり」

将来職業に就いたとき、多くの者が自分の名刺というものを持つ機会がでてくる。そこで、名刺を教材として取り入れ、コンピュータを使って名刺の作成を行わせた。様々なソフトの活用はもちろん、生徒個々にデザインやレイアウトなどを考えさせたため、似たような物はあっても同じ物は２つとなく、生徒一人一人がよく考え、工夫しているのがうかがえた。また、完成後も生徒同士で名刺の交換を行う場面も見受けられ、将来に向けての一つのステップとしての体験も同時に出来たのではないかと思われる。ただ、名刺上に記載されている内容は、個人情報も含まれる場合が多く、安易に交換し合う物ではないとの認識をさせることも必要と感じた。



家庭科学習指導案

指導者　坂本　緑

1、日　時　　平成１０年５月１９日（火）１．２校時

2、学　級　　3年6組（男子２０名　　女子１９名　　計３９名）

3、単元名　　「保育」

4、単元の目標　　幼児の遊び、食物及び被服に関する学習を通して、その心身の発達に応じた生活について理解させ、幼児に対する関心を高める。

5、単元の指導計画（３２時間扱い）

オリエンテーション…１時間

①幼児の生活・幼児の遊び…２時間

・幼児の心身の発達（ビデオ学習）…１時間

・保育実習の諸注意（接し方など）・組分け…１時間

・保育実習…2時間（本時）

・保育実習のまとめ（レポート）…2時間

②幼児の心身の発達

・０～５歳児の特徴…３時間

・幼児の心身の発達及び運動機能の発達…１時間

・幼児の言語、情緒及び社会性の発達の傾向…１時間

・基本的生活習慣、社会的生活習慣…１時間

③幼児の遊び道具の製作

・絵本作り（下絵・清書・彩色）…１０時間

④幼児の食生活

・幼児の発育と栄養の特徴…１時間

・間食の必要性…1時間

・簡単な間食の調理…3時間

⑤幼児の生活習慣…1時間

⑥幼児の発達と環境…1時間

6、本時の指導

（１）本時の目標　保育実習で直接、乳幼児に接することにより、各年齢の発達段階・特徴を知る。また、保育を体験する中で、保育への関心を高める。

（２）本時の展開

	学習内容	学習活動（体験的活動）	指導の工夫
導入	・注意事項を確認し、保育実習に出発する。	・保育園の場所を知り、園庭・遊具等を観察する。	・交通事故に気をつけて歩くようにさせる。

	学習内容	学習活動（体験的活動）	指導の工夫
展開	・副園長先生の話、主任の先生のお話を聞く。 ・保育の実習に入る。	・保育をする上での心がまえ、諸注意を理解する。 ・各組に分かれて教室に入り、先生と園児に挨拶する。 ＊うめ組（一時保育、０～５歳児） ＊たんぽぽ組（０～１歳児） ＊さくら組（２歳児） ＊ちゅうりっぷ組（３歳児） ＊ひまわり組（４歳児） ＊ききょう組（５歳児） ・各組の先生から、その年齢の特徴を聞く。 ・その組の保育内容にあわせて、保育を行う。 ・各組の先生と園児にお別れの挨拶をする。	・園庭で身じたく（エプロン）をし、組ごとに整列させる。 ・教室に入る時は、手洗い、うがいをするようにさせる。 ・靴の脱ぎ方に注意させ、園児のお手本となるような行動をとらせるようにさせる。 ・外での保育の場合、色の帽子を園児がかぶるので、その色を覚えてできるだけ、自分から保育を積極的に行えるようにさせる。 ・けがのないよう、十分注意させる。 ・終了時間が近づいたら、各組に声をかける。
まとめ	・園長先生の話を聞く。	・保育実習を振り返る。 ・お礼を言って、学校に戻る。	・組ごとに整列させる。 ・交通事故に気をつけて、学校まで帰らせる。 ・実習のメモの紙を配り、１～２日のうちに、実習でわかったこどものようすや感想・反省などをまとめさせる。

（３）当日の授業時間

・正門集合　８：４０→・保育園到着　８：５０→・諸注意　８：５０～９：００→・各組に分かれて実習９：００～１０：０５→・園長先生のお話１０：０５～１０：１０→・保育園出発　１０：１５→・学校到着　１０：２０

（４）評価

１．生徒自ら主体的に課題に取り組めたか?

２．保育実習に積極的に取り組めたか?

３．保育をする中で、各組の園児の発達段階および特徴をとらえることができたか?

４．保育への関心を高めることができたか?

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	坂本　緑　（家庭科）
2、日時	平成（10）年（5）月（19）日（火） （1・2）校時　（3）年（6）組
3、単元	「保育」
4、関連する教科と単元	理科「生物のふえ方と遺伝」

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

・保育の実習になれるまでは、なかなか自分から積極的に話しかけられない生徒もいるが、特に3～5才児になると、子どもの方が積極的に触れ合いを求めてくるので、生徒も話しかけたり、相槌を打ったり、遊び相手になったりするうちに、笑顔となり、子どもとうちとけたようすがうかがえた。

2，生徒の活動・9:15からの朝の会は雨のためにできなかったので、生徒たちはすぐ各組（0～5才児）に分かれて、実習を行なった。0～1才児のたんぽぽ組はおやつをあげたり、おむつを替えたりなど子どもの世話を実際に体験することができた。又、他のクラスでは、ブロックで遊んだり、フルーツバスケット、ままごと、粘土などいろいろな遊びを通して子どもたちと触れ合うことができた。帰る頃には、園庭も乾きはじめ、外で遊ぶことができた。

3，生徒の興味、関心

・保育実習にいく前は、あまり気のすすまない生徒もいたが実際に保育実習を体験してくると、「すごくたのしかった」「また行きたい」「かわいかった」「1時間では短かく感じた」「1日いたい」など生徒はとても保育実習に対して、好意的な感想を述べています。子どもとの触れ合いの中で、保育する楽しさ、大変さを学んでくるので、その後の授業の中でも、興味をもってくれる生徒も多くなります。

(2) その他話し合われたこと

・自分のいく組の人数や先生方の人数は前もってわかっているが、その日にどういう内容のことをやるかはわからないので、本時の課題は「子どもたちと触れあいながら保育をする」ということとなります。その場面に応じて子どもの目の高さになり、課題に積極的に取り組めていたように思う。

・生徒たちも、素直な面があり、各組よく保育実習に取り組んでいた。

・今年度は、保育園の主任の方より、事故防止の話や手洗い、うがいなどの衛生面の話をしていただいた。今後も無事実習が終えることができるように事前指導を十分にしていきたい。

３年家庭科「保育」領域における体験的学習のまとめ

1、保育授業の流れ

（1）保育で学びたいことを生徒ひとりひとりにかいてもらう。

例、・子どものあやしかたを知りたい。

・ミルクの作り方、飲ませ方。

・おむつのかえかた。

・子どもの育て方。

・子どもとの遊び方などいろいろな疑問をあげてきます。中には、保育ということは、「どういうことなのか」ということをあげる生徒もいます。

（2）保育園に実習に行く前に、保育園について知るために事前学習をおこなう。

・「子どもの心身の発達」というビデオを見て、気づいたことをかいてもらう。

・ビデオの中で、保育士の人がどのように子供たちと接しているか考えさせる。

・また、幼稚園との違いについても知らせる。

（3）自分の行きたい保育園のクラスを決定させる。

・０～１歳児たんぽぽ組、２歳児さくら組、３歳児ちゅうりっぷ組、４歳児ひまわり組、５歳児ききょう組、一時預り０～５歳児うめ組の６クラスの中から、第一、第二希望をあげさせ、なるべく本人の希望がかなうよう配慮する。

（4）保育実習を行うための注意事項について、徹底させる。

・子どもとの接し方の基本（子どもの目の高さになって接する、子どもの言っていることをきちんと受け止めてあげる、ひとりの人間として接してあげるなど）

・エプロン、ハンカチ、ティシュペーパーを用意する。

・教室に入るときは、手洗い、うがいをおこなう。

・事故のないよう、遊びの裏側には、いつも危険があることを知らせ、注意させる。

（5）保育実習をおこなう。

＊保育実習要項

1、日時　５月１０日～２４日（内８日間）

2、場所　大原保育園

3、目的　３年家庭科の「保育」領域の体験学習として、この保育実習を行うことで、乳幼児の保育について知り、さらに子供への理解を深めさせる。

4、日程　５月１０日（月）３年７組（３６名）
５月１１日（火）３年５組（３５名）
５月１２日（水）３年３組（３６名）
５月１３日（木）３年１組（３５名）
５月１４日（金）３年４組（３５名）
５月１８日（火）３年６組（３５名）
５月２０日（木）３年２組（３５名）
５月２４日（月）３年８組（３５名）

5、授業計画（１・２校時）

正門集合	８：４０
保育園到着	８：５５
諸注意・副園長先生・主任の先生の話	８：５５～９：０５
各組に分かれて実習	９：０５～１０：１０
整列・園長先生の話	１０：１０～１０：２０

保育園出発　　10：25
学校到着　　10：35

＊保育実習では、
・保育実習を通して、乳幼児の特徴をとらえさせる。
・保育園での子どものようすや保育園の遊具、園庭、教室なども観察させる。
・子どもと遊ぶことが、苦手なものは無理に遊ばなくとも子どものようすをよく見てくるよう伝える。
・園長先生、副園長先生の話や主任の先生の注意事項に耳を傾けさせる。

（6）保育実習レポートを書く。

・実習から帰ってきたら、すぐ保育メモを書かせ、レポートを書く際の参考にさせる。
・子どものようす、反省、感想などをまとめさせる。

保育　No、13	実習日：平成1　年　月　日（　）		
保育園実習レポート　3年　組　番氏名			
大原保育園　　組（　　才児）園児　　名			
◎保育実習の感想・反省（子供とのふれあいの中で、感じたこと、考えたこと、気づいたことなど）			

（7）保育実習の時に行った保育園のクラスの子どもたちを対象に絵本づくりを行う。
・年令にあった絵本づくりをこころがける。
・いろいろな絵本をみせ、ストーリーやねらいを考えさせる。
・下書きをさせたうえで、ひとりひとりアドバイスをし、下絵については、美術の先生にもみてもらう。
・絵の苦手な生徒もいるので、絵だけにこだわらず、文字、数字、布、折り紙などいろいろな素材を利用させる。
・子どもの頃よんでもらった絵本や印象に残っている絵本などあげさせたり、絵本を持ってこさせたりして、子どもの頃をおもいださせ、子どもの気持ちになって、絵本制作に取り組ませる。

絵本の下絵

保育（絵本づくり）

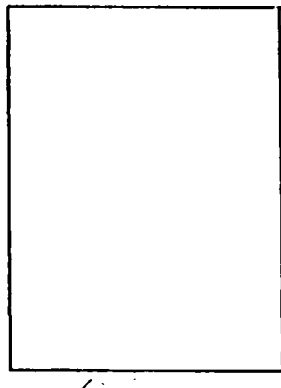
（文書 たて 右とじ）（文書 よこ 左とじ）（文書 よこ 上とじ）
とじ方によって、むきやスタートがちがうので注意

題名「だいすき・しりとり」

対象年令　3才ぐらい

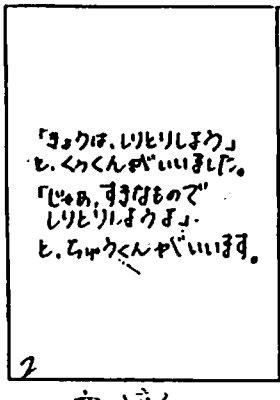
色もつけてみよう

表紙

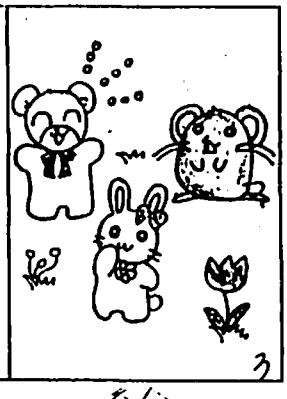


介入

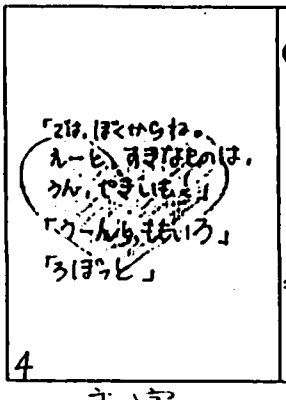
題・文字・絵



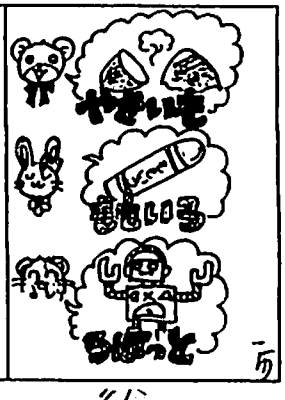
文字



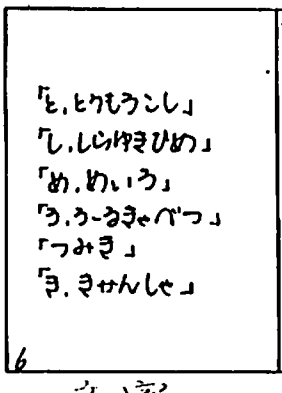
絵



文字

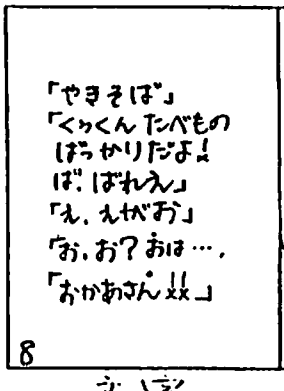


絵

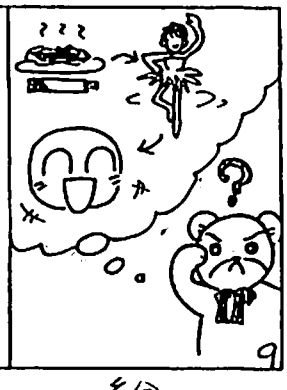


文字

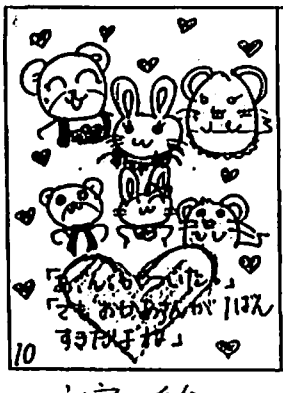
絵



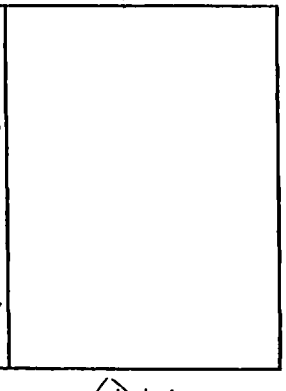
文字



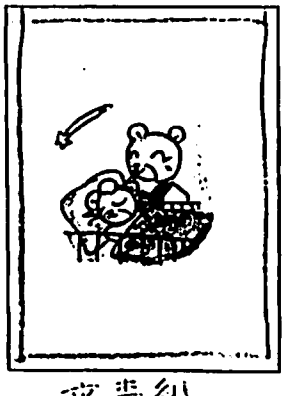
絵



文字＋絵



介入



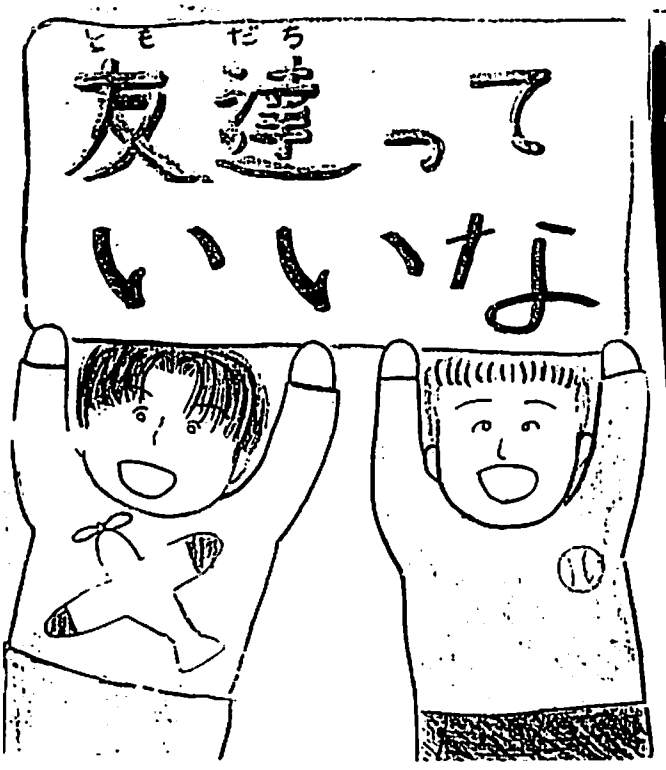
裏表紙

この本のねらい
（わかってもらうことなど）

（お母さんが
1番はっぱと
いうこと。）

3年　　組　　番　氏名

＊できあがった絵本



（8）保育園にできた絵本を持っていく。

（9）ミルクの作り方、おむつ替え、沐浴の実習を行う。
・保育園で実際おむつを替えてきたものもいるので、やってみせたりして体験したことを生かして授業を行う。
・むかし、自分もこのようにしてもらっていたことに、気づかせる。

保育 NO.15　調乳・おむつ替えの沐浴（もくよく）実習 その1　3年　組　番　なまえ（　　）

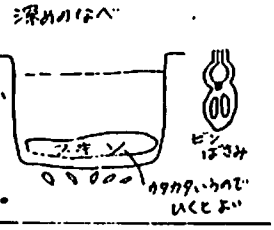
消毒

① 哺乳びん・乳首・ふた を 煮沸消毒（生後3ヶ月までは） する。（ぶっとうした湯で 5～6分）

② びんばさみでとり ふきんやタオルの上におき 自然乾燥させます。

③ 消毒のすんだびんや乳首は ほこりがかぶらない所に保管します。

④ 生後4ヶ月以降は 洗剤で洗い よく乾燥させる。



調乳の

① 人工乳 ～ 新生児から母乳のかわりにのませるミルクです。母乳に栄養分に近づけてあります。牛乳では不足する栄養もあり 粉ミルク（人工乳）を利用します。もちろん 母乳がたっぷりでるのであれば母乳でよいです。もし 母乳で不足する分を人工乳で補うことを『混合栄養』といいます。

A・母乳のみ
B・人工乳のみ
C・混合栄養（母乳＋人工乳）

保育 No.16　調乳・おむつ替えの沐浴（もくよく）実習 その2　3年　組　番　なまえ（　　）

おむつ替え（①おしっこ ②うんち）

・基本 ～ よごれたら こまめにかえてあげる。→ おむつかぶれを防ぐ
よごれたのを 泣いて知らせないときもあるので
時々（1時間おきぐらい）おむつをさわったり、のぞいたりして たしかめる。

① おしっこの場合
よごれは よくみえないが よくふいてあげる。
（市販のおしりふきや 煮沸した脱脂綿などでふく。）
・女の子は 前からうしろ 向かってふいてあげる。
・男の子の子は まわりも よくふいてあげる。

② うんちの場合
濡れたティッシュペーパーやおしりふき、清浮綿などできれいにふきとります。
お湯でおしりを洗ってあげると においもとれ さっぱりする。十分に乾燥してから おむつをあてる。うんちは必ず便器へ流す。
※よごれのひどいときは シャワーかぬるま湯で……。

おしっこ用　うんち用パケツ→殺菌剤の入った洗剤液に

おむつの種類

Ⓐ 紙おむつ
・S, M, L, LL（新生児用もある）
体重で区切ってあることが多い
ex. ～6kgまで ～10kgまでなど
・男女共用
・男の子用 女の子用に分かれて

Ⓑ 布おむつ
・おむつカバーが必要
・太ももをしめすぎない。

男の子は前を2重に
女の子は後ろを2重に

（１０）おやつの実習を行う。

・保育実習では、０～３歳未満は、１０時、３時の２回おやつがあり、１０時のおやつの時間をみてきているので、その体験も取り入れ、子どもに適するおやつを考えさせる。

２、保育実習を体験しての生徒の感想

保育　Ｎｏ、１２　　実習日：平成１１年５月１３日（木）

保育園実習レポート　３年　組　番氏名

大原保育園　タンポポ組（　０才児）園児　２３名

★行く前に想像していたタンポポ組の子供たちは、

すぐに泣いてしまってタンポポ組は泣き声がすごいだろうなあと思っていた。あとすぐになついてくれていっぱい笑ってくれるんだろうなあ。0才児同士でも仲良く遊んでいるんだろうなあ。

★実際に接してみての子供のようす

（ことばや話し方）

言葉は話しているみたいなのだけどはっきりわかんと言えてなかった。（とってもまがわいかった）話す時には手や足をばたばたさせて体でも表現をしようとしていた。あと顔でも何を言いたいのかが少し分かった。

（手の動き）（力、大きさ、特徴）

手の大きさは本当にすごい小さかったです。やわらかくて手を差し出すとにぎってきてくれた。力は思ったより強かったような気がします。物をにぎるのが好きなように思えました。

（足の動き・歩行機能）（力、大きさ、特徴）

足も小さくてやわらかかったです。歩く人はいるのだけどバランスをくずしてたおれてしまう子がほとんどでした。でも二生懸命歩こうと頑張っている子が多かったです。つい「あ、危ない」と思ってしまった。ところびそうで

（運動機能）

走ったりすることはもちろんありませんでした。でも0才児からすればあるいてることが運動と同じようにつかれていると思います。動きまわるのが好きな子とじっとしている子の差がありました。

（感情のあらわし方）

感情は顔でもすぐ分かりましたが、友人といっても体全体を使うことが多かったです。体を動かして（揺に）イヤだということを表したりうれしいと体がゆれてすごい笑顔になったりしていた。

（遊びや人との関係）

他の子と一緒にというのはあまり見かけませんでした。私達がいたから友達と遊んでいなかったのかもしれないけど、一人でたのしいことを さがして自分で遊んでいるという光景が多かったです。その見つけたことを教えてくれたり、手でたたいて「見て～」ということを言っていた。

（基本的生活習慣…食事・排泄・着脱衣など）

何か決まりの時間があるとすぐに集まっていい子だった。たとえば人形がでてきたらその回りにすばやく集まって先生の話をきいていた。食事の時もちゃんと座についてえらかったです。

（０才児の特徴をまとめると）

全体的に泣く子は少なかったです。印象としてせんせいちかくにいた。でも表情変化が少しはげしかったような気がします。反抗したりはしないでいい子ばかりでした。「かわいかった！」

保育　No、13　　実習日：平成11　年　5月　20日（木）

保育園実習レポート　3年　組　番氏名

大原保育園 ききょう　組（ 5 才児）園児 29 名

◎保育実習の感想・反省（子供とのふれあいの中で、感じたこと、考えたこと、気づいたことなど）

最初、僕の担当するクラスは、少しおとなしいと聞いていたので、うまく接することができるか不安だった。

でも、みんな元気で、うまく接することができた。園庭(?)を手をつなぎながら走ったりしている時、

すごく手が小さくて、二本の指で手をつないだ。言葉もはっきりしていて、中には難しい言葉を話

している子もいた。なわとびの時間には、みんな得意なとび方を見せてくれた。(だいたい前か後ろとび)

なわとびを長くつなげて、その上を走っていくゲームなんかはみんなすごく楽しそうだった。

走り方も、けっこうしっかりしていて、細いなわの上でも速く走ってゴールに向かっていた。

部屋に入ると、本を読んでと言われ、読んでいると、楽しそうに聞いてくれた。

平仮名を読める子もいて、「これ、～だよ！」と得意そうだった。

最後、学校に戻る時、「帰っちゃだめ」と言われたから、「またくるよ」と言った。

指きりまでさせられた。

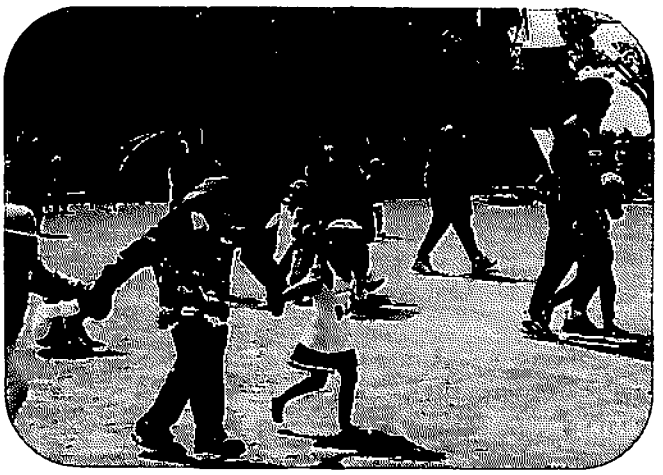
でも、すごく楽しかったのでまた行きたい。

○保父・保母さんの仕事を経験してみて
（保育士）

たった1時間だけだったけど、保育士の仕事を経験してこれを毎日するのは大変だと思った。

☆この時期の自分はどんなだったでしょう。

元気で、外で遊ぶのが好きだったと思う。

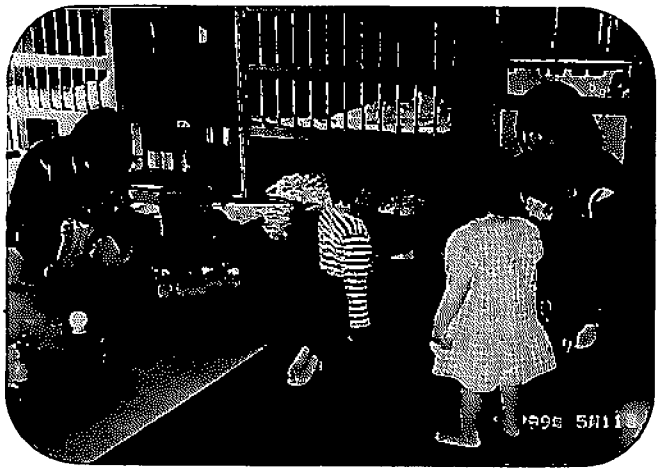


⇧ひまわり組（4才児）
「お兄さん、お姉さんいっしょにあそぼう。」

⇩たんぽぽ（0～1才児）
抱っこがうまくできるかな？

⇧ききょう組（5才児）
「がんばれ、かけっこ！」

⇩さくら組（2才児）で
10時のおやつ「おいしい？」



⇧うめ組（一時預り）
「ブロックで何を作ろう？」

⇩ちゅうりっぷ組（3才児）
子どもの目の高さになって…？

家庭科学習指導案

指導者　秋葉弘美

1、日　時　　平成１１年　６月　２５日（金）　３・４校時

2、学　級　　２年　５組（男子２０名　女子１８名）

3、単元名　　食物

4、単元の目標　　日常の食生活を見直し自分たちの健康や成長を考慮した食生活が出来るようにすると共に、実習を通して食物も役割を理解する。また、消費者としての正しい知識を持って食品の選択が出来るように望ましい態度と考え方を養う。

5、単元の指導計画（３５時間扱い）

オリエンテーション・食生活の見直し	１時間
Ⅰ中学生の健康と栄養	２時間
Ⅱ食品群別摂取量のめやす	５時間
①一日の目安	1
②バランスのとれた食生活を考える	2
③調理　バランスのとれたメニュー例「ｽﾊﾟｯｹﾞﾃｨﾐｰﾄｿｰｽ・ﾌﾙｰﾂﾖｰｸﾞﾙﾄ」	2
Ⅲ食品の選択と購入について	９時間
①生鮮食品　②食品の保存と加工のくふう	0.5
③実習　保存食品を作る「トマトピューレ」	2　（本時２／２）
④食品の購入と選択　⑤食品の上手な保存	0.5
⑥夏休みの課題を発表	1
⑦地域の特産品を使った調理の計画と実習「特産品を使ったお弁当」	5
Ⅳ日常食の調理	１４時間
①調理上手になろう	2
②実習例１　「炊き込み飯・汁もの」	4
③　　２　「ホワイトシチュー・サラダ」	4
④　　３　「クレープ・ジャム」	4
Ⅴ環境と調和した食生活	４時間

6、本時の指導

(1)本時の目標

学習した加工食品の中から家庭で応用しやすい『ビン詰め』を実習し、保存方法を理解する。
体験に基づいて食品への関心を高め、実生活での応用に気づかせる。

(2)本時の展開

	学習内容	学習活動	指導の工夫	評価
導入	実習「ｽﾊﾟｹﾞﾃｨﾐｰﾄｿｰｽ」を振り返る	・トマトピューレを例に原材料とその加工後について違いを確認する ・加工食品の種類を確認し、ピューレの加工方法の特徴をまとめる。	・実物を提示する ・教科書を参照させプリントに記入	・ピューレの特徴が言えたか ・加工方法を理解できたか
	トマトを加工してトマトピューレを作ろう　（加工食品を作ろう）			
		・手順と分担を確認し、手を洗う ・包丁やガスコンロの扱いに注意して調理する	・用具は各台に準備材料を取りにこさせる	・課題とその手段がつかめたか
展	班毎にプリントの手順に沿って実習する ☆トマトピューレを作る	・煮立った湯の中にトマトを入れて湯むきにする。 ・８等分に切ってヘタを取る ・鍋に入れて形が崩れるまでいためる ・網でトマトを裏ごしし、さらに煮つめる	・机間指導で各班の作業を支援する ・半分量まで煮つめように助言する ・用具の片づけを促す	・各自が主体的に活動しているか ・トマトがピューレ状になったか ・気づいて積極的に片づけができたか

間	☆ビン詰めに加工する 感想や気づいたこと	・鍋に湯を沸かし沸騰させる ・ビンとフタを鍋で熱湯消毒する ・蒸し器を準備し火にかけておく ・火傷に気をつけながらビンを取り出し中の水分を蒸発させる ・煮つめたピューレをビンの中に静かに入れ、フタを軽くしめる ・更に蒸気の立った蒸し器にビンを注意深く入れ、約20～15分を目安に蒸す ・協力して不必要な物を片づける この間に加工食品のまとめをプリントに記入する ・火を止めた蒸し器からビンを注意深く取りだし、フタをしっかり閉める。 ・班を表示したラベルを貼り提出する	・安全に行うように注意する ・清潔に扱わせる ・蒸気が立っている時は一度火を止めて作業を行う タイマーをセット ビン詰めの特徴と加工食品の長所	・手順が理解できたか ◎安全な扱いができたか ・協力的な行動に気づき実践できたか ・記入することで分かったか ◎
まとめ	食品の加工を振り返り学習のまとめをする	・ビン詰めが家庭でも応用できる加工方法であることを知る ・微生物の繁殖をおさえるための工夫が何であったか再度確認する	・ビン詰めの特徴を発表させ全体確認	・楽しく意欲的に実習できたか ・ビン詰めが理解できたか

（家庭）科 研究授業を終えて

1、授業者	秋葉 弘美	
2、日時 学級	平成（11）年（6）月（25）日（金） （4）校時　（2）年（5）組	
3、単元	食物　加工食品	
4、関連する教科と単元		

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

生徒自身が、直前に行なわれた実習「ミートソース」おいて実際に使用した加工食品を改めて手作りし、生鮮食品を保存を目的に加工する内容であったので的を得た発言や動きが見られたと思う。

2，生徒の活動

活動内容が大きく2つに分かれ、食品を加工していく作業と、それを保存のために「びんづめ」加工する作業になる。前半はトマトのにがてな生徒でも細かな流れと経験のない作業内容からくる目新しさで関心も高まり言動に楽しさを感じさせるものが目立った。

後半は消毒を重視して熱を通すなどの時間が長く待ち時間を要したので緊張の持続させる工夫が必要であった。

3，生徒の興味、関心

「調理する」ことに対して生徒たちは興味があり積極的に取組む姿が見られた。また日常の中で自ら「調理する」場面を持ちにくい現在の中学生は実習自体が関心の高いものである。反面その作業自体に慣れ親しみにくい分、個人的な確認を教師から求める者も多く。

(2) 生徒の声、感想など　指導者は対応しやすいように多くの下準備や段取り等、事前にやるべきこと点検する必要がある。

ビンづめがよくわかった、十分にわかった …多数

家にある空ビンでいいなら自分でもやれそう。　実際にやってみた。ジャムをつくり自分でやってみようと思うけど消毒がめんどくさそう。時間もかかる。

ピューレは本当にトマトだけで濃縮して出来ることがよくわかった。トマトしか使っていなかった。

(3) その他話し合われたこと

教科としての性格上、加工したという事実だけでなくこれをさらに応用することが重要である。したがって次の実習に活かす工夫へとつなげ、さらに関心を高めたい。

「びんづめ」自体が家庭で手軽に応用できる方法であるので、学んだことが家庭で活用されることを願う。

とにかく実体験に乏しい生徒が多い中、マニュアルとして示し経験をさせることそのものが、生活教科としての基本なのではないだろうか。又関心が高まり…と感じると思う

英語科　その他の実践

1学年

単元名：うちにおいでよ

・外国人の友達を家に招き接待することを想定し、ペアを作り、そこでの対話文を考えた。その後、小道具を準備し、教室を家の中として見なし、接待する様子を英語で実演し合った。

よく練習ができたペアは、原稿を見ずに感情も入れて発表することができた。

外国人の友達を家に招いて接待しよう

Taro：Hi, Tony. Welcome to my house.
Tony：Thank you.
Taro：Please come in.
Tony：Oh, It is a beautiful room.
Taro：Thanks.
Taro：Are you tired?
Tony：No, I'm not. Thank you.
Taro：Oh, I see.
Taro：Are you thirsty?
Tony：Yes, a little.
Taro：Do you want juice?
Tony：Yes, please. Thank you.
Taro：Okay, here you are.
Tony：Thank you.

2学年

単元名：オーストラリアからの手紙

・この単元で英語の手紙の書き方の形式について学んだので、それを受けて、友達や先生などに手紙を書いた。また、普段は AET に自主的に手紙を書いている生徒も多く、返事をもらうことを楽しみにしている。

June 1

Dear Graham,

Hi, my name is ____, I like baseball. That's why I'm in the baseball club. What kind of sports do you like?

My hobby is listening to music. I like GLAY and SPITZ. I have many CDs.

I'm a regular in the baseball club now. I want to be a professional baseball player.

I spend a very happy school life.

Please come to my class and teacher us.

Sincerely yours,

Dear Jeff　　June 9th

How are you?
I hope everything is ok for you.
Is your pet Ferrelo fine?
I have a dog
Her name is Bell.
I go for a walk with Bell every day.
Bell looks very cute, but she sometimes bad.
Have you been to Canada?
I want to go to Canada Someday.
Hello say to your pet.

Take care
Good bye
See you back in school

3学年

単元名：電話の会話

・まず、本人は在宅しているが他の人が電話に出る場合、本人が不在で伝言を残す場合、本人が電話に出る場合、間違って電話をかけた場合の４つの状況における代表的な表現を学習した。　その後２～３名のグループを作り、自分たちで独自の状況を考え出し、会話作りをした。電話器を用い、できるだけリアルに発表した。

電　話　の　会　話 (p. 37)

class(2) name(　　)

状況：1、本人は在宅しているが、他の人が電話に出る
◎、本人が不在で、メッセージ（伝言）を残す
3、本人が電話に出る
4、まちがって電話をかける

詳しい状況：リフォーム会社からのセールスの電話。対応をのばす。現不在とする（が、対応はいた方が。）

＜日本語版＞	＜英語版＞
A：もしもし？まつざきです。 もしもし、リフォーム泉下ですけど… B：おとさん かお母さん いる？	A：Hello? This is the Matsuzakis. Hello. This is reform Kurishita. B：Is your father or mother there?
A：うーうん 今いない ちょっと前に買い物に行っちゃった。	A：No. They went shopping a minute ago.
B：そっかぁ～。おじょうちゃん 一人でお留守番？	B：Oh really?. Are you home alone little girl?
A：うん。あたし一人でも平気だよ。	A：Yeah. I'm alone, but it's o.k.
B：強いのね～。じゃあ夕方ごろまたかけるっていっておいてくれる。 A：はぁい わかった。（ガチャン）／お母さん またかけるって。	B：You're a big girl aren't you. Well, I'll call again later tonight. A：OK. / Mommy, she said she'll call back later.
B：じゃあ今度はお風呂っていっておいてネ。	B：Next time tell her I'm in the bath.

単元名：ヒューストンでのホームステイ（現在完了形）

・「修学旅行で外国の人と交流しよう」ということで外国の人との会話を学習した。班の中で、会話を割り振り、覚え、発表する。　その会話の中でオリジナルな質問をするところを一カ所設けてある。修学旅行から帰って、交流した相手の名前、出身国、感想などのレポート報告を行った。

交流した外国人についてのレポート

＿＿班＿＿班
班員＿

1. What's his name? ダナ
(her)
2. What country? America
3. How long has he been in Japan?
(she)
One week
4. Original question
Where have you been?
その答は Hiroshima
5. Did you take a picture? Yes
6. 外国人と交流してどんなことを感じましたか。また他にもわかったことなど何でもよいですから書いてください。（ここは日本語でOK）

外国人と話しをした事があまりなかったのでとても緊張しましたけどとてもやさしくて色々な話をしてくれました。　初めの未熟な英語では通じない事もあったけど、動作などでもわかって、楽しく会話できました。　その方はとても親切に広島の話を聞いてきてすごくうれしかったです。うまく言葉が話せなくても、ちゃんと、伝えられる事ができる人だなあと思いました。外国の方と話をして見たいと良い経験になりました。

B 横断的な授業

2年生の理科と技術科における電気分野のクロスカリキュラム（平成１０年度）

指導項目

［理科］

回路を流れる電流
- 回路　導体・絶縁体
- 電流の向き　回路図

電流の大きさ
- 電流の保存　直列回路と電流
- 並列回路と電流

電圧
- 電圧の配分　直列回路と電圧
- 並列回路と電圧

電流と電圧の関係
- オームの法則　抵抗　合成抵抗

電流による発熱
- 発熱量と電流・電圧・電力・電力量

放電と電子
- 空中放電　陰極線

電子の流れ
- 自由電子　静電気

磁石のまわりの磁界
- 磁界　電流のまわりの磁界

磁界の中で電流が受ける力
- 電磁誘導

家庭や工場で使う電気
- 直流と交流　ショートと感電

［技術科］

電気機器の構成
- 電源　負荷，導線

電流の流れる道すじ
- 実体図と回路図
- 直流　交流　周波数
- オームの法則（電流　電圧　抵抗の関係）

電気機器のしくみ
- 電気を熱に変換（電気アイロン　電気こたつ）
- 電気を光に変換（白熱電球と蛍光ランプ）
- 電気を動力に変換（扇風機　電気掃除機）
- 情報伝達への利用（ラジオ受信機　増幅のしくみ）

簡易導通テスタ製作と電気機器の簡単な点検方法
- 回路計を使って電気を測定
- 直流電圧　交流電圧　直流電流　交流電流

電気機器の安全な使い方

電気機器の寿命

電気機器の材料と安全性

戸外から屋内までの電気の道すじ
- 分電盤　感電　ろう電

電気機器の設計・製作

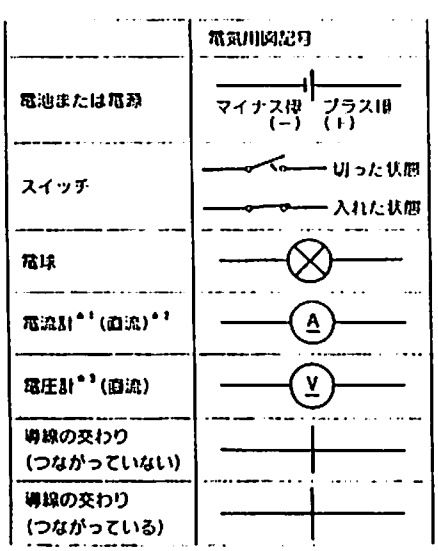
電気の有効利用と地球環境

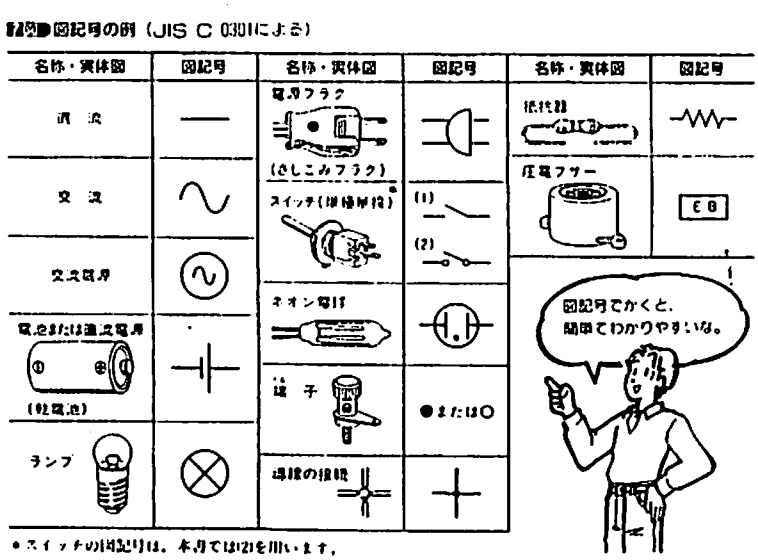
クロスカリキュラム形態１

理科カリキュラムの技術科分野の補充

理科で扱う電気は、電池、豆電球、電熱線、電流計、電圧計など、日常ではあまり使われないものを使っての実験・説明が多い。対して、技術科での電気は日常性が高く、生活の中で生かせる知識となっている。この部分を理科に取り入れたいと思う。

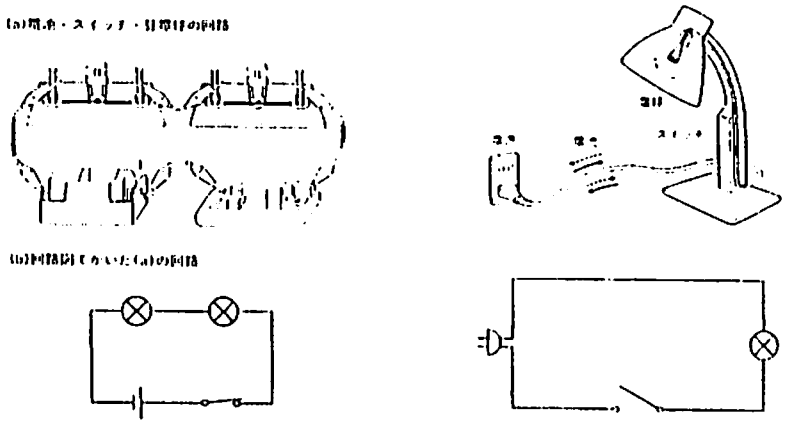
<回路図の取り入れ>



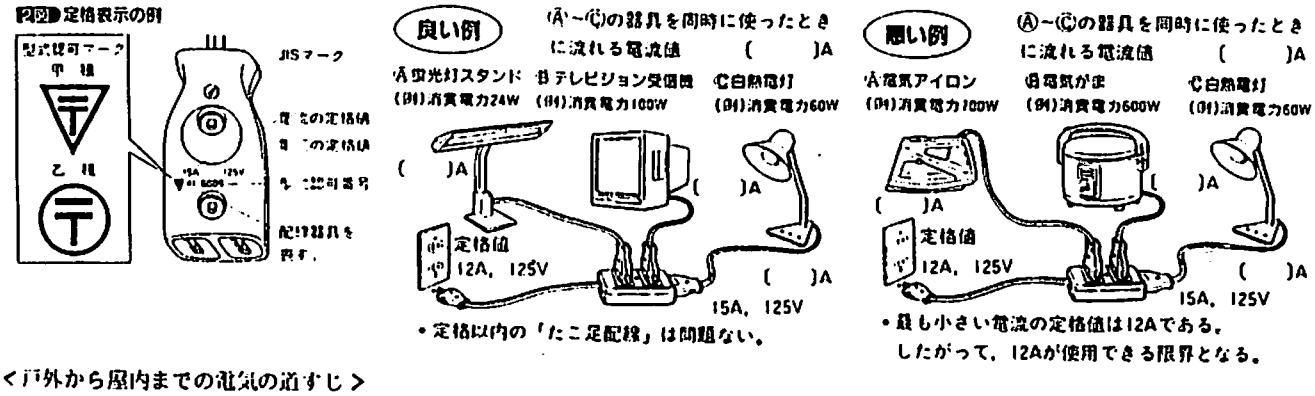


＊具体的には技術科・理科の学習内容に違いがないことに気づかせるため、技術科教科書をプリントしてわたした。

＊理科の中間テストにプラグの記号を出題。



<＜電気機器の定格＞
電力の知識の導入による家庭用１００Ｖでの電流の計算をさせ、実際家庭での機器に応用して、ブレーカーがとぶのを防ぐことを考えさせる部分は、技術科の記述が大変参考になる。
＊今回は、例題の中で使って計算を行った。



<＜戸外から屋内までの電気の道すじ＞
電気取り扱いでの安全面の記述をしているが、補足のために技術科の内容を取り扱いたい。

クロスカリキュラム形態２
技術科分野の電気関係の公式を理科の理論で補充
技術科で使われるオームの法則・電力の計算の理論的扱いを理科で行っているので、直接応用に入れるようなつながりができる。

電気に関する基本知識

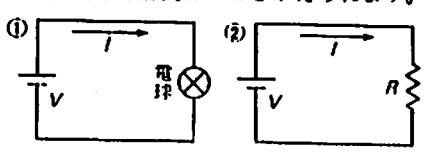
オームの法則　抵抗R[Ω]と電流I[A]，電圧V[V]とのあいだには，

$$V[\mathrm{V}] \div I[\mathrm{A}] = R[\Omega]$$

の関係があり，これをオームの法則といいます。上式は，次のようにもかきかえることができます。

$$V = R \times I,\quad I = V \div R$$

下の①，②の回路図で，電圧Vの値が①と②で等しく，かつ①の電球に流れる電流Iと同じ値の電流が②の抵抗Rに流れる場合は，電球を抵抗Rにおきかえられます。



深めよう　電力と電力量

抵抗R[Ω]に電圧V[V]を加えたとき流れる電流I[A]によって，単位時間に消費する電気エネルギーの量を電力Pといい，単位にはW（ワット）が使われます。

$$P = I \times V$$

オームの法則を用いると，

$$P = I^2 \times R = V^2 \div R$$

と表すこともできます。

ある時間t内に消費した電力の総量を電力量Wといい，単位にはWh（ワットアワー）が使われます。

$$W = P \times t = I \times V \times t$$

たとえば，100Ｖ，600Ｗのヒータを１時間使用したときの消費した電力量は，600Wh または0.6kWh（キロワットアワー）となります。

1 kWh＝1000Wh

クロスカリキュラム形態３
２教科間での関連をお互いに意識しながらの幅広い学習

指導項目	指導内容	クロス	指導内容	指導項目
回路を流れる電流	回路　導体・絶縁体 電流の向き 回路図		電源　負荷　導線	電気機器の構成
			実体図と回路図	電気の流れる道筋
電流の大きさ	電流の保存 直列回路と電流 並列回路と電流		分電盤 【テーブルタップの製作】	戸外から屋内までの電気の道筋
電圧	電圧の配分 直列回路と電圧 並列回路と電圧		直流と交流 周波数	電気の流れる道筋
			直流電圧 直流電流 交流電圧 抵抗	回路計を使って電気を測定
電流と電圧の関係	オームの法則 抵抗 合成抵抗		オームの法則	電気の流れる道筋
電流による発熱	発熱量と電流・電圧 電力・電力量		電気を熱に変換 電気を動力に変換 情報伝達への利用 電気を光に変換 【調光装置用豆電球の製作】	電気機器のしくみ
放電と電子	空中放電 陰極線			
電子の流れ	自由電子 静電気			
				電気機器の簡単な点検方法
				電気機器の安全な使い方
				電気機器の定格
				電気機器の材料と安全性
磁石のまわりの磁界	磁界 電流のまわりの磁界		感電 ろう電	戸外から屋内までの電気の道筋
磁界の中で電流が受ける力	電磁誘導			
家庭や工場で使う電気	直流と交流 ショートと感電		【電気回路の製作】	電気機器の設計・製作
				電気の有効利用と地球環境

理科との横断的な授業を終えて

平成１０年度

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1. 生徒の様子

事前に理科で電気の概念的なことを学習することによって、「電気って何だろう！」というようなおもいが感じられる生徒が多くいたように思う。
理科での学習が理論的なことが多く、電気に対するアレルギーを感じ「電気はいやだ！」「オームの計算がわからない」という生徒もいたようである。乾電池と豆電球を使って、「回路に流れる電流」「回路にかかる電圧」を直列・並列回路で調べ、まとめる。電流と電圧の関係から「オームの法則」を導き出すのが理科の学習だが、このことを技術科でも、レポートにまとめさせ確認をしてから授業を進めるようにした。あらためて確認することによって、「あ！　そうだったんだ。」というような発言もあり、より学習の定着がなされたように思う。

2. 生徒の興味・関心

理科の学習から、より現実の社会（まずは家庭内）へ近づけた学習に心がけることによって、家庭内の電気にも興味を感じた生徒も多く、電化製品や装置などに対して自分で調べたり、質問する生徒がみられようになった。
実験・観察を積み重ねていく中で、授業の内容を把握し、理解して行動できるようになってきたように思う。

3. その他

理科で理論面を先に教えることで、技術科での理論的な内容をカバーすることができ、２～３時間の時数の削減が可能になった。

(2)今後の課題

理科との連携・クロスにより、生徒の興味を高めることができたと思われる。また、生徒が主体的に課題に取り組むことができるような指導法の工夫につとめていく必要性をつよく感じるとともに、発問の仕方なども大切であり、より具体性のある発問に心がけることが大切である。

平成１１年度

昨年度と単純に比較することはできないが、より体験的な活動を取り入れているといってもどうしても理論に偏りがちな理科の授業に対して、それをより具体化してあげるために、身近な電化製品を用いての実験・観察を行うことにより、「なるほど」「そうなんだ」といった驚きにも似た声となって現れるようになった。つまり、電気をより身近な物としてとらえることが出来てきているように思う。これは、より主体的に取り組む姿勢を持ちつつある現れではないか、そういう生徒の様子がうかがえるようになってきている。

新聞づくり指導計画（国語科・技術科）

平成１１年度

国語

２年３学期　　指導内容・項目

表現２　新聞を作ろう
（新聞の作り方学習する）
身近な情報を活用しよう
　修学旅行新聞を作ろう
　１.企画を立てる
　　新聞名
　　内容
　　割り付け
　　分担
　　見出し
　　（２時間）

３年（６月）

　４.記事を書く
　　表現１調べて報告する　（３時間）
　５.「俳句を味わう」
　修学旅行で思い出に残った場面を
　俳句にし、新聞に載せる。（２時間）

（９月）

　６.推敲
　　校正作業　（１時間）

（９月）

　７.できあがった新聞を
　クラスで発表し、評価
　し合う
　８.自己評価　（２時間）

技術科

３年１学期（５．６月）　　指導内容・項目

パソコン新聞を作ろう
　１.修学旅行の新聞を作ろう
　２.情報収集（調べ学習）
　　観光ガイド・パンフレット
　　ＣＤ－ＲＯＭ教材・インターネットなど
　３.レイアウト枠の決定
　４.柱の入力
　（発行年月日・新聞の名前題字・号数）
　５.新聞の題字を入力
　６.題字下の入力
　７.本文の見出し入力
　８.トップ記事のリード入力
　９.他の記事の見出し入力
　10.コラムの見出し入力
　　（１０時間）

（７月）

　11.記事スペースに文章入力
　　エディタの活用
　12.記事の中の文字の大きさや書体を変える
　13.写真スペースと写真の大きさの変更
　14.イラストの作成・取り込み　（５時間）

（９月）

　15.修正作業・編集　（１時間）

授業を終えて

1、授業者（教科）	近藤紀子・田中広美（国語科） 荻原敬三（技術科）
2、授業期間	平成１１年３月～７月
3、関連する教科と単元	（国）２年　表現２　新聞を作ろう ３年　表現１　調べて報告する・俳句を味わう （技）３年　パソコン新聞を作ろう

4、授業をふりかえって

(1)生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1、生徒の活動

・情報収集の面で、観光ガイドやパンフレットだけではなく、インターネットなどを活用することにより、情報の幅が広がった。

・新聞の形式（レイアウト枠）については、ＣＤ－ＲＯＭ教材を用いて、数あるパターンの中から好きなものを選んだ。

・新聞の題字や見出しは書体を変えたり、カラフルにしたり工夫していた。

・例年ならば短冊に書いていた俳句を新聞に載せることにより、ひと味違う新聞になった。

・写真やイラストを入れるなどさまざまなレイアウトの方法を積極的にとり入れ、分かりやすい新聞作りをしていた。

2、生徒の興味・関心

修学旅行の新聞を作るという形をとることにより、ただレポート的な文章を作成するよりも、より総合的な学習ができた。修学旅行での思い出を１枚のパソコン新聞に収めることは生徒にとっては難しい課題だったと思うが、自分でとった写真を読み込んだり自分で描いたイラストを入れたりと楽しんでできたように思う。自分の学習の成果が新聞という形になったことは、達成感があったようだ。

(2)その他話し合われたこと

国語科では記事書きや俳句作りなどの内容面について、技術科ではレイアウトなどについて評価を行った。

家庭科の絵本制作における美術科とのクロスカリキュラム

（平成10年度）

家庭科では、保育領域で毎年「おもちゃの制作」をやっていますが、その中で今年度は乳幼児向けの絵本の制作に取り組んでいます。絵本では、美術的な要素もあるので、家庭科だけでなく美術科の先生のアドバイスをいただき授業をすすめることにしました。

家庭科		美術科
「保育」領域おもちゃ制作（絵本作り）		
1学期　7月	（1）絵本についての基礎知識 ・こども向け絵本（0～6才児）を鑑賞する。 ・こどもと遊び ・絵本の読み方、絵本の必要性 ・乳幼児の発達段階に応じた絵本	既習事項を応用し、下絵を作成させる。
夏休み	（2）下絵を考えてくる（下絵の作成） ・ねらいの設定 ・ストーリーや場面を考える	・文字のレタリング ・文字の強調
9月	（3）下絵の提出 ・家庭科では「ねらいとストーリー」を中心にアドバイスする ・美術的なアドバイスも参考に下絵を再考する←	・画面構成 ・空間の取り方、配置 ・配色・彩色 ・色の感情 美術科からのアドバイス（個々の下絵に、コメントを書いてもらう。）
10月	（4）下絵の完成	
	（5）絵本の清書 ・表紙、裏表紙 ・文字、絵	
12月	・彩色、仕上げ	
1月	（6）絵本の完成（保育的評価） （7）絵本の感想、反省	←できた絵本について美術的評価
2月	（8）絵本の相互鑑賞	

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	坂本 緑 （家庭科）
2、日時	平成（11）年（2）月（2）日（火） （5）校時 （3）年（2）組
3、単元	保育
4、関連する教科と単元	美術

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1. 発言や話し合い

② 生徒の活動　絵本作りの感想・反省を書いた。その際、他の人の本の鑑賞も行なった。プリントを用意して、やったが、一生けん命書いていた。

③ 生徒の興味、関心　とても関心のある子と、絵が苦手でかくのが苦痛な子に分かれる。比較的女の子は好きで、どんどんやるが、絵を描くことが好きでない子ははなかなか進まず大変であった。この題材が適当であるかどうかという所で考えさせられる問題である。絵本の感想反省はよく書いていた。友人の絵本を鑑賞することは、1時間では時間が足りなかった。

(2) その他話し合われたこと

○良かった所・改善点

◎今年度は絵本の下絵を、家庭科と美術科でみることができたので、生徒もいろいろな面で参考になり、よかったと思う。作品もかなりよい作品もできてよかった。

＊夏休みあけが下絵の提出になっているが描けない子もいて、下絵が、全員なかなかそろわないクラスがあった。ただ美術的になると抵抗のある子もいるので、むずかしい。

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	（美術科）
2、日時	平成（　）年（　）月（　）日（　） （　）校時　（　）年（　）組
3、単元	
4、関連する教科と単元	家庭科（絵本の製作）

5、授業をふりかえって

（1）生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

2，生徒の活動

3，生徒の興味、関心

（2）その他話し合われたこと

○良かった点，改善点，

美術科の学習にも絵本づくりやとび出すカードづくりがある。3年生は、この学習をしていなかったので、家庭科と連携してすすめることができてよかった。しかし、美術は授業数が週に一度しかないので、連携していくことはかなり難しかった。その中で、今年のやり方が十分かどうかは課題はあるが、やってみて良かったと思う。今年は下書き（アイデアスケッチ）でデザイン的な視点から指導し、家庭科で指導しにくい部分を補えるようにした。今後も教科会を持ち来年も引き続きやってみたいと思う。

家庭科の絵本制作における美術科とのクロスカリキュラム

（平成11年度）

家庭科では、保育領域で毎年「おもちゃの制作」をやっていますが、その中で今年度は乳幼児向けの絵本の制作に取り組んでいます。絵本では、美術的な要素もあるので、家庭科だけでなく美術科の先生のアドバイスをいただき授業をすすめることにしました。

家庭科		美術科
「保育」領域おもちゃ制作（絵本作り）		
1学期　7月	（1）絵本についての基礎知識	
	・こども向け絵本（0～6才児）を鑑賞する。	
	・こどもと遊び	
	・絵本の読み方、絵本の必要性	
	・乳幼児の発達段階に応じた絵本	既習事項を応用し、下絵を作成させる。
夏休み	（2）下絵を考えてくる（下絵の作成）	
	・ねらいの設定	・文字のレタリング
	・ストーリーや場面を考える	・文字の強調
9月	（3）下絵の提出	・画面構成
	・家庭科では「ねらいとストーリー」を中心にアドバイスする	・空間の取り方、配置 ・配色・彩色 ・色の感情
	・美術的なアドバイスも参考に下絵を再考する←	美術科からのアドバイス（各自、美術の時間に下絵について、コメントをもらう。）
10月	（4）下絵の完成	
	（5）絵本の清書	
∫	・表紙、裏表紙	
	・文字、絵	
12月	・彩色、仕上げ	
1月	（6）絵本の完成（保育的評価）	
	（7）絵本の感想、反省	←できた絵本について美術的評価
2月	（8）絵本の相互鑑賞	

国語科・社会科クロスカリキュラム学習指導案

指導者　中村　行利　・　佐藤　恒子

1．日　　時　　平成１０年９月３０日（水）　第５校時
2．学　　級　　２年７組（男子２０名・女子１６名　計３６名）
3．単 元 名　　〈国語〉
　第五単元　古典に親しむ　　木曾の最期ー「平家物語」よりー
〈社会〉
　第二章・第二節　貴族の政治と文化の国風化～
　第三章・第一節　鎌倉幕府と元の襲来

4．単元の目標　　我が国の代表的な軍記物語や随筆を読み、昔の人の考え方や生き方を知り、古典を読む楽しさ・興味・関心を高める。また、従来理解を難しくしていた時代背景等を、教材の配列を変え、歴史学習時期に近づけることで相互の指導領域で補いあう。

・国語科の視点　①　軍記物語としての面白さ、和漢混合文の歯切れのよさを味わわせる。
　②　主従関係・武士の名誉などを二人の心情をとおしてとらえさせる。
　③　平家物語成立の背景にある時代の無常観を考えさせる。

・社会科の視点　①　平安末期から鎌倉時代にいたる時代の流れをとらえさせる。（平氏の台頭、平氏政権の特色、源氏との対立と源平の合戦、平氏の滅亡など）
　②　制度としての主従関係、恩賞（御恩と奉公）についてとらえさせる。
　③　平家物語の時代の「郷土史」をとらえさせる。

5．単元の指導計画

＜国語科＞

◇木曾の最期　（６時間）
1　「平家物語」の概要について知る。
　成立時期・作者・軍記物・平曲・作品のあらすじ・時代背景
2　話の展開をとらえ、義仲のおかれた状況を理解する。
3・4　文語文を読み、義仲と今井の言動から、両者の心情を読み取る。
5　義仲と今井の最期を比較し、考えたことを話し合う。また、三浦石田次郎為久について知る。
（本時）
6　「祇園精舎の鐘の声……」や「木曾の最期」を、和漢混合文の特徴を生かして朗読する。

◇つれづれなるままにー「徒然草」より
（４時間）

◇朋あり遠方よりきたるー「論語」
（３時間）

＜社会科＞

◇第二章・第二節　貴族の政治と文化の国風化（４時間）
・平安京に都を移す　1
・摂関政治と武士のおこり　1
　1 摂関政治
　2 武士の登場
・東アジア世界の変化と国風文化　1
・院政と平氏の政権　1
　1 院政
　2 平氏の政権

◇第三章・第一節　鎌倉幕府と元の襲来　（８時間）
・源平の戦いと鎌倉幕府の成立　3
　1 平氏の滅亡
　2 源平の戦いと伊勢原の武投
　3 鎌倉幕府の成立
・幕府政治の進展　1
　1 承久の乱
　2 北条泰時の政治
・武士と農民の生活　1
　1 武士の生活
　2 農民の生活
・アジアのうごきと元の襲来　1
　1 元の成立
　2 元寇
・鎌倉幕府の滅亡　1
　1 幕府のおとろえ
　2 鎌倉幕府の滅亡
・新しい仏教と鎌倉文化　1
　1 鎌倉文化
　2 新しい仏教の広まり

6．本時の指導（第５時）

（１）本時の目標

登場人物の行動や心情を読み取り、中世の「武士」の生き方や郷土に深い関わりのある人物について社会科分野から補足をすることによって学習を深める。

（２）本時の展開

	学習内容	学習活動	指導の工夫	評価
導入	1.前時までの学習を想起する。	◇主従二騎となってからの二人の言動を通しての心情を確認する。（復習）	◆【国】 ・カードを掲示し、既習事項を思い起こさせる。	
展開	2.義仲と今井四郎兼平の最期の様子から主従関係、名誉を重んずる武士の生き方を知る。	◇二人の最期を比較する。 ◎義仲…大将軍として立派に自害するつもりだったが、三浦の石田次郎為久に討たれる。 ◎兼平…主人の死を知り、後を追い武士として立派な最期を遂げる。	◆【国】 ・二人の生き方において何が一番大切であったかが前面に出るようなまとめを導き出す。 ・両者の生き方への感想もあわせて発表させる。（共感と疑問）	◎自分の考えを自信もって発表できたか。（表） ◎二人の最期を比較して、両者の生き方について自分なりに考えることができたか。（理）
	3.当時の武士の生き方や考え方について感想をまとめる。	◇今までの発表を参考にして、武士の生き方や考え方についての感想をまとめる。 （予想される生徒の反応） A義仲が武士として名誉ある死を遂げられなかったのは残念だ。 B兼平の死に方が潔く格好いい。 Cお互いを思いやる姿に感動した。 Dどうして兼平はあんなにも名誉にこだわるのか。　など		
		◇当時の武士の主従関係や生き方についての説明を聞く。 ・「平家物語絵巻」を見る。 （木曽の最期、兼平自害の場面） ・「一所懸命」土地のために戦う。 ・武士の体系	◆【社】 ・史実としての武士の姿を追う。 ・武士の名誉とは何かを考えるための援助となるようにしたい。	◎武士についての説明を熱心に聞き、武士について理解が深まったか。（関・理）
	4.郷土に深い関わりのある人物についての理解を深める。	◇義仲を討った三浦の石田次郎為久についての説明を聞く。 ・「三浦の石田次郎為久」 中世の武士の名前の名乗りを通して、中世の神奈川における武士集団の構造について理解を深める。 ・石田氏について知る。	◆【社】 ・系図等資料をもとに、三浦一族（介）が神奈川全県に進出していく様子を、実物投影機を使って解説する。	
まとめ	5.当時の武士の生き方をふまえて、改めて義仲と兼平の心情を理解する。	◇主人を武士として死なせたかった兼平と、人間としての死を選んだ義仲の心情を理解する。	◆【国】 ・二人の生き方において何が一番大切であったかが分かるようにまとめる。	

研究授業を終えて

1．授業者（教科）	佐藤　恒子　（国語科） 中村　行利　（社会科）
2．日　時	平成10年9月30日（水）　　5校時　　2年7組
3．単　元	（国語）第5単元　古典に親しむ　「木曽の最期」－平家物語より－ （社会）第2章・第2節　貴族の政治と文化の国風化 ～第3章・第1節　鎌倉幕府と元の襲来

4．授業を振り返って

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか。（生徒の感想を交えて）

・2人も先生がいたので分かりやすかった。TVで絵などを大きく見えるのもあって、よくわかった。国語の先生一人より、社会の先生と2人の方がわからないところが少なかった。

・いつも国語で「平家物語」を聞いていると国語的な感じで、社会の「平家物語」を聞くと、社会的な「平家物語」が伝わってきました。国語の授業だけでは聞けないようなことが社会の先生から聞けてよかったです。

・違う教科の先生がきて楽しかった。いつもは苦手な教科でも、ゲストみたいな感じだったので話が聞きやすかった。

☆「平家物語」を国語と社会で時期を近付けて行うことにより、生徒の負担は減らせると思う。また、理解も深まったようだ。

(2) その他話し合われたこと。

☆国語科では、登場人物の心情面から、また、社会科では、当時の武士集団と郷土史の分野からのアプローチを試みた。教科の特色から、両者のずれを合一化させるのに苦労したが、佐藤先生が、うまくまとめてくださったのでよかった。

☆社：「人間の生きざま」が歴史の中に入ってきた方が面白い。（事実＋人間味＝厚みが出てくる。）社会科としても魅力的になった。また、今井と義仲を対比することによって、武士団が浮かび上がってくる。これは、社会科では、気付かなかったこと。観点が違えば、教師側も得るものがある。

☆クロスをT．Tでやるのは、打ち合わせ時間の確保や、時間の調整など、大変なことも多いが、生徒にとってはいい。

☆最初は時期を合わせるだけだったのが、国語科の中にT．Tの形で入ることになった。時間の関係から全てのクラスでやるのは難しい。

☆出来れば、もう少し早めに打ち合わせをし、お互いの授業を参観し合いながら進めていくとよかった。

☆調べ学習をさせてもよかった。

保健体育科・理科クロスカリキュラム学習指導案

指導者　伊藤和也

1．日　　時　平成10年11月18日（水）　第5校時

2．学　　級　1年4組（男子20名，女子17名　計37名）

3．単 元 名　保健体育科1年　「心身の発達」　理科2年「第3章1節　動物のからだのつくりとはたらき」

4．単元の目標　人間の健康についての基礎的理解として、からだや心がどのように発達していくか、心の健康を保つにはどうすればよいか、ということについて学習させると同時に、中学生期の発達段階の特徴を理解し、自分の心身の発達課題を考え、その課題に向かって積極的に取り組むことができる。

5．単元の指導計画

《保　健　体　育　科》	《理　　科》
1．からだの発達（6時間） (1)　からだの発育・発達と中学生期 (2)　呼吸器の発達 (3)　循環器の発達 (4)　二次性徴の発現と生殖器の発達 (5)　月経・射精のおこるしくみと生命誕生 (6)　神経系の発達 2．心の発達と健康（5時間） (1)　心の発達 (2)　中学生期の心の発達と特徴と自己形成(その1) (3)　中学生期の心の発達と特徴と自己形成(その2) (4)　欲求と欲求不満への対処 (5)　心とからだのかかわりと健康	1．動物の生活を観察しよう（1時間） 2．食物のとり方とからだのつくりを調べよう（1時間） 3．養分はどのようにとり入れられるか（4時間） 4．酸素はどのようにとり入れられるか（2時間） 5．血液のはたらきと運ばれ方を調べよう（2時間） 6．不要物はどのように体外に出されるか（1時間） 7．動物が運動するしくみを調べよう（2時間）
※[illegible]を共通教材として扱う	

4．本時の指導

(1)　本時の目標　呼吸のしくみと肺を中心とした呼吸器のはたらきを理解させるとともに、呼吸器の発達とは呼吸数の減少と肺活量の増加で示されることを理解させる。

(2)　本時の展開

	学　習　内　容	学　習　活　動	指導の工夫・評価
導入	・呼吸数の測定	○自分の1分間の呼吸数を測定し、新生児の呼吸数と比較させる。	保健p．44　資料2 ○呼吸数が減少していることに気づかせる ○積極的に取り組んでいるか
展開	・呼吸の意味	○なぜ呼吸をするのか考える ・吸気と呼気の酸素と二酸化炭素の濃度の違いを比較する。	保健p．44　資料1 ○濃度の違いから酸素をとり入れ、二酸化炭素を排出していることが理解できたか ○自分で考えているか
	・呼吸器のしくみ	○鼻や口から入った空気（酸素）は咽頭、喉頭、気管、気管支、を通って肺（肺胞）に入る	保健p．44　資料1 ○呼吸器のしくみが理解できたか ○積極的に取り組んでいるか
	・呼吸のしくみ	○ガス交換を理解する：酸素と二酸化炭素 ・肺胞で行なわれるガス交換：外呼吸 ・細胞で行なわれるガス交換：内呼吸	○外呼吸、内呼吸の違いが理解できたか 理科p．84　図3－12 理科p．83　図3－11 ○課題を解決しようとしているか
	・血液のはたらき	○赤血球－ヘモグロビン 白血球 血小板	理科p．86　図3－14、15 ○ヘモグロビンの性質を理解させる ○しっかり聞いているか
	・呼吸運動のしくみ	○ろっ骨、横隔膜の運動で行なわれることを理解する	理科p．85　図3－13 ○実験は理科で扱う ○興味・関心をもって聞いているか
まとめ	・呼吸器のはたらきの発達	○呼吸数と肺活量によって知ることができる ・肺胞の数が増える、肺全体が大きくなることで、1回の呼吸量が増えることを理解する	○呼吸器の発達が理解できたか ○興味・関心を持って聞いているか

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	小澤和也　（保体科）
2、日時	平成（10）年（11）月（18）日（水） （5）校時　（1）年（4）組
3、単元	からだの発達（呼吸・循環器の発達）
4、関連する教科と単元	理科　動物のからだのつくりとはたらき

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

内容が多すぎるため発問に対し考える時間を少なく発言や話し合いの時間が十分とれない。グループ学習等機能的に工夫が必要

2，生徒の活動

保体の教科書と理科の教科書を使用するので深めるのに時間がかかるので考えたり話し合う時間が少なくなる。

3，生徒の興味、関心

内容が豊富であり時間が少なくため興味関心を持って取り組むことができなかったのではないか。

(2) その他話し合われたこと

この単元を保体(1年)で扱うのであれば、理科の内容を大幅に減らしていかなければならない。

(今回の扱い方は扱い方であるのなら2年生の理科の中に保体を組み込んだ方がよい

理科・保健体育科クロスカリキュラム（平成１１年度２年）

1．単元名　理科２年「動物のからだのつくりとはたらき」
　　保健体育科１年　「心身の発達」

2．単元の目標　理科　１　身近な動物の観察・実験を通して，植物と対比しながら，動物のからだのつくりとはたらきを理解させる。
　　２　観察・実験を通して，動物の生命現象についての見方や考え方を深め，さらに生命尊重の態度を養う。
　　３　脊椎動物を中心に動物の種類や生活について理解を深めるとともに，動物の多様性や動物を分類できることに気づかせる。
　保健体育　人間の健康についての基礎的理解として、からだや心がどのように発達していくか、心の健康を保つにはどうすればよいか、ということについて学習させると同時に、中学生期の発達段階の特徴を理解し、自分の心身の発達課題を考え、その課題に向かって積極的に取り組むことができる

3．単元の指導計画

クロス部分 □

＜理　科＞	＜保健体育＞
1. 動物の生活を観察しよう（1時間） 2. 食物のとり方とからだのつくりを調べよう（1時間） 3. 養分はどのようにとり入れられるか（4時間） 4. 酸素はどのように取り入れられるか（2時間） 5. 血液のはたらきと運ばれ方を調べる（3時間） 6. 不要物はどのように体外に出されるか（1時間） 7. 動物が運動するしくみを調べよう（2時間）	1. からだの発達（5時間） (1) からだの発育・発達と中学生期 (2) 呼吸器の発達 (3) 循環器の発達 (4) 二次性徴の発現と生殖器の発達 (5) 月経・射精のおこるしくみと生命誕生 (6) 神経系の発達 2. 心の発達と健康（5時間）

4．クロス学習の流れ　5時間扱い　------部分は共通　＿＿＿部分は保健体育部分

学習内容		学習活動	指導の工夫・留意点
酸素はどのように取り入れられるか	細胞の呼吸	何のために生物は呼吸をしなければならないか話し合う。 吸収された有機物が細胞にどのように利用されるか知る。そして，細胞の呼吸によって，生物は生きていくためのはたらきに必要なエネルギーを得ていることを知る。	p. 83 の「グラフを見て考えてみよう」を利用して細胞の呼吸について考えさせる。
	ヒトの肺のつくりとはたらき	生物は細胞の呼吸に必要な酸素をどこから体内に取り入れて，不要な二酸化炭素を体外へ出しているか考える。	p. 84 の図3－12 保体P. 44 資料１や解剖標本などを利用して，肺のつくりを理解させる。
	呼吸運動	呼吸器は，鼻（口），のど，気管，気管支，肺などから成っていて，肺の中には小さな肺胞が無数にあることを知る。 肺胞で外界と血液との間で酸素と二酸化炭素の交換が行われている（これをガス交換という）ことを知る。 脊椎動物の肺のつくりの違いを知り，肺胞が外界との気体の交換をしやすいつくりになっていることを知る。	p. 84 の参考資料を利用して，肺には肺胞がたくさんあり，気体の出入りに都合のよいように表面積が大きくなっていることを保体P. 44 のバドミントンコートの記述をつかってとらえさせる。
	呼吸器の発達	こどもと成人の呼吸数と肺活量のちがいを考える。（保体教科書P44 資料２を参考） 呼吸数は，年齢が進むにつれて少なくなっていくが，これは発育にともなって肺胞の数が増えたり，肺全体が大きくなったりすることによって，１回の呼吸量が増えることを知る 呼吸器が発達するということは何か考える。 呼吸器が発達するということは，酸素と二酸化炭素のガス交換が１度にたくさんできるようになることであることを知る。	P. 83 走る前と走ったあとの呼吸数のグラフを参考に、呼吸器の発達の意味を考えさせる。
	呼吸運動のしくみ	肺の動きをかんたんな装置を使って、肺での気体の出入りがどのようなしくみで行われているか調べる。 呼吸運動はろっ骨、ろっ骨の間の筋肉、横隔膜の筋肉のはたらきによることを知る。	p. 85 の「やってみよう」のモデル実験などを利用して，肺の運動を理解させる。
	まとめ	酸素はどのように取り入れられるか、および呼吸器の発達についてまとめる。	理科・保体の内容を融合させ幅広い理解を促す。

学習内容		学習活動	指導の工夫・留意点
血液のはたらきと運ばれ方を調べる	ヒトの血液の成分	血液のつくりとはたらきがどのようになっているか考える。 血液を構成している血しょう・赤血球・白血球・血小板とそれらのはたらきについて知る。	P. 89 の観察 1 との関連を図る。
	ヒトの心臓のつくりとはたらき	心臓は左右2つの心房と心室、そこから出ている大動脈・肺動脈・大静脈・肺静脈から出来ていることを知る。	p. 87 の図 3－16、を参考にしたり，標本や模型を利用した「調べてみよう」などを活用する。
	血液の循環	P. 88 の図 3－18 を参考に心房と心室の収縮運動によって血液のながれがどうなるか話し合う。 血液の循環経路には、肺循環と体循環があることを知る。	保体 P. 45 資料 3 心臓と血液の流れを同時に見る。 弁のはたらきや心室の壁の厚さの違いを考えさせる。 心臓・肺・からだの各部分に注目させ，話し合わせる。
	動脈と静脈のつくり	P. 88 の図 3－17 を参考にして動脈と静脈のつくりとはたらきの違いについて知る。	図の血管の色分けに注目させる。 からだの血管に注目させたり，手首の拍動などを調べさせる。
	毛細血管を流れている血液のようす	毛細血管を流れている血液のようすを観察する。	毛細血管の太さ・血液の組成・血液の流れる方向や速さなどの観察の視点を示す。
	血液と細胞の物質のやりとり	血液と細胞は毛細血管・組織液を通して物質をやりとりしていることをまとめる	血液のはたらきと細胞の呼吸に必要な物質との関係を考えさせる。
	循環器の発達	保体 P. 44 資料 4 脈拍数の年齢による変化から循環器が発達するということを考える。 自分の脈拍数を調べてみる。 循環器が発達するということは，酸素や二酸化炭素，栄養物質などを効率よく運べるようになること、一般に，脈拍数と拍出量によって分かることを知る。	どんなときに脈拍数が多いかなど考えさせる。
	呼吸・循環機能の発達におよぼす運動の効果	呼吸・循環機能の発達と運動の効果について話し合う。 呼吸・循環機能を発達させるには，持久的な運動をくり返し行うとよいこと、呼吸・循環器の発達のしかたは，からだの発育や運動経験が大きく影響するため，ひとりひとりの差が大きいことを知る。	自分の体験にふれるようにする。 運動の種類による発達の違いなどを考えさせる。
	まとめ	血液のはたらきと運ばれ方・循環器の発達についてまとめる。	理科・保体の内容を融合させ幅広い理解を促す。

理科（ー保健体育）クロスカリキュラム授業を終えて

1．授業者　　青木 澄夫　　中山 岫夫

2．単　元　　理科２年「動物のからだのつくりとはたらき」
　　保健体育１年　「心身の発達」

3．授業学年　２年生

4．授業を振り返って

（1）時数の配列

保健の１時間を組み込むために、予定時数４時間の授業を５時間で行なったが、保健の内容が組み込みやすく抵抗のないものだったので、昨年度保健体育で行なったような時間不足はなく、かえってゆとりを生じた。

（2）生徒の課題に取り組む姿勢

今年度の２年生は、１年の保健体育で一通り学習していたので、発言や話し合いに、それらが現れ活発化すると考えていたが、学習したことがなかなか思い出せず、覚えている覚えていないということでの発言が増えていた。肺胞を広げた面積が、バドミントンコートの大きさになるとの内容などを思い出した生徒は、生き生きとした発言になった。生徒の発言を引き出すとき、保健体育の内容を教える側が知っているという事でスムースだったが、これもクロスカリキュラムの良さだと考える。昨年度の保健体育での授業では無理があるという反省から１年の保健の内容を２年で学ぶことにしたが、今年のように重ねて学習しても、それなりに効果もあがると考えられるので、今後も検討していきたい。

（3）生徒の活動

クラスによっては、心臓の構造やはたらきを、事前に調べ学習させたが、資料に理科と保健体育の教科書、それに両教科の資料集とまとめるのにかなり悩んだようである。

しかし、２教科で１つの事柄を追いかけていくことは、今までの教科という枠を越えての学問・知識への取り組みを感じさせるのに役立ったと考えている。

（4）生徒の興味、関心

理科での模型を使っての肺の運動、保健での実際の運動面や生活に密着した肺のはたらきなど、学習の幅が増えたことは教える側にも、教わる側にも実感され、生徒の興味、関心は広がった。授業が終わって自分が知っていることや疑問をもったことを話していく生徒も多かった。

数学科・理科クロスカリキュラム学習指導案

伊勢原市立伊勢原中学校
指導者　教諭　横田千果・大谷一

1．日　時　平成10年11月26日（木）　第2校時　（9：45～10：30）

2．学年・組　第1学年6組　38名　（男子21名、女子17名）

3．教　室　第1学年6組教室　（2棟4階）

4．単元名　＜数学科＞　変化と対応

＜理　科＞　力とそのはたらき

5．単元目標　＜数学科＞　いろいろな事象の中から、ともなって変化する数を見い出してその変化やや対応の様子がとらえられるようにする。　そのために、

ア．比例の関係を変数x，yについての等式で表すこと。

イ．与えられた条件から比例の式を決めること。

ウ．比例の関係は商が一定であること。

＜理　科＞

ア．力が作用したときの物体の変形から、変形の原因として力があることを知る。

イ．物体と物体が触れあってはたらく力だけでなく、電気を帯びた物体間にはたらく力のように、空間を隔てて互いに作用しあう力があることを実験を通して知る。

ウ．ばねに加える力の大きさとばねの伸びの測定を行い、力と伸びの関係を見いだして力の大きさは重力を基準として表すことと力を矢印で表すことができることを知る。

エ．物体の質量と重さの違いについて理解する。

6．指導計画　＜数学科＞　比　例　（15時間）

第1節　ともなって変わる量（2時間）

第2節　比　例　（3時間）　←　本時はその第1時間目

第3節　比例のグラフ　（4時間）

第4節　反比例とそのグラフ（4時間）

問　題　（2時間）

＜理　科＞　力とそのはたらき　（5時間）

1．　力がはたらくとき　（1時間）

2．　いろいろな力を調べよう　（1時間）

3．　力を表すにはどうしたらよいか（2．5時間）　←　本時はその第1時間目

4．　重さと質量はどうちがうか　（0．5時間）

7．本時の授業

（1）本時の目標

関数のなかでも、基本的な例として正比例を取り上げて、その式表示と、表による値の変化の考察をおこなう。正比例のなかで理科のフックの法則を導入の例として取り上げて、実験を行い結果をまとめて、その結果を通して正比例の関係を理解する。

（2）本時の評価基準

[ ]は評価基準

数学・理科の意欲・関心・態度	比例・フックの法則に興味関心を持っている。	[1]
実験への取り組み	ばねののびの実験を正確に行い、その結果をまとめる。	[2]
実験結果の応用	実験結果を踏まえて比例の関係を確認する。	[3]
比例について考える	比例の式をもとに考える。	[4]

（3）本時の展開

段階	学習事項	生徒の活動	指導上の留意点	評価
導入	前時までの学習内容を確認する。	1．1つの数が変わってゆくことでそれにともなって変わる数を学びその関係を表やグラフで表す。	ともなって変わる数をもう一度確認する。	[1]
展開	つるまきばねの実験を行う。	1．実験する。 <準備>つるまきばね，分銅（4つ） スタンド，ものさし (1) つるまきばねとものさしを固定する。 (2) 分銅をつけてばねののびを読み取り、表に記録する。 (3) 4つの重さの分銅それぞれで実験をして表に記録する。	6班に分かれて準備をする。 ・スタンドやねじをしっかり固定する。 ・真横から目盛りを読みとる。 ・読み取りは mm 単位でいい。	[1] [2]
	実験結果を表とグラフにまとめる。	2．表の結果をグラフに打点し、打点をもとにグラフに直線を記入する。	・結果は誤差を含むことを理解する。 ・折れ線でなく直線を記入するようにする	[2] [3]

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	大谷 ―― （数学科）
2、日時	平成（10）年（11）月（26）日（木） （2）校時　（1）年（6）組
3、単元	変化と対応
4、関連する教科と単元	理科「力とそのはたらき」

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

日頃の数学の授業にはない生徒同士の話しあいや班での活動が見られ生徒の主体的な姿勢がみられた。

2，生徒の活動

数学の問題演習をするような授業とは異なり、生徒が自ら実験に取り組み結果をまとめて発表するという動きのある授業であった。

3，生徒の興味、関心

いつもの授業にはない実験があったので、その分興味関心をもって学習に取り組んでいた。しかし授業内容がほとんど理科の範囲で終わってしまったので、なんで数学の先生がやるのかという疑問をもった生徒がいた。

(2) その他話し合われたこと

・実験に不慣れであったためにもう少し周りの協力を求めてゆくべきであった

・1時間で実験と数学の比例の考えをまとめてゆくことは困難であるので、2時間扱いにして、1時間目で実験とそのまとめを、2時間目で比例についての考え方と説明をした方が良いと思われる。

保健体育科・理科クロスカリキュラム学習指導案

指導者　田路 文彦

1．日　時　　平成１０年１１月２６日（木）　第１校時

2．学　級　　２年８組（男子２０名、女子１６名　計３６名）

3．単元名　　保健体育科２年「健康と環境」　理科３年「第７章３節　人類と自然界の調和」

4．単元の目標　私達をとりまく環境は、近年さまざまな要因によって環境汚染や環境破壊が加速度的に進行している。かつて公害が大問題となったが、現在ではオゾン層の破壊による紫外線の増加、二酸化炭素の増加に伴う地球温暖化現象、ゴミ焼却時などから排出されるダイオキシン問題など、一部の地域や一国の問題にとどまらず地球規模での問題としてとらえられ、その対策が急務となっている。これらさまざまな環境汚染によって、私達の健康にどのような影響が現われるのかを正しく理解させるとともに、これからの地球環境にどのように関わっていくべきかを考えさせ環境問題への意識を高める。

今回の授業では保健体育科の２年生で扱う単元であるが、理科の３年生で学習する「第７章　地球と人間」の単元とからめて共通教材として扱うこととする。

5．単元の指導計画

＜保　健　体　育　科＞		＜　理　　科　＞	
(1)環境と適応（２時間）	環境の変化と適応能力について	(1)かけがえのない地球の環境（１時間）	なぜ地球に生物が住めるのか
(2)環境の調節と健康（２時間）	暑さ・寒さとその調節 空気の条件とその調節 明るさの調節と騒音の防止	(2)人類と自然（１時間）	人類と自然のかかわり
(3)環境の利用と保全（４時間）	水の利用と確保 し尿・ゴミの処理 環境の汚染と保全…（本時2時間中の2時間目）	(3)人類と自然界の調和（３時間）	自然界のつり合い 人間の活動による影響 地球環境の変化 自然環境の保護 環境汚染の防止 資源の開発と再利用
※　　を共通教材として扱う			

6．本時の指導　（第８時）

(1)本時の目標　さまざまな環境汚染や環境破壊により、私達の日常生活は大きく脅かされてきている。その原因は何なのか、何が問題なのかを正しく理解するとともに、今後、私達が安全で健康な生活を送るために何が必要なのかを考える機会とする。

(2)本時の展開

	学習内容	学習活動	指導の工夫・評価
導入	◉前時の学習を想起し本時の学習の確認をする	◇さまざまな環境問題について概略を復習しながら本時の学習内容を確認する	◆環境汚染や環境破壊の実態についてなるべく前時の内容を思い出しながら生徒に発表させる
展開	◉環境汚染についてそれぞれ原因や私達への影響を考える	◇水質汚染、大気汚染、地球温暖化、酸性雨、オゾンホールなどの個々の原因を考えるだけでなく、それらが私達にどのような影響を及ぼしているかを確認するとともに、なぜ大問題となっているのかを考える	△前時の授業の内容をどの程度把握しているか ◆それぞれの問題が関連し合っている点にも気付かせる
	◉環境問題といわれるものの共通した原因は何かを考える	◇「自然の浄化能力」をこえる量の物質や分解されにくい物質の排出が共通した原因であることだけでなく人間が「便利で豊かな生活」を追い続けた結果が、今日の環境問題を引き起こしたということを確認する	◆保健の教科書Ｐ７８を読む ◆理科の教科書Ｐ１２３も併せて読む
	◉私達一人ひとりでも環境問題を防止するためにできそうなことはないかを考える	◇ゴミ処理問題、水質汚染、大気汚染、地球温暖化酸性雨、オゾンホールなど個々の問題に対して、個人として何か防止するためにできそうなことはないかを考えて発表する	◆できるだけ生徒の意見を多く出させるよう配慮する △一人ひとりが真剣に考えているか
まとめ	◉本時のまとめ	◇私達の生活と環境問題を結びつけて、その原因や健康への影響を正しく理解し、「地球にやさしい暮らし方」が重要であることを理解する	△私達の生活と環境問題を結びつけて、その原因や健康への影響を正しく理解できたか △「地球環境にやさしい暮らし方」についてきちんと考えられたか

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	田路文彦　（保健体育科）
2、日時	平成（10）年（11）月（26）日（木） （1）校時　（2）年（5）組
3、単元	健康と環境「環境の汚染と保全」
4、関連する教科と単元	理科「第7章 3節 人類と自然界の調和」

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1. 発言や話し合い

・本時の最後に「環境汚染」や「環境破壊」に対して一人でも防止できそうなことを考えさせ発表させる予定だったが、時間が足りなくてできなかった。次時でそのできなかった話し合いの時間を確保したい。

・発問の中に、理科で学習した内容があり、それに答えることで理科との関わりを感じ取ることができたように思う。

2. 生徒の活動

・教師の発問に対しては積極的に発言することは少かったが、指名を数多くしてなるべく多くの生徒に発言の機会を作ったことで、生徒はそれなりに考え発問に対して答えていた。

・身近なテーマなので、生徒の聞く態度がよく、真剣に取り組んでいたようだ。

3. 生徒の興味、関心

・「環境問題」ということで、今何が問題となっているかの発問に対し数多くの問題が答えとして出された。新聞やテレビなどの報道で聞いたりしたことと思われるが、そういう点では生徒の興味・関心は高いと思われる。

(2) その他話し合われたこと

・今回扱った内容は、予定では2時間扱いであったが、問題自体があまりにも広範囲に渡る大きな問題であるため、不十分のように感じられた。4時間位かければ、話し合い等が、もっと深められたのではと思う。

・説明をしなくてはならないことが多いので、日頃の調べ学習等の活用を、今後取り入れていけばよいと思う。

・理科で夏休みの課題に「環境」をテーマにしたものを取り入れ、それを活用して保健の授業に生かす方法もあると思われる。

英語科・家庭科クロスカリキュラム学習指導案

指導者　柳川　厚子

1.日時　　平成11年1月29日(金)　　4校時

2.学級　　1年6組　　場所　図書室

3.単元名　　英語科　1年　「アップルパイを作ろう」

家庭科　家庭生活　3．食生活のための仕事をしよう

4.単元の目標・What kind of～？　How many～？　Which～？などの疑問詞の使い方を理解し　それらを運用できるようにさせる。

・アップルパイの作り方を参考にしながら、調理に関わるいろいろな英語表現を学ばせる。さらに発展学習として、自分たちが家庭科の調理実習で作った朝食を英語で説明できるようにさせたい。また、ＡＥＴによる外国の朝食の作り方の紹介で、食文化の違いに興味を持たせたい。

5.単元の指導計画

英　語　科	家　庭　科
1.What　kind　of～？の疑問文を定着させる。　食べ物の言い方　(1時間) 2.How　many ～？の疑問文を定着させる いくつかの調理法の言い方①　(1時間) 3.Which ～？の疑問文を定着させる。 いくつかの調理法の言い方②　(1時間) 4.調理方法や分量の言い方を定着させる。 ・アップルパイ作りの手順を知る。 (1時間) 5.家庭科で調理実習した朝食を英語で表現させる。　(1時間) AETとのTeam Teaching ・外国の食文化を知る。 ・調理方法の言い方を確認する。 ・班に分かれ自分たちが作った朝食の発表準備をする。 6.班ごとに英語で発表させる。　(1時間)	1年―家庭生活 3．食生活のための仕事をしよう　6時間 （1）食事の種類と内容 （2）食生活のための仕事の特徴　1時間 （3）実習1家族のための オリジナル朝食を　5時間 ・我が家の朝食　(0.5) ・グループ学習 ①条件に沿った朝食とは（1） ②実習に向けて（0.5） ③ 調理実習　（2） ④まとめ・反省（1）

6．本時の指導

（1）本時の目標

ＡＥＴの話やビデオから外国の食文化を知り、自分たちの食文化を考えさせる。また調理方法の言い方を表現できるようにさせ、家庭科で作った自分たちの朝食を英語で発表できる準備をさせる。わからない所は積極的に英語で質問できるようにさせる。

（2）本時の展開

	学習内容		学習活動	指導の工夫	評価
導入	朝食について	①American Breakfastについて知る。 ②自分たちの朝食について考える。	ＡＥＴの質問に英語で答える。 自分たちの朝食とAmericaの朝食を比べてみる。	自主的に発言できるようにさせる。 Americaの朝食で用いられるシリアルを用意し実際に試食させてみる。	・興味を持って聞きわからない所は、積極的に尋ねようとしているか。 ・積極的に英語を使おうとしているか。
展開	1 調理法の用語説明	調理方法の英語表現を知る。 （焼く　切る　炒める 混ぜる　ゆでる 入れる　つくる 塗る　むく　洗う etc）	ＡＥＴの発音をよく聞き覚える。	理解しやすいように絵やジェスチャーを使う。	
	2 単語の練習	調理方法が英語で表現できるようにする。 ビデオを見て調理方法の表現を確認する。	ＡＥＴのあとについて発音する。 絵やジェスチャーを見て英語で表現する。 ＡＥＴとＪＴＥの話を聞く。 （ビデオ視聴）	American Breakfastのビデオを用意しわかり易くする。	・大きな声で発音しようとしているか。 ・積極的に英語で表現できるか。 ・興味を持ってビデオを見ることができるか。
	3 発表準備	家庭科の授業で自分たちが作った朝食を英語で紹介するための準備をする。	グループ別に分かれ自分たちの朝食の作り方を英語で発表できるように、班で準備をする。 ・役割分担 ・手順 ・レシピー完成 （発表するための工夫などを話し合う。）	AETに自分たちの朝食を英語で紹介するということを意識させる。 わからない所はJTEやＡＥＴに積極的に質問するように呼びかける。	・班で協力して準備に参加しているか。 ・わからない所は、積極的に英語で質問し解決していこうとしているか。
まとめ	自分たちの朝食と外国の朝食を比べてみる。 調理方法の表現の確認			次回の発表がスムーズにできるように考えさせる。	

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	柳川厚子　（英語科）
2、日時	平成（11）年（1）月（29）日（金） （4）校時　（1）年（6）組
3、単元	アップルパイを作ろう（TOTAL 1. Lesson 9）
4、関連する教科と単元	家庭科　家庭生活　3. 食生活のための仕事をしよう

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1, 発言や話し合い

・発言においては、積極的に活発に行うことができた。

2, 生徒の活動

・外国人の先生の質問に対し、積極的に答える生徒が何人かいた。

・グループ活動（調べ学習）においては、意欲的に取り組んでいる生徒もいたが、他の人に任せきりになっている生徒も何人かいた。

3, 生徒の興味、関心

・シリアルの実物を持ってきたこと、また実際に生徒に食べさせたことは、アメリカの食文化に興味を持たせることができた。

・調理のビデオを見せたことも効果的であった。

(2) その他話し合われたこと

・内容が盛りだくさんであったので2時間扱いで分けてやる方がよかった。（生徒の調べ学習の時間を多く取りたい。）

・家庭科の実体験を利用できたことは、生徒にとって取り組みやすかったので良かった。

・家庭科との連携をもっと密にし、事前に生徒の役割り分担等をしておけば、1人ひとりの活動ももっと活発にできたと思う。

英語科・音楽科クロスカリキュラム学習指導案

指導者　斉藤　敬子　・　松尾　久美子

1．日時　　平成１１年2月１６日（火）６校時

2．場所　　音楽室１

3．学級　　2年5組　３６名（男２０名、女１６名）

4．単元名　　英語科　歌「Yesterday　Once　More」
　　音楽科　リコーダー演奏「Yesterday　Once　More」

5．単元の目標　　英語科　・英語の歌に親しむことにより、英語学習への興味、意欲を持たせる。
　　・英語の歌を歌うことによって音の特徴（１音節で１つの音、リンクすることなど）に気づかせる。
　　音楽科　・原曲のイメージを思い浮かべながら表情豊かな演奏が、できるようにする。
　　・曲の山や構成を感じ取って表現する。

6．単元の指導計画

＜英語科＞
☆曲を聴いて意識づけをする。
☆歌詞の意味調べを、分担し調べる。
☆音楽科と一緒に、歌う練習をする。－－－（本時）
☆ＣＤに合わせて歌ってみる。

＜音楽科＞
☆アルトリコーダーでゆっくり旋律を吹けるようにする。
☆歌詞の意味、発音を知ることにより、表情豊かな演奏ができるようにする。－－－（本時）
☆曲の山や、構成を感じ取りながら演奏する。

7．本時の目標　　英語科　・単語の発音を練習し、英語の歌を口ずさむ事ができるようにする。
　　音楽科　・歌詞の意味を知ることにより、表情豊かに演奏できるようにする。

8．本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	・曲の感じをつかむ（音）	・リコーダーで練習する。	・姿勢、音色に注意させる。 ・指使いの確認をする。	・意欲的に取組もうとしているか。 ・指使いが理解できているか。
展開	・原曲を聴き、どんな歌なのか知る。（英） ・発音を練習する。（英） ・リズム、メロディをつけて歌う。（音）	・グループごとに歌詞の意味を発表する。 ・単語を後について発音する。 ・文を後について発音する。 ・後についてゆっくり練習し、１番の歌詞を歌う。	・あらかじめ、紙に書いて準備させておく。 ・恥ずかしがらずに、大きい声で発音させる。 ・部分ごとにゆっくり歌えるようになったら、すこしテンポをあげて通して歌う。	・歌詞の意味が理解できたか。 ・単語の発音が理解できたか。 ・大きな声で発音しようとしているか。 ・リズム、メロディをつけて英語で歌うことができたか。
まとめ	・リコーダーに合わせて歌う。（音）	・半分がリコーダー、残りの半分が歌う。	・手拍子、ピアノ伴奏に合わせながらリコーダー、歌の演奏をさせる。	・お互いに聴き合いながら演奏できたか。

研究授業を終えて

1、授業者（教科）	松尾久美子・斎藤敬子（音楽科 英語科）
2、日時	平成（11）年（2）月（16）日（月） （6）校時　（2）年（5）組
3、単元	リコーダー「Yesterday Once More」歌
4、関連する教科と単元	音楽科 ― 英語科　歌「Yesterday Once More」 英語科 ― 音楽科　リコーダー「Yesterday Once More」

5、授業をふりかえって

(1) 生徒自ら主体的に課題に取り組む姿勢はどうだったか

1，発言や話し合い

・グループで事前に調べておいた歌詞の意味を発表した。

2，生徒の活動

・グループごとに調べてきた意味を発表することができた。
実際に発表したのは、グループの代表であったが、全員前に出てきて意欲的に取り組むことができた。

・リコーダーを吹く……リコーダーを吹く事によってメロディーが把握できた

・英語で歌う……歌う時間がもう少しあれば良かったが、少ない時間のわりには比較的よく歌えた。

3，生徒の興味、関心

普段と違い2人教師がいる事や、それぞれの専門性を生かした授業であった為とても興味を持って取り組むことができた。

(2) その他話し合われたこと

反省　・時間がなく最後のリコーダーと歌を合わせて演奏することができなかった。
・準備不足の点が多々あり、打ち合わせも充分にできなかった。

○T.Tでやるには、授業の調整がかなり難しいが、英語の歌は、事前に発音・意味などを英語科の方で、リズム等は音楽科でという形で今後も続けていければと思う。
○発音を英語科が指導した為、わかりやすくてよかった。
○リコーダーと歌の組み合わせは、新鮮でよかった。
○T.Tで行うには時間的に厳しい面があるが、生徒の興味を引きつけるうえでは、有効であるように思われる。

体験活動研究部の実践

1年

『名人に学ぶ会』

琴・三味線

パッチワーク

百人一首

墨絵

平成１０年度　『名人に学ぶ会』実施要項

１，目　　的　地域にお住いの方で、いろいろな技術をお持ちの方（名人）に、日常の生活や文化にまつわる物をつくることを通して、お話を聞いたり、その技術を学ぶことで生徒自身の生き方を考える一助とする。また、地域の方とのふれあいの中で開かれた学校をめざす。

２，日　　時　平成１０年１２月１９日（土）９：００～１２：００

３，対象生徒　第１学年生徒

４，場　　所　伊勢原中学校（２棟４階教室・特別教室）

５，方　　法　生徒は希望のコースを選択する

６，費　　用　材料費は生徒個人負担とする

名人に学ぶ会までの予定(案)

11月			12月		
5	木	学年会	1	火	講師への依頼文　期末テスト
6	金		2	水	期末テスト
7	土	合同学活	3	木	期末テスト
8	日		4	金	
9	月	生徒のアンケート実施	5	土	生徒の希望調整・最終決定
10	火	立候補届出	6	日	
11	水		7	月	
12	木	立候補締切	8	火	
13	金	※学年会	9	水	
14	土		10	木	
15	日		11	金	
16	月	講師との折衝(日程・人数・費用)	12	土	
17	火	↓	13	日	
18	水	↓	14	月	
19	木	↓	15	火	
20	金	↓	16	水	保護者面談
21	土	コースと講師の決定	17	木	保護者面談
22	日		18	金	保護者面談
23	月		19	土	名人に学ぶ会
24	火	生徒の希望確認　立合演説会	20	日	
25	水	投票・開票	21	月	お礼のはがき(生徒)
26	木		22	火	
27	金		23	水	
28	土		24	木	終業式
29	日				
30	月				

名人に学ぶ会

No	コース名	講師氏名	教室	担当者	費用	人数	持ち物
1	墨絵	滝沢 義隆 名人	1組	今井	200	10	中筆・小筆・筆ふき・小皿2枚・文鎮・下敷・絵の具ｾｯﾄ
2	コサージュ	田島 礼子 名人	被服室	藤原	700	20	布ﾊﾞｻﾐ・ﾋﾟﾝｾｯﾄ(裁縫に入っている物でOK)・絵の具の筆(大と中)・ﾊﾟﾚｯﾄ・お手ふき(ぬれﾀｵﾙ)。ｶﾞｰｾﾞのﾊﾝｶﾁ
3	和紙手芸	千葉 貞 名人	被服室	藤原	400	10	木工用ﾎﾞﾝﾄﾞ・はさみ・おしぼり・ものさし
4	卵細工	稲葉 幸子 名人	2組	今井	300	21	はさみ(先のとがっているもの)・和紙の折り紙(15cm×15cm以上でがらのついているもの)・筆(太と細)ものさし(15cmくらい)・卵のパック(出来上がりを持ち帰るため)・工作ばさみ
5	百人一首	今村 美智子 名人	柔道室	田中	0	20	なし 偶数の人数を希望
6	琴・三味線	半沢 文子 名人	3組	柳川	0	12	なし 人数10～12人 5台用意してもらえる。
7	パッチワーク	西山 純子 名人他2名	被服室	我妻	400	9	裁縫道具・ものさし・えんぴつ
8	ペーパークラフト	松澤 省三 名人	4組	柳川	300	15	両面テープ・のり・はさみ・エプロン・使い捨て手袋・新聞紙・(猫：ボンド：和紙折り紙)
9	竹工芸 遊具	佐藤 安次郎 名人	5組	山川	0	21	ｻﾝﾄﾞﾍﾟｰﾊﾟｰ・ﾅｲﾌ・軍手・絵の具
10	竹工芸 竹とんぼ	市川 敬三郎 名人	6組	山川	200	21	ﾅｲﾌ買ってきてくれる。
11	竹工芸 竹笛	柏木 三夫 名人	7組	伊藤	0	20	ﾅｲﾌ(ｶｯﾀｰﾅｲﾌ不可)
12	竹工芸 竹籠	上原 一 名人	7組隣	伊藤	500	15	花ばさみ
13	トールペイント	渡部 亨子 名人	理科室	高橋	1500	30	水入れ・ボロ布・エプロン・新聞紙
14	あぶ風	三川由利五郎名人	集会室	佐藤	1300	10	ダンボール板(B4位) 糊用のはけ
15	門松	海鉾 英夫 名人	金工室	佐藤	500	10	なし
16	手品	執印 康弘 名人他2名	視聴覚室	大谷	0	25	ビデオ視聴 ﾄﾗﾝﾌﾟ 持参 わりばし(赤白ひも)
17	水引	菊池 美佐子 名人	美術室	田中	650	20	うさぎを作ります。
18	料理ラッピング	藤原 隆子 名人	調理室	高橋	500	25	ｶｯﾀｰﾅｲﾌ ｴﾌﾟﾛﾝ

[小倉百人一首] コース (元クウィーン 今村美智子) 先生へ

1年 (　) 組 氏名 (　　)

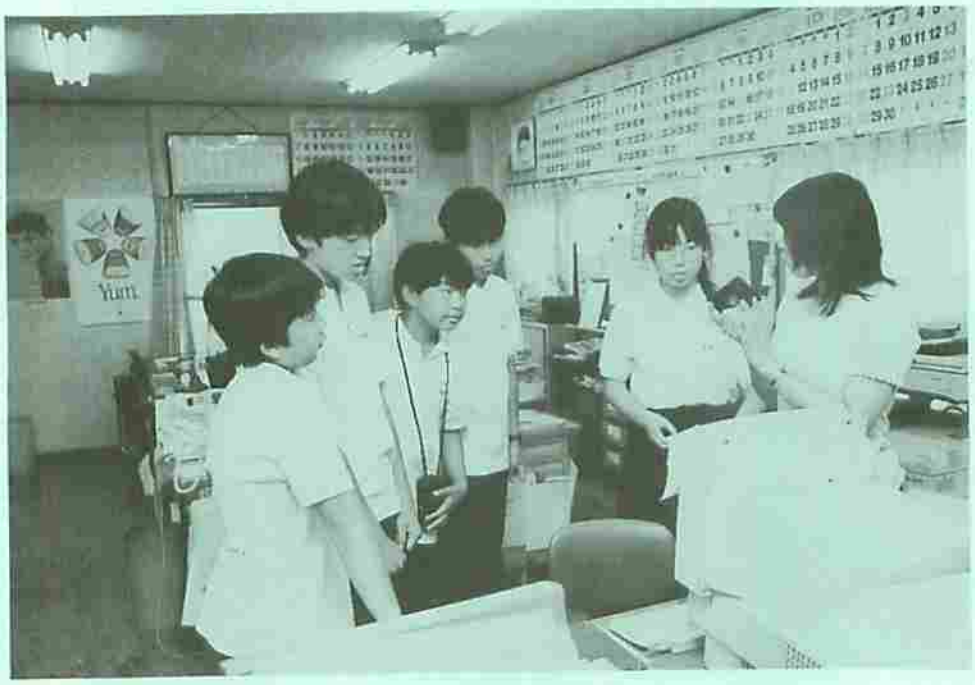
先日は、ありがとうございました。
先生は、百人一首を始めるまえに、「いろいろわからなくて一応百人一首にした人」のような事を聞いていましたね。はん数はそうだったかもしれませんが、僕はちがいますよ今、中学一年では百人一首を授業に取りくんでいます。だから、もっと小倉百人一首をしりたいと、このコースをえらんだんです。
百人一首はやったのが始めてでふつうのカルタのように始めの文字から書いてあるかと思っていました。
しかし百人一首は下句ですだからちょとたいへんだなと思っていました。でも先生の話を聞いているうちにだんだんすきになってきました。先生は、最後に大会の話しをしてくれましたね その日寺西と1枚でクウィーンになれるとあせりおしくも取れなかったですね。「失敗をバネにしてがんばろう」その言葉がよかったです。これからも百人一首とつきあっていきたいです本当にありがとうございました。

[　門松　]コース（海鮮　）先生へ

1年（　）組　氏名（　　）

初めて門松を作り難しさにびっくりしました。
最初男むすびを知らなくて、うまくできるかなっと思いながら
何回もやっているうちに、成功しました。その時のうれしさは、
空までとどくぐらいでした。今では母に教えてあげられる
ぐらい上手になりました。いつか役に立つ事があったら思い
出しながらやりたいと思います。難しかった所もあれば
楽しかった所もあります。
松をさす所を一番楽しみにしていました。
だけど実際やってみると、一番難しい所でした。
先生みたいにフワーって、うまくできなかったから、すごく
難しかったです。
けど自分なりには、まん足できました。
家にもちかえって、みんなに見せたら「これ自分で作ったの一す
ごーい」とほめられました。先生の教えかがとってもうまかったの
で、上手にできたのだと思います。
竹3本ななめに切るのがむずかしくて、先生がきったのは、
機械が切ったようで、とてもきれいでした。
いろいろとお世話になりありがとうございました。
上手に作れてとてもうれしかったです。

2年
『職場見学』



タウンニュース社訪問

99，6，7

第２学年「職場見学」実施要綱

1，目　　的　①生徒一人ひとりが、興味や関心のある職場を見学したり、仕事を体験することを通して、生き方や将来への目標を考える。
②働いている人たちに接し、話を聞く中で社会で働く大人の姿を知る。
③申し込みから礼状の発送まで経験することで社会生活の基本を学び取る。

2，方　　針　①興味関心を最大限生かしたグループ編成をする。（２～４人）
②申し込みから、日程の組み方、礼状の発送に至るまで指導・援助を行なう。
③自主活動を基本に、安全面での指導を徹底する。

3，日　　時　平成１１年6月１６日（水）７：３０～１６：３０

4，見学場所　学校周辺を中心とした神奈川県内（町田市も可）

5，服　　装　夏の制服（作業服が必要な所は用意する）

6，持ち物　筆記用具・ファイル・交通費・昼食（代）・時計・（カメラ）

7，安全対策　◆職員を方面別に配置する。
◆出発時、学校または伊勢原駅で班ごとに人員確認をする。
◆帰着時、学校で班ごとに人員確認をする。

8，指導事項　◇交通事故を含め安全指導の徹底を図る。
◇あいさつ・礼儀など、マナーを心掛けさせる。
◇時間に遅れないよう余裕をもって行動させる。

「職場見学」事前・事後指導

◆1年生次の指導

（1）1／30　（学年集会）職場見学の目的・流れ、体験談を2年生から聞く
（2）2／　6　（事前学習）自分を知る、将来の夢、職業インタビューレポート
（3）2／16　（事前学習）いろいろな職業、私の将来の希望
（4）　3月　（廊下掲示）98年度「職場見学のまとめ（模造紙）」を廊下に掲示
（5）3／　6　（事前学習）将来の希望と計画
（6）3／16　（事前学習）「職場見学に向けて」（自分の希望先を調べる）
神奈川県の地図とタウンページ等を使って

◆2年生次の指導

（1）4／21（水）④　個人の希望による見学先の決定（未決定者を中心に）
（2）4／23（金）③　クラス内での見学班の決定（1班＝2～4名が基本）
班の見学候補地の決定
（午前・午後それぞれ1職種につき3カ所あげる）
（3）5／　1（土）①　全体指導
学年全体で職種ごとに集合し、どこの班がどの見学先にアポイントの電話をかけるか確認する。
（4）5／　6（木）⑤　電話のかけかた指導
（5）5/7~5/13（家庭訪問期間）職種別に集合させて、電話をかける。
臨時電話4台、13:00~16:00の間に職員室横ロビーで受け入れが決定した職場の情報を廊下に掲示
（6）5／17（月）⑤　職場見学先確定表を書く。
「見学先で聞きたいこと、見たいこと、体験したいこと」を書く。
（7）5／21（金）⑤　見学先への依頼状、封筒あて名書き。
（8）5／24～6／4　「職場見学の心得」の検討（各クラスで）
（9）5／31（月）⑤　職場見学のコース　交通機関の接続、昼食場所の検討
（10）6／　7（月）⑤　目的・服装・持ち物・安全面等の確認
（11）6／　9（水）⑤　2学年保護者会で概要説明
（12）　6/10~6/11　パンフレットの作成（学年委員会）
（13）6／11（金）⑤　複数班で訪れるところを集めて、集合場所の確認
（14）6／14（月）⑤　各クラスで指導・確認
（15）6／15（火）⑥　直前全体指導、パンフレットを使って
（16）6／16（水）　「職場見学」実施　7：10～16：30
（17）6／17（木）⑤　感想文・アンケート書き。
（18）6／19（土）③　「お礼状」書き
（19）6/24～7/8朝自習・放課後　「職場見学のまとめ（模造紙）」作業
（20）7／　5（月）⑤　職場見学「体験談」クラス発表会
（21）7／　7（水）⑤　〃　学年集会にて発表会

職場見学先一覧表　　２年３組

班	氏名	人数	別ﾌｪｯｸ	別time	帰time	見学先	訪問時間	住所	電話	
1	阿久津歩子	3				①ワイドーマイカルシネマズ	9:30~11:00	海老名市中央2 4-1	0462(31)2121	
	山本・和田		駅	9:00	14:30	②伊勢原警察署	13:00~14:00	伊勢原市田中819	(94)0110	
2	荒井　百実	3				①アウトドアワールド	10:00~12:00	厚木市愛甲766	0462(50)5122	
	阿部・石塚		駅	9:15	16:00	②浅川(レストラン)	13:30~14:30	茅ヶ崎市萩園	0467(88)2666	
3	飯塚かおり	4				①ローレライ	9:30~11:00	伊勢原市桜台3-11-20	(93)3073	
	鯉・山・林		学校	9:15	16:00	②第山愛大温泉所	13:30~16:00	伊勢原市沼117 1011 2	(93)0109	
4	石井あゆみ	4				①厚木さくら幼稚園	8:30~11:30	厚木市関口919	0462(45)0856	
	牧・頃・中		駅	7:20	15:40	②アラビカ(喫茶店)	14:30~16:00	伊勢原市桜台2-25 16	(94)1977	
5	岩田　充	2				①フジノナイロン	9:00~11:00	厚木市妻田東3-39-5-102	0462(23)6875	
	鈴木		駅	8:00	16:00	②大山フィッシングセンター	13:00~15:00	伊勢原市子易９４４	(93)5584	
6	海老澤麟太	2				①夢工房(出版社)	9:00~11:30	秦野市東田原200-49	(82)7652	
	伊藤　奈月		駅	7:50	15:30	②クウンニュース社	13:00~15:30	厚木市船子1066-1	0462(47)0710	
7	小澤　京美	2				①桜台こどもクリニック	9:00~12:00	伊勢原市桜台1-1-14	(94)7871	
	岩田　牧子		学校	9:15	16:00	②無印良品	13:00~15:30	厚木市中町4-14-3 1F	0462(25)5011	
8	越水　亮太	4				①ローレライ	9:30~11:00	伊勢原市桜台3-11-20	(93)3073	
	部・畑・鎌		学校	9:15	14:30	②銀寿司	14:00~15:00	伊勢原市桜台2-25-21	(93)2509	
9	児玉　結	3				①八景島シーパラダイス	10:00~14:00	横浜市金沢区八景島	045(788)8888	
	古久沢・渡部		駅	7:20	16:00					
10	島海　直大	2				①佐々木自動車工業	10:00~12:00	伊勢原市沼115-29-27	(93)5604	
	藤山　良彦		学校	8:15	16:00	②麻生自動車工業	13:00~15:00	伊勢原市上粕屋2100-1	(95)3157	
11	増田　雄介	3				①望月薬局	9:00~10:30	伊勢原市下糟屋96-2	(94)4193	
	田中・土屋		駅	8:25	14:15	②あさひ銀行	13:00~14:00	伊勢原市伊勢原1-3 6	(92)1511	
12	松永えりな	3				①FM湘南ナパリ	9:00~11:00	平塚市宝町３－１MNビル	(23)7111	
	鳴村・山崎		駅	8:00	15:30	②愛大ハウスせきの	13:30~14:30	秦野市柳瀬２４０	(88)2611	
13	水長　良太	3				①スィートベリー	9:10~13:20	伊勢原市桜台1-10-1	(93)7253	
	田和・阿部		学校	9:00	15:35	②げんこつラーメン花月	13:30~14:30	伊勢原市桜台1-34-1	(93)1365	

38

職場見学先一覧表　　２年４組

班	氏名	人数	別ﾌｪｯｸ	別time	帰time	見学先	訪問時間	住所	電話	
1	赤石　亜耶	3				①八景島シーパラダイス	10:00~14:00	横浜市金沢区八景島	045(788)8888	
	根岸・長谷川		駅	7:20	16:30					
2	石井　慎也	4				①TVK(テレビ局)	13:00~15:00	横浜市中区山下町67-1	045(651)1711	
	細・舘・鷲		学校	9:00	17:00					
3	大津　旭	3				①竹園小学校	9:00~11:00	伊勢原市岡崎6611	(93)4718	
	菊田・小沼		学校	8:00	16:30	②横浜地方裁判所	13:00~15:00	横浜市中区日本大通34	045(201)9631	
4	斎藤　勇貴	3				①パンピ伊勢原	9:00~10:30	伊勢原市白根251-1	(94)2214	
	勝山・柏木		駅	8:00	16:00	②伊勢丹	13:10~15:00	相模原市相模大野4-4-3	0427(40)1111	
5	鈴木はるこ	2				①湘南ビーチFM	10:30~12:00	秦山町堀内375-1 104	0468(75)0121	
	小宮　悦子		学校	7:30	16:10	②花門	15:00~16:00	伊勢原市伊勢原2-2-25	(93)1035	
6	谷川ともき	4				①伊勢原ボーリングセンター	10:00~12:00	伊勢原市板戸442	(94)2260	
	鶴・柳・鶴		学校	9:10	17:00	②ワイルドワン	14:00~16:00	厚木市林187-1	0462(97)1177	
7	鶴山　陽子	2				①木内動物病院	9:00~11:00	伊勢原市沼目3-25-1	(93)8665	
	渋谷亜理沙		学校	8:30	16:30	②不二家ファミリーチェーン平塚金目店	13:00~15:30	平塚市南金目925	(59)4668	
8	寺田山希絵	2				①東名厚木病院	10:00~11:30	厚木市船子232	0462(29)1771	
	麻生　恵		駅	8:30	16:00	②厚木楽器厚木センター	13:30~15:00	厚木市中町4-5-10	0462(22)1019	
9	西脇・清・大	7				①日本IBM	10:00~11:30	藤沢市桐原1	0466(45)1333	
	鈴・鳴・鶴・林		駅	8:00	16:30	②SONY銀行コールセンター	14:00~15:30	厚木市旭町1-29 13	0462(30)5141	
10	早山　山里	3				①江ノ島水族館	10:00~14:00	藤沢市片瀬海岸2 17-25	0466(22)8111	
	本郷・志村		駅	7:30	16:00					
11	菅原　桂子	4				①伊勢原要見園	8:30~12:00	伊勢原市沼目2-6-3	(95)1235	
	田・中・鈴		学校	8:00	16:00	②ドッグショップゆう	13:30~15:30	伊勢原市東大竹097-6	(02)2356	

37

H11年度 職場見学先

（伊勢原）

	見学地
①	ムーミン（ビッグサム）
②	スカイラークグリル（伊勢原店）
③	伊勢原ボーリングセンター
④	ヴィーク（美容室）
⑤	田中自動車整備工場
⑥	みのり幼稚園
⑦	ローレライ
⑧	板谷こどもクリニック
⑨	佐々木自動車工業
⑩	望星薬院
⑪	スィーツベリー
⑫	竹園小学校
⑬	パンピ伊勢原
⑭	木内動物病院
⑮	伊勢原愛児園
⑯	伊勢原市役所広報課
⑰	立正幼稚園

（伊勢原）

	見学地
⑲	雷神堂（せんべい屋）
⑳	神奈中ハイヤー
㉓	九州ラーメン
21	大原保育園
22	スーパーすえひろ伊勢原店
23	鳳乃屋
24	カスト伊勢原店
25	ツタヤ東大竹店
26	レッドビーマン
27	竹内歯医科医院
28	タンホポ（ラーメン屋）
29	桂花楼
30	ミスタードーナッツ
31	ファンクスティクサム
32	フジ音楽企画
33	マイティースポーツ
34	伊勢原協同病院
35	須山愛犬訓練所

（伊勢原）

	見学地
36	アラビカ（喫茶店）
37	大山フィシングセンター
38	銀寿司
39	麻生自動車工業
40	あさひ銀行
41	げんこつラーメン花月
42	すし江戸っ子伊勢原店
43	ファンタスティクサム
44	東急（ヤンリボ）
45	日向病院
46	大山すし
47	カルビハウス伊勢原店
48	ヤマト運輸伊勢原営業所
49	柏木牧場
50	神成松茸
51	ステージ ビ・オール（ダンス）
52	伊勢原警察署

（厚木）

	見学地
①	厚木警察署
②	アウトドアワールド
③	みどり保育園
④	厚木さくら幼稚園
⑤	七沢病院輸血管センター
⑥	七沢老人ホーム
⑦	リトルマーメイド本厚木店
⑧	フジノナイロン
⑨	東名厚木病院
⑩	アイス工房ミネラッテ
⑪	パスタ厚本厚木ミロード店
⑫	東原電力（厚木営業所）
⑬	フロンティア（模型店）
⑭	有隣堂（本厚木店）
⑮	NTT厚木研究開発センタ
⑯	SONY第1テクノロジーセンター
⑰	エビシエール

（厚木）

	見学地
⑱	ミスタードーナツ（厚木店）
⑲	シャトレーゼ（愛甲石田店）
⑳	ピーターパン
21	ベルベ（厚木店）
22	さがみ（もんじゃ焼き）
23	マクドナルド（本厚木店）
24	タウンニュース社
25	無印良品
26	ワイルドワン
27	厚木楽器（厚木センター）
28	レ・ニスビ（西洋料理）
29	ペットハウスジョイ
30	ヴァージンメガスト（CD屋）
31	東光冷熱エンジニアリング（自動制御）

（秦野）

	見学地
①	アイス工房プラート
②	夢工房（出版社）
③	愛大ハウスせきの

（県央地区）

	見学地
①	（町田）ビーエックス英容室
②	ガラスアート・ロミー
③	（相模原）南台卓球
④	プロショップKAPPA
⑤	伊勢丹
⑥	（大和）FM大和
⑦	丸十ベイカリー
⑧	（座間）コナミ
⑨	（綾瀬）日世（アイスクリーム製造）
⑩	（海老名）タイトー（株）海老名工場
⑪	ワイナーマイカルシネマーズ
⑫	小田急海老名電車基地
⑬	富士コカ・コーラボトリング
⑭	神奈川県産業技術総合研究所

（湘南地区）

	見学地
①	（葉山）湘南ビーチFM
②	（藤沢）江ノ島水族館
③	日本IBM
④	藤沢FM放送レディオ湘南
⑤	（鎌倉）鎌倉FM
⑥	（茅ヶ崎）鉄州（レストラン）
⑦	（平塚）FM湘南ナパー
⑧	相沢動物病院
⑨	不二家ファーム茅ヶ崎店
⑩	須賀作業所（岡崎）

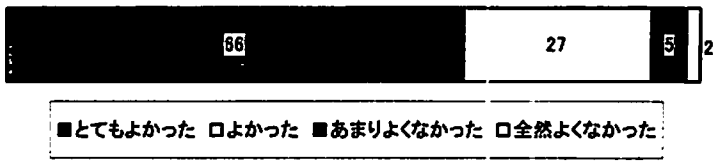
（横浜）

	見学地
①	八景島シーパラダイス
②	神奈川県警本部
③	横浜地方裁判所
④	TVK（テレビ局）

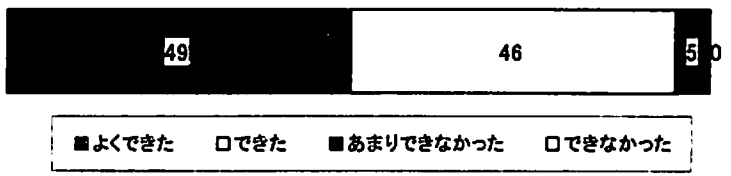
計 114カ所

職場見学をふりかえって（生徒アンケートより）

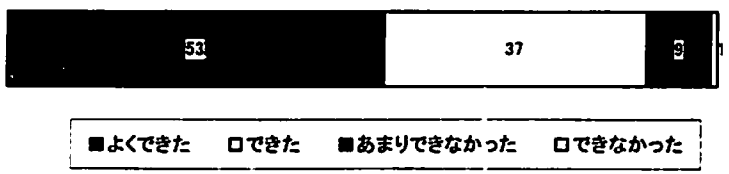
1．自分にとって職場見学はどうでしたか。



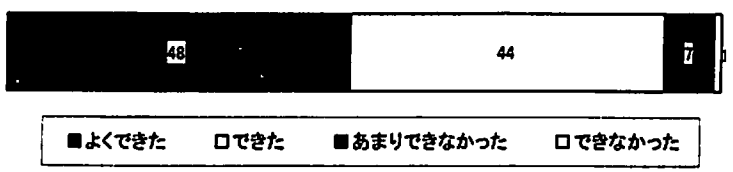
2．訪問先選び、連絡、行程表書きなどの活動に対し、自分たちで考え相談し動くことができましたか



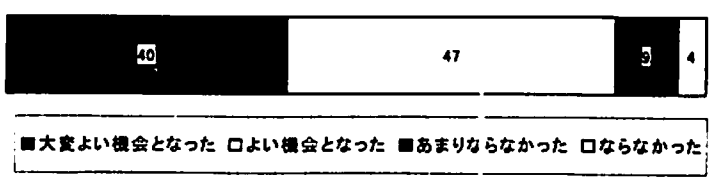
3．当日は班で協力しながら行程表にそって考え、行動することができましたか。



4．職場見学の心得を意識して行動できましたか。（個人として）



5．この職場見学は自分の将来の夢について考える機会となりましたか。



6．その他何か感じたこと、印象に残ったことがあったら書いてください。

・職場の人たちは、私たちのために一生懸命やってくれて、本当にうれしかった。
・どの職場も私たちを歓迎してくれて、とてもやさしく指導してくれた。
・私たちのために、忙しい中いろいろ準備してくれてうれしかった。
・働いている人は、やはり真剣でこっちまで緊張してしまった。
・行った所の店の人はとてもやさしい人で、将来こんな人になりたいなあと思った。
・担当の人が忙しい時間を割いてまで私たちのためにやさしくしてくれた。質問も最後まで真剣に聞いてくれた。
・ラーメンを作らせてもらえてとても良い経験ができた。
・最初は、トリマーになりたかったけれど愛児園にいったら子供がかわいくて保母さんになりたいと思ってしまった。でもドッグショップでもいい経験ができたと思う。
・社会では、いろいろ大変なことがいっぱいあるんだなあと思った。
・ラジオの番組が、もっと気軽な番組かと思っていたら、ニュースのような感じだったので余計に緊張した。
・ミスタードーナツでドーナツを 2 種類作らしてもらえて作ったけれど、すごく難しかった。
・社会のことが良くわかり人とのふれあい方などを学んだ。
・社会に出るとつらいこともあるけれど、職場見学を通して働いている人がとても生き生きみえてよかった。
・裁判しているところを初めて見たのでうれしかった。
・いろいろな職場を体験できてとてもよかった。
・とてもいい経験をした。裏まで見えてよかった。
・喫茶店では、店長と客の関わりで明るさを感じた。
・犬の訓練所で「犬は人と一緒である」ときいてとても勉強になった。
・将来の参考になったのは幼稚園。小さい子と遊んだりしてほんと楽しかった。
・訪問先では、質問などに答えてもらいとてもいい経験をした。
・社会に出てみるといろいろあって、将来の夢をかなえる為にとても参考になった。
・どの職場についても"一生懸命やる"ということには変わりないと思う。二つの場所を見学したけれど、どちらも真剣に一生懸命やっていて素敵だなと思った。
・すごくためになり、将来のことをよく考えるきっかけができてとてもよかった。
・私が行った所の人たちは二ヶ所とも「自分が好きだからやっている。」と言っていてその仕事の役割を考え、よりよい仕事ができるように一生懸命心を込めているようだった。私も自分がそうできるような仕事に就けたらいいなと思った。
・二ヶ所とも思っていた以上に良くしてもらったのでとても楽しく見学ができた。こういう経験を生かして将来の参考にしたいと思った。
・機会があればまた行きたい。

職場見学［FMレディオ相南・神成松窯］を終えて

2年　　組

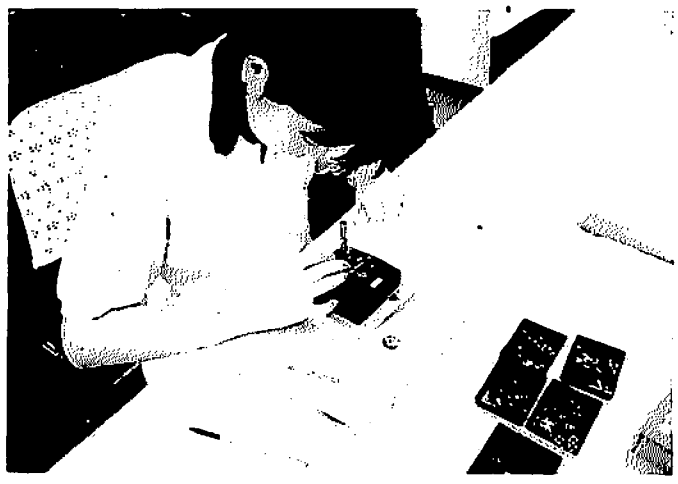
1ヵ所目はラジオ局に行った。萩原さんという人が、一生けん命話してくれた。「人と話すことが好き」「経験が大切。本当にそういう思いをしたことがないのに、〝きれいですよ〟とか、〝つらいですよ〟とか言っても伝わらないよ。」なるほど、と思った。だから自分で取材もいくそうだ。ラジオに出してもらったら、ファックスがきたよ、と人数分コピーしてくれた。『このFAXは、記念にもってけ～！…』と書いてあった。もちろん大切にとっておくにきまってるよ。と思った。

2ヵ所目はアポイントも苦労した焼き物を焼くところだった。私がいちばん印象に残ったのは外の大きな5m くらいある窯のはなしだった。中の小さい窯とちがって、思った通りには焼けないそうで、灰が溶けていろんな模様がつくそうだ。中に入ってみたら…すごい！いろんなところで灰が溶けていろんな色に光っていた。とてもきれいだった。ビー玉みたいでビー玉とはちがってうごきだしそうな感じだった。村さん（話してくれた人）はどうしてもこの窯がほしくて、自分で作ったそうだ。焼くときは何日も何日も24時間もしつづけ、もうやらない！と思っても、できあがった作品を見ると、またやりたくなる。こんどはどんなのつくろうかと思う。焼き物はいろんなことによりいろんなものができてあきないそうだ。こんな一生けん命やれる仕事につけたらいいなあと思った。

職場見学［八景島シーパラダイス］を終えて

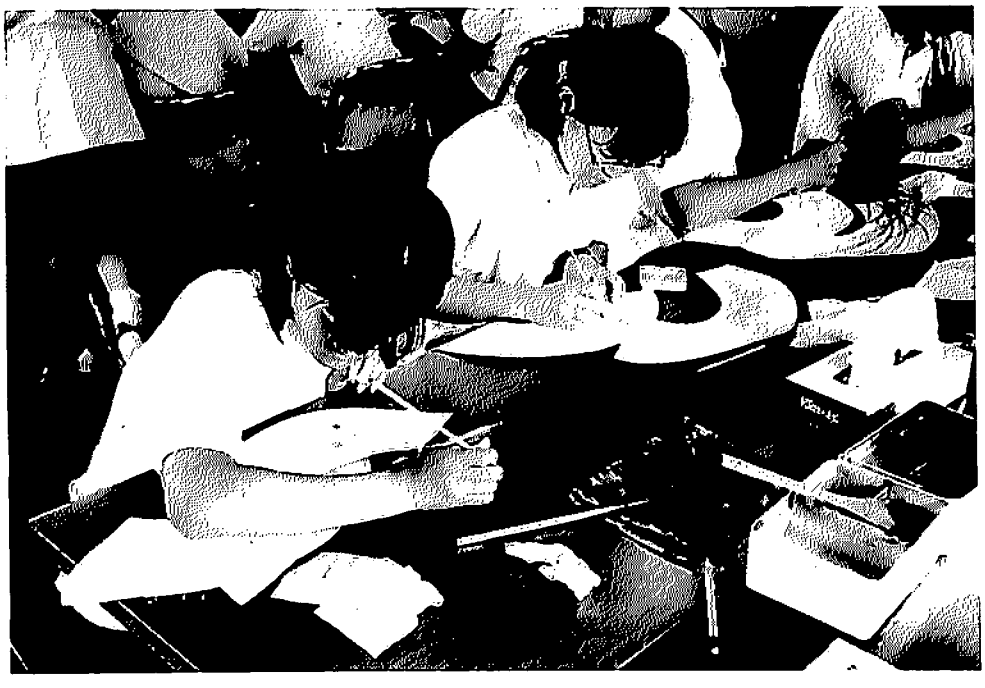
2年　組

私の夢は、"日本語教師"になって世界を回ることと、"イルカの調教師"になって水族館で働くことと二つありました。結局日本語教師の方は、他に行く人がいなそうだったということもあって八景島シーパラダイスに行くことになったのですが、電車とモノレールに乗って、約2時間30分かかるのでつかれそうでいやだなぁと思いました。でも、そこへ着いたら、たくさんの感動が私をむかえてくれました。二人のお兄さんが色々質問に答えてくれて、イルカなどのえさになる魚をさばくところも見してもらえました。そして、やっと待望の白イルカを見ることができました。おじぎをすると、白イルカもこくんこくんとおじぎをしてくれました。「かわいい。」とみんなで声をそろえて叫んでしまいました。イルカは、近くで見ると、こんな優しい目をしているんだなぁ、と思いました。日本語教師と、どっちになろうか、余けいまよってしまいました。



京象嵌

3年『修学旅行』



京扇子

1999（平成11）年度　修学旅行実施要項　　1999．5．24

第3学年　・修学旅行実行委員会

1．日　時　1999年6月13日（日）～15日（火）　（2泊3日）

2．行き先　京都・奈良方面

3．目的
（1）自主的、計画的な行動力を養う。
（2）京都・奈良の歴史や伝統文化にふれ、知識を深めるとともに、感性を養う。
（3）社会の人々とのふれあいを通して、社会性や公徳心を身につけさせる。
（4）中学校生活の思い出をつくり、よりよい人間関係を養う。

4．基本方針
（1）目的意識をもたせる。
（2）自主的、自発的な活動を育てる。
（3）体験的な学習を取り入れる。

5．生徒目的
（1）京都・奈良を訪れ歴史や伝統文化を学ぶ。
（2）修学旅行を通して、友達だけでなく、そこの地域の人々とふれあうことで自分を大きくしていく。
（3）今までの経験を生かし、自主的に行動する。

6．スローガン　「学ぶ・遊ぶ・好奇心」

7．参加生徒　281名（男子157名、女子124名）

8．引率者　14名
大木校長、神崎、添田、中村、宮村、近藤、田路、池下、今井、麻生、荻原、岡太、楠本、室井

9．宿泊先　第1日目　奈良　「ホテル　大文字」
〒630－8301　奈良市高畑町1125
Tel（0743）26－2263
第2日目　京都　「ニュー　松風閣」
〒604－　京都市中京区六角通り富小路西入ル
Tel（075）211－2511

10．主な日程

☆6／13（日）　集合場所　コジマ駐車場　（予定）
集合時間　6：30　（予定）

7:07頃　伊勢原駅 ―― 8:27 小田原駅 ～～～～～～～～ 12:30 新大阪駅 ―― 奈良方面（法隆寺－興福寺－奈良公園）・・・
7:42　（車内昼食）　12:07　宝物殿　大仏（阿修羅像）

・・・・・旅館「ホテル　大文字」（奈良）
18:00

☆6／14（月）
7:30
旅館 ―――― 奈良・京都市内班別自主行動 ―――― 旅館「ニュー松風閣」（京都） ――
16:30

―― 夜の体験コース ―― 旅館
伏見桃山城コース　21:40
舞楽と京舞コース　20:40

☆6／15（火）

8:20 旅館 ―――― コース別体験学習（別表参照） ―――― 12:20 清水寺 ―― 13:30 京都駅 ～～～～～～～～ 17:20 小田原駅 ―
12:50　（車内昼食）　16:52

―― 伊勢原駅（解散）
17:51頃

11．経費　55，000円　（積立金より）

12．服装　1日目　制服（夏用）
2日目　班別自主行動・夜の体験学習共に各行動にふさわしい服装（制服・私服可）
3日目　制服（夏用）
旅館内　校内服（ハーフパンツ、短パン、Tシャツ）
就寝時　個人対応

13．持ち物　検討事項　荷物はできるだけ一つにまとめる。
生徒手帳、筆記用具、校内服、着替え、雨具、冊子、
班別自主行動計画表、散策乗り物ガイド・地図（班で各1冊）、こづかい、
テレホンカード、ビニール袋、サブバック、日用品（洗面用具、タオル、
ハンカチ、ティッシュ、身支度に必要なもの、常備薬）
（持っていってもよい物）
時計、カメラ、ドライヤー（各部屋に1台のみ）、テレホンカード、電卓、
カードゲーム（みんなで楽しめるもの…トランプ、UNOなど）、副食、水筒、
帽子
（持っていってはいけない物）
ゲーム機（ゲームボーイなど）、本・マンガ・雑誌類、携帯電話、PHS、
ポケベル、装身具（アクセサリー、サングラスなど）、ウォークマン、ラジカセ

14．おこづかい　班別自主行動の経費（緊急時用予備費も含む）＋おみやげ代などとして1万円（それ以上になる場合は、各家庭で承諾を得る）

15．その他

☆体験学習8コース（個人で選択して8コースに分かれる）
・清水焼き（絵付け）・清水焼き（手ひねり）・友禅染め（クラフト染め）・京扇子
・京象嵌　・西陣織り　・京七宝　・生八つ橋手作り

☆夜の体験2コース（クラスで選択、4クラスずつに分かれる）
・伏見桃山城
・舞楽と京舞

☆班別自主行動コース（クラス内で個人選択し、見学地により班をつくる。）奈良の旅館から京都の旅館まで

修学旅行のだんどり

月 日	曜	行　事	生徒・実行委員会・拡大実行委員会・係りの動き	教師側の動き
4／1	木			
2	金			
3	土			
4	日			
5	月			
6	火			
7	水			
8	木			
9	金			
10	土			
11	日			
12	月			
13	火			
14	水			
15	木			
16	金			
17	土			
18	日			
19	月	研究全体会		
20	火		昼食時ＪＲのビデオを流し、プリントをまとめる。	
21	水	中央委員会		
22	木	開校記念日		
23	金		昼休み（実行）掲示物について	
24	土	学校休業日		
25	日			
26	月	職員会議 臨時学年会	昼食持参（拡大）　クラスで話し合う内容について 道徳　班別自主行動の班決めの準備	（学）実施要項、検討事項について
27	火		昼食持参（拡大）　係り分担組織・内容について （放）（拡大）クラスの意見を持ち寄る	
28	水	授業参観 ＰＴＡ総会	（放）係り分担組織・内容の検討・冊子表紙公募 ok ２日目夜の体験コース決め方について	体験学習の作品申し込み配布
29	木	みどりの日		
30	金	教育研究総会	１校時の授業を学活に変更して、班別自主行動の班を決め、係り分担も決める	確認・検討事項にそって指導

修学旅行のだんどり

月　日	曜	行　　事	生徒・実行委員会・拡大実行委員会・係りの動き	教師側の動き
5／1	土	全校朝会 色別抽選会	昼食持参（拡大）班別自主活動計画表作成について	事前指導があれば伝達 確認
2	日			
3	月	憲法記念日	親や兄姉の話しも参考に、各自見学コースを考え、 意見が出せるように、メモにまとめてくる。	
4	火	国民の休日	親や兄姉の話しも参考に、各自見学コースを考え、 意見が出せるように、メモにまとめてくる。	
5	水	子どもの日	親や兄姉の話しも参考に、各自見学コースを考え、 意見が出せるように、メモにまとめてくる。	
6	木	学年会	昼食持参（拡大）こづかい、持ち物、服装について （学活）こづかい、持ち物、服装について話し合い	体験学習の作品希望の 取りまとめ
7	金	家庭訪問①	昼食持参（拡大）部屋割り、入浴について 午後（クラス）班別自主行動計画表の作成	家庭訪問中、副担で、 行動表作成アドバイス
8	土	学校休業日		
9	日			
10	月	家庭訪問②	昼食持参（拡大）こづかい、持ち物、服装について 午後（クラス）班別自主行動計画表の作成	家庭訪問中、副担で、 行動表作成アドバイス
11	火	家庭訪問③	昼食持参（拡大）部屋割り、入浴について 午後（クラス）班別自主行動計画表の作成	家庭訪問中、副担で、 行動表作成アドバイス
12	水	家庭訪問④	昼食持参（拡大）部屋割り、入浴について 午後（クラス）班別自主行動計画表の作成	家庭訪問中、副担で、 行動表作成アドバイス
13	木	家庭訪問⑤	昼食持参（拡大）部屋割り、入浴について 午後（クラス）班別自主行動計画表の原案検討	担任が班別行動表を点 検する
14	金	定期大会	昼食持参（拡大）係り分担について 午後（クラス）班別自主行動計画表の原案作成	体験学習作品申し込み 発送
15	土	定期大会	（学活）班別自主行動計画表完成、 午後（クラス）班別自主行動表の清書	担任が班別自主行動表 を回収する
16	日		昼食持参（拡大）道徳の話し合いの進め方	
17	月	指導部会	（道）こづかい・持ち物・服装・部屋割りの検討 （放）部屋割り・入浴順・冊子表紙締め切り・決定	
18	火	教育実習打ち合 わせ	昼食持参（拡大）検討事項の情報交換 （放）（拡大）こづかい・持ち物・服装・部屋割り	係りへ行動表提出、 ＣＰへ入力
19	水	生徒委員会	昼食持参（拡大）検討事項の情報交換 （放）（拡大）こづかい・持ち物・服装について	
20	木	研究部会	昼食持参（拡大）新幹線・バス座席について （放）班長、学習、生活クラス長会議（拡大）	それぞれの係り先生は 係りの生徒を指導
21	金		（学活）新幹線・バス座席決定 （放）（拡大）新幹線・バス座席・冊子原稿分担	それぞれの係り先生は 係りの生徒を指導
22	土	学校休業日		
23	日			
24	月	中央委員会	昼食持参（拡大）冊子原稿について	それぞれの係り先生は 係りの生徒を指導
25	火	中間テスト		（学年会）日程の確認
26	水	中間テスト 職員会議	昼食持参（拡大）仕事分担の確認	
27	木	歯科検診 ３年１：３０		
28	金	校内研究全体会	昼食持参（拡大）冊子原稿について （放）（実行）冊子原稿提出印刷、アンケート検討	
29	土	部活動懇談会	昼食持参（実行）アンケート作成 （放）冊子印刷	
30	日			
31	月	教育実習開始	（道）学年係り別会議（班長、学習、生活） （放）冊子のとじの準備	

修学旅行のだんどり

月　日	曜	行　　事	生徒・実行委員会・拡大実行委員会・係りの動き	教師側の動き
6／1	火	内科検診 3年1：30	冊子のとじ完成	
2	水	3年保護者会	予備日	
3	木	眼科検診（全） 歯科検診1:30	予備日	
4	金	生徒委員会	（放）（拡大）係り別打ち合わせの伝達事項の確認準備	
5	土	全校朝会	（学）班での打ち合わせ（係りからの伝達事項と確認）	
6	日			
7	月	中央委員会	（道）クラスで冊子の読み合わせ	
8	火		予備日	
9	水	2年保護者会 懇談会	予備日	（学年会）業者との打ち合わせ
10	木		（放）（拡大）事前指導の確認（役割分担など）	
11	金	教育実習反省会	5校時　事前指導（体育館）	
12	土	学校休業日		
13	日	修学旅行		
14	月	修学旅行		
15	火	修学旅行		
16	水	3年代休		
17	木		1校時学活　修学旅行感想、まとめ、アンケート	
18	金	研究部会	（実行）修学旅行のアンケートのまとめ	
19	土		（拡大）修学旅行の反省	
20	日	伊中まつり 授業参観		
21	月	代休		
22	火			
23	水			
24	木	中地区教職員 体育大会		
25	金	職員会議		
26	土	学校休業日		
27	日			
28	月	研究全体会		
29	火	期末テスト		
30	水	期末テスト		

修学旅行体験学習希望調査　1999．3．15

これまで修学旅行準備委員の報告や修学旅行新聞などで知っているとは思いますが、修学旅行３日目の午前中に体験学習を計画しています。体験学習の目的は、修学旅行の中で京都でなければ体験できないようなこと京都の技）に挑戦してくることであります。そして、体験学習は個人選択を考えています。その準備として、個人でどの内容を選ぶかの事前調査をします。どのコースも人数を４０名と考えています。体験学習内容一覧表と各学級に掲示してあるパンフレットや修学旅行新聞を見て、９コースの中から第１希望から第３希望までを選び、下の希望用紙に記入して下さい。１８日（木）までに名簿にまとめてから係りの先生に提出して下さい。
ただし、人数や施設の関係ですべて第１希望通りになるとは限りません、希望を参考に調節します。

体験学習一覧表

コース	体験名称	内容	料金	その他
1	清水焼（絵付け）	素焼きの湯呑みやマグカップにお好みの絵柄を書き込み、焼き上げます。	湯呑み　１１００円 一輪差し　１４００円 マグカップ１６００円	図案必要
2	清水焼（手ひねり）	陶器用粘土を自由に練って、茶碗、湯呑み、マグカップなどを作ります。	粘土 １ｋｇ　３２００円 ６００ｇ　２６００円	図案必要
3	友禅染め（クラフト染め）	舞妓、嵐山、大原、二条城などの図案にお好みの色で染め上げる。	１６００円	図案を選ぶ
4	京扇子	扇子の用紙にお好きな絵や言葉を書き込みます。	２０００円	下絵必要
5	京象嵌（京ぞうがん）	タイピン、ペンダントヘッド等で有名。各台に金箔、銀箔を張り合わせていろいろな形や模様を作る。	３２００円	事前に選ぶ ﾀｲﾋﾟﾝ ﾍﾟﾝﾀﾞﾝﾄ デザインも選ぶ
6	西陣織り	昔ながらの機織機で、カラフルな西陣織の敷物を織りあげていきます。	１３００円	着物ｼｮｰがある
7	京七宝	ペンダントやキーホルダーの模様をつくり、色あざやかに焼き上げます。	１０００円	事前に選ぶ 小判、魚 ハート
8	生八ツ橋手作り	つぶあん入り、抹茶、いちごなどの生八ツ橋を自分の手で作ります。	８００円	
9	古代友禅（型染め）	牛車、まりなど５～６色の型と色を重ね合わせて一つの模様をつくり上げます。	１３００円	

体験学習コース希望用紙

２年（　）組（　）番名前（　　）

希望	第１希望	第２希望	第３希望
コース			

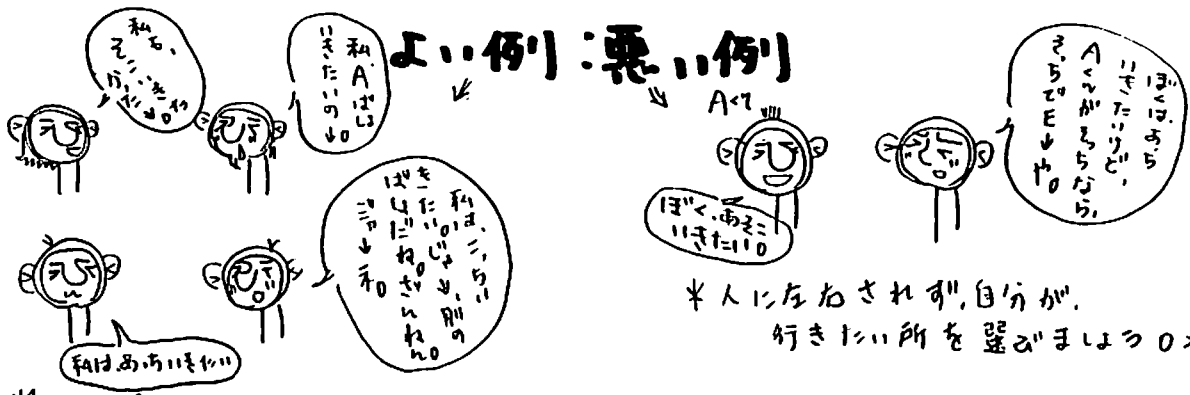
=Every one HAPPY=

＋亀井・岩田・松尾・芳澤＋

＊8ごう＊

=＊班別自主行動について＊=

1 まず、行きたい場所を決めよう。



＊人にながされず、自分が、行きたい所を選びましょう。＊

2. 次に、その人たちで、グループを作ろう。

約束1　人数は、3人～6人（最大8人）

約束2　男子、女子は、特に、関係ないです。でも人数に気をつけて下さい。

＊好き、嫌いで、決めるのではなく、学びに行くということを忘れないで、決めて下さい＊

=＊水曜日の選択教科の時間の扱いについて、＊=

88 各クラスに、修学旅行関係のビデオを流します。

みんなにしてほしい事。

1. ビデオを見て、配られるプリントがあるので、それを見て、あいている部分に正しい物（言葉）を書きこむ。

2. プリントは、3枚あるので、しっかり見て、まとめて下さい。

※ビデオは2度流します。一度目は、じっくり見て下さい。2度目は、しっかりプリントに書きこんで下さいね。

自分たちが行くのだから、進んで、行動しようね。たのしい修学旅行にしよう♪

＊うさこ＊

平成１１年度修学旅行　◇生徒アンケート集計結果◇

１．１日目　奈良見学（法隆寺・興福寺・奈良公園）

満足…71%
不満…29%

＊奈良公園で本当に沢山のしかがいておもしろかった。自然のしかは見たことがなかったので、しかも自由に動けるようになっていてすごいと思った。
　法隆寺・興福寺では、美術資料集なんかで見る仏像があったりして、なんだか不思議な感じがした。教科書で見るより迫力があった。
＊東大寺の南大門の金剛力士像と大仏のスケールの大きさに驚いた。思っていたより２倍くらい大きかったと思う。二月堂から見た奈良の景色もきれいだった。興福寺の阿修羅像は意外と小さく、ただし、細かい所までしっかり作られていて、感動した。
＊見学場所はとてもよいのですが、時間が少ない。もっとゆっくりじっくり見たかった。それと、歩くのが速くて、とても疲れた。

２．２日目　班別自主行動

満足…75%　不満…25%

＊みんなで助け合ってとても思い出に残る体験ができた。
＊伏見や三十三間堂など、いろいろな所に行けてよかったです。道を聞いたりして、京都の人達とも交流ができました。
＊好きな所に行けてよかった。班の人達と自由にできた。時間がもう少しあったらよかったと思う。お寺や仏像に全く興味が無かったけれど、実際に見ておもしろさを知ることができた。だからもう一度奈良に戻りたくなった。
＊ハードな予定だったけど予定通りに行った。でも、金閣寺のバス停でバスがこなかったので、他のバスに乗ってそこから走った。大変だったけれど、楽しかった。一番楽しかったのが保津川下りで、約１時間40分くらい乗って水しぶきがあたったりしてよかった。
＊時間に余裕がなく、集合時間に遅れてしまった。
＊都会の中にお寺があったので、もっと古くて昔っぽい所へ行きたかった。

３．２日目　夜の体験学習

(1)伏見桃山城コース　満足…89%　不満…11%

＊京都の夜景がきれいだった。お城も思っていたより大きくてびっくりした。時代劇みたいなものも見た。
＊向こうの人達がちょっとした劇みたいな戦いをしてくれて楽しかった。伏見桃山城の上に上がって見た夜景はとてもきれいだった。そしてとても高くて、伏見桃山城の大きさがよく分かった。
＊高い所が苦手なのでそんなに楽しくもなかった。あと眠たかった。

(2)京舞コース　満足…74%　不満…26%

＊舞子さんに会えてうれしかった。
＊楽器も教科書とかで見たのと同じで、すごく響きがよかった。舞子さんもとてもきれいでした。一番驚いたのは15～20才までしかできないことです。
＊ただ踊りを見ているだけだったので、もう少し何かしたかった。

４．３日目　コース別体験学習

満足…89%　不満…11%

＊（京七宝）自分で絵のデザインを決めて、そのデザインどおりに色となる粉のようなものを付けて焼くというもので、私がやったのはデザインを決めて色を付けただけですが、それだけですごくおもしろかったです。
＊（清水焼手ひねり）土がすごく冷たくて気持ちよかった。思っていたよりも簡単でうまくできたと思う。お兄さんたちが親切に教えてくれた。二か月後が楽しみ。
＊（京扇子）すごく集中してできた。色がちょっと変になってしまったけどいい体験ができたと思う。
＊（西陣織り）おもしろかった。何だか昔にタイムスリップしたみたいでよかったと思う。
＊（友禅染）人数が少ない分楽しくできた。一人ひとり素敵なものができた。

＊（八つ橋）めったにできない体験だったので楽しかった。あとけっこうおいしかった。
＊（京象嵌）思っていたよりいいものができてよかった。でも作り方が最初よく分からなかったし、細かい作業だったので疲れた。
＊（清水焼絵付け）絵を付けるのが難しかった。でも頑張って描いたのでどのようにできているか楽しみ。

5．全体を通して　満足…84%　不満…16%

＊全体を通してとても楽しかったです。いい思い出になりました。私は実行委員をやっていたのですが、何だかあっという間に３日間がすぎちゃって、寂しいけど、やってよかったと思いました。少しは役に立てたかなと思います。みんなの心の中にずっと残ってくれるといいなと思います。いろんなことを学べました。
＊いろいろな所に行けてよかったと思います。でももっと行ってみたい所もあり、３日間じゃ足りないという思いがあります。でも、これはこれでとってもよい思い出ができてよかったと思います。また、奈良や京都に行きたいです。
＊京都の人達がみんないい人でいろいろと教えてもらった。もう少し京都にいたかった。
＊忙しかった。もう少し時間にゆとりが欲しい。
＊３日間いろいろあってとても疲れたけど、その倍以上楽しかったです。旅館の過ごし方で、ご飯を食べる時間が短くて急いで食べなくてはならないのが大変でした。
＊友達との仲が深まったと思うのでよかったと思う。
＊半年前から準備してきた修学旅行は、計画以上の思い出ができてよかったです。
＊いろいろな伝統文化を学んだり、そこの土地の人と交流したり、すごくいい勉強になったと思います。友達との楽しい思い出ができてよかったと思います。

学ぶ・遊ぶ・好奇心

平成１１年度　修学旅行のまとめ

第３学年　　組　　番　　氏名

半年も前から準備してきた修学旅行も終わってしまいました。皆さんの心の中には何が残ったでしょうか。もう一度振り返って整理してみましょう。

１日目　奈良見学（法隆寺・興福寺・奈良公園）　（ 満足・不満足 ）

1日目で一番よかったのは興福寺でした。
まず国宝館でいろいろな仏像を見ました。そしてその後東大寺で大仏を見ました。でも、下から見上げたためか私はそんなに大きいとはかんじられませんでした。
それでも大仏の手のひらに小学生が10人乗れると聞いた時はすごくびっくりしました。

２日目　班別自主行動について　（ 満足・不満足 ）

2日目はまず知恩院へ行きました。
知恩院では7不思議を全部見ました。7つのどれも現代から考えると全然こわくなくてどっちかというと本当に不思議というかんじがしました。
この知恩院では時間をずいぶん使ってしまい、最後に行くハズだった御所をやめてしまいました。だからずいぶんはやく旅館につくハズだったんですが、その旅館がどこにあるかわからなくてけっきょくついたのは4時25分くらいでした。

夜の体験学習について　（ 伏見桃山城・京舞 ）（ 満足・不満足 ）

2日目の夜の体験学習では京舞を見ました。
京舞では、男の人か女の人かわからないけど、すっごく派手な衣装を着ておどっていました。京舞の方はすごく平然として見ていました。
その後に舞子さんがおどったり、その舞子さん（サトコさん）に質問したりしました。
私は、舞子さんになるためにはどっ以上習い事をしてなくちゃならないというのを聞いてすごくびっくりしました。

３日目　コース別体験学習（ 京七宝　　コース）（ 満足・不満足 ）

3日目のコース別体験学習では京七宝を作りました。
自分で絵のデザインを決めて、そのデザインどおりに色となる粉のようなものをつけて焼くというものです。
私がやったのはデザインを決めて色をつけただけですが、それだけですごくおもしろかったです。

全体を通して　（ 満足・不満足 ）

修学旅行は、朝がはやかったりねむれなかったりでつかれたけど、それなりにけっこういい物も見れたり、楽しかったりしたからすごく満足しています。だから何か修学旅行がはやくおわってしまったような気がしました。
（※修学旅行に連いて来た添乗員さんが去年、職場見学でお世話になった人だったのにはおどろきました。）

でもその中で唯一嫌だったのは、旅館がある場所がわかりにくかったことです。道に迷ったりいろいろなってやっと見つけました。
4時をすぎた時は本当にあせりました。

学ぶ・遊ぶ・好奇心

平成１１年度　修学旅行のまとめ

第３学年　　組　　番　　氏名

半年も前から準備してきた修学旅行も終わってしまいました。皆さんの心の中には何が残ったでしょうか。もう一度振り返って整理してみましょう。

1日目　奈良見学（法隆寺・興福寺・奈良公園）　（　満足・不満足　）

奈良公園が良かった。思っていた以上に広々としていた。しかせんべいを持っていない私に向かって一生懸命，おじぎをする姿がなんとかわいらしかった。東大寺の大仏がすっごく大きくて びっくりした。柱の穴の大きさサイズの穴に入らなかったけど とにかく大きかった。

2日目　班別自主行動について　（　満足・不満足　）

初めの伏見稲荷大社は，登り始めは，とりあ全部数えて，頂上まで行くつもりだったのに，途中で全然わからなくなってしまった。しかも1/4しか数えなくて，すごくつかれた。一番印象的だったのは，広隆寺のみろく菩薩半跏像です。写真で見たときよりも全然キレイで本当にやさしい顔をしていた。いが和む感じがした。三十三間堂と北野天満宮もよかった。帰り少し遅刻してしまいました。

夜の体験学習について　（　伏見桃山城・京舞　）（満足・不満足）

芸妓さんがすっごくかわいかった。17才ときいておどろいた。自分と2才しかかわらないのに大人っぽいと思った。思っていたよりもたくさん質問が出た。ずっと座りっぱなしでちょっと眠くなってしまった。

3日目　コース別体験学習（清水焼コース）　（　満足・不満足　）

土がすごく冷たくて気持ち良かった。思っていたよりも簡単でうまく出来たと思う。お兄さん達が親切に教えてくれた。2カ月後が楽しみ。

全体を通して　（　満足・不満足　）

京都は，伊勢原よりも暑かった。とくに2日目は，本当に天気がよくてつかれた。いわりには，あまり疲なくてつかれた。でもたのしかった。何カ月もかけて準備に準備した3日間は，本当に早くて，ずっといたい感じだった。書ききれないくらいたくさん思い出ができた。もっと大人になってから，また行きたいと思った。

全学年『ふれあい活動』

平成１０年度　伊勢原中学校ふれあい活動について

伊勢原中学校生徒会指導部

１．目的　自分が郷土に何ができるかを考えることから始まった空き缶拾いや、ゴミ拾いを通して、生徒、保護者、教師、地域の方とのお互いの交流を深め、郷土愛、連帯感を養う。

２．日時　平成１０年１２月２１日（月）　AM９：００～AM１１：３０

雨天の場合　１２月２１日（月）は大掃除・学活にして、
１２月２２日（火）に同時刻で行う。

３．当日のｽｹｼﾞｭｰﾙ

８：３０　～　８：３５　出席確認（教室）
８：３５　～　８：５５　職員打ち合わせ
９：００　～　９：１５　学活（教室にて最終説明）
９：２５　～　９：４５　グラウンドにて開会式
１．開式の言葉（生徒会本部生徒）
２．生徒会長の言葉
３．校長先生の言葉
４．ＰＴＡ会長の言葉
５．活動・注意事項説明
６．閉会の言葉（生徒会本部生徒）
９：５０　～１０：５０　担当地区に分かれてふれあい活動
１１：００　～１１：３０　ゴミ仕分け（生徒会本部）
１１：３０　～１１：４５　帰りの会（教室）

４．活動場所

色（縦割り集団）	紫	赤	緑	青	ピンク	橙	黄
担当場所	校外１	校外２	校外３	校外４	校外５	校外６	校内

・学年交流を深めるために、縦割り集団にて活動します。
・地図については、別紙地図を参照下さい。

５．活動内容

＜校外＞１．生徒・教師・保護者・地域の方が一緒になって、カン（アルミ、アルミ以外）・ビン・その他不燃物・燃えるゴミ・ペットボトルに分けて拾う。
２．活動の際には、３人１組になって１人が２枚ゴミ袋を持っていたので６枚のゴミ袋にゴミを仕分けしながら拾っていきます。
３．担当地区にゴミがなくなったところで（10:50 を目安に）学校に戻り、体育館
とテニスコートの間にゴミを分別して集めます。

＜校内＞１．学校内及び学校周辺のゴミを、生徒・教師・保護者が一緒になって、カン（アルミ、アルミ以外）・ビン・その他不燃物・燃えるゴミ・ペットボトルに分けて拾う。
２．活動の際には、３人１組になって１人が２枚ゴミ袋を持っているので６枚のゴミ袋にゴミを仕分けしながら拾っていきます。
３．学校周辺にゴミがなくなったところで、体育館とテニスコートの間にゴミを分別して集めます。
４．各地区から戻ってくる生徒のゴミを分別するのを手伝います。

６．分別についての注意
・１アルミ缶　２アルミ以外のカン　３ビン　４その他不燃物　５可燃物　６ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙの６つに分けてゴミを集めます。

・粗大ゴミ（４０cm 四方より大きい不燃物）は回収しません。

・ペットボトルは学校に戻ってから、中をよく洗った後、全体で集めます。
このとき、金属のふたは不燃物に、プラスチックのふたは可燃物に集めます。
ペットボトルが洗っても汚いときは、可燃物に集めます。

・アルミ缶は学校に戻ってから、中をよく洗った後、全体で集めます。

７．後処理について
・アルミ缶は紫田商店（東大竹 1-16-10Tel95-0480）が１２：００頃取りにくる。
・
・他のゴミは、環境美化センター（神戸 378Tel94-7502）に許可書をもらいトラックで指定の場所に捨てに行く。

やまびこ

1998年
12月10日
第08回
中央委員会
会報

議長 高橋
副 山本
司会 池谷
黒板 熊本
野村
ノート 武田

発行
12月11日

ふれあい活動について

日時　平成10年 12月21日（月）
AM 9:00～AM 11:30

雨天の場合
12月21日(月)は大掃除・学活にして
12月22日(火)のAM 9:00～AM 11:30に行う

目的　ふれあい活動を通して、生徒、先生のお互いの交流を深め郷土愛、連帯感を養う。

分別についての注意

※アルミカン　※アルミ以外のカン　※ビン　※その他不燃物
※可燃物　※ペットボトル（学校に戻ってから中を洗う）
の6つに分けてゴミを集めます。

全生徒が軍手とスーパーのポリ袋を1人2枚ずつ持参する

スイッチについて

スイッチがまだ壊されるようです。
直す人の気持ちも考えて壊さないで下さい。

各係りの心得にも目を通しておいて下さい。

ふれあい活動についての反省（生徒）

1．ゴミをどのくらい拾いましたか？

たくさん拾えたという意見が多かった。しかし、校内担当の生徒はゴミがないという意見もあった。

2．ゴミの分別で難かしかったの事はどのようなことですか？

・アルミ缶とスチール缶の分別ができていなかった。

・可燃物と不燃物の分別が難しかった。

・ペットボトルのふたの分別。

・ペットボトルを洗うことが面倒だった。

・電池や傘に困った。

3．自分の役割を正しく理解して自らすすんでゴミを拾いましたか？

自らすすんで活動したかを問いかける質問でしたが、全体の７割の生徒が拾ったという前向きな意見でしたが、あまり活動しなかったという意見等もありました。

4．みんなで協力して仲良くできましたか？

できた、友達と話ながら楽しくできた、仲良くはないが協力してできたという意見が多かった。

5．集まったゴミの山を見てどのようなことを感じましたか？

・伊勢原市は汚い街だと思った。

・どうしてみんなゴミをゴミ箱に捨てないのだろうか？

・みんながゴミを拾う運動をすれば、きっとゴミを捨てたりしなくなると思う。

・たくさん集まるんだなと思った。

・捨てるな！と思った。

5．集まったゴミの山を見てどのようなことを感じましたか？（続き）

・もっと定期的にこのような活動をしたほうがいいと思った。

・ゴミを捨てないようにしようと思った。

・達成感があり、気持ち良かった。

・ゴミ箱をもっと増やすといいと思った。

・缶のゴミが多いと思った。

・これからは、ポイ捨てをしている人がいたら注意をしてゆきたい。

・皆でやるということは、すごい力になると思った。

・ふれあい活動をしてよかった。

・これからは、目についたゴミは拾いたいと思った。

・自分たちと同じ人間がしている事だと思ったら、嫌だった。

・ごみを拾うのが嫌だった。

・集まったゴミは、思ったよりも少なかった。

・ゴミもなんとかして、リサイクルして使ったほうがよいと思った。

・人間に失望した。（悲しく思った。情けなく思った。）

・伊勢原市がきれいになったような気がした。

《 参 考 図 書 》

中学校学習指導要領　　文部省
総合学習の実践　　加藤幸次編著（黎明書房）
横断的・総合的な学習とクロスカリキュラム　　今谷順重編著（黎明書房）
「生きる力」１００の課題徹底理解　　高階玲治編（教育開発研究所）
体験・ボランティア活動の考え方・進め方　　宮川八岐編（教育開発研究所）
指導観の転換　　新井郁男編（教育開発研究所）
実践クロスカリキュラム　　高階玲治編（図書文化）

《 ご指導いただいた先生方 》

伊勢原市教育委員会
　　元指導室長　　高原重信先生
　　指導室長　　高橋準一先生
　　指導主事　　渡辺静夫先生
　　柴田　尚先生
横浜市立小田中学校　　岩間和子先生

《 旧 研 究 同 人 》

青木　薫	松浦三郎	奥田捷子	杉崎直信	小瀬村一郎
鍛代道信	落合陵子	高橋正義	古正　充	斉藤敬子
佐藤恒子	高橋正彦	山下　浩	藤原浩子	横田千果

あ と が き

子供たちが、生き生きと学ぶことの楽しさや達成の喜びを体得するためには、子供たち一人ひとりが何事にも精一杯集中して取り組める場面や内容が日常の学校生活の中にあり、保障されていることが前提となります。

本校では、平成９年度より「生徒一人ひとりが生き生きと活動できる場づくりを通して」を研究主題に、授業での場、行事での場で、子供たち一人ひとりが主体的に学ぼうとする意欲、学びとる主体的な学び方を育てる研究、教育実践を進めてまいりました。荷の重い面も多々ありましたが、試行錯誤を重ねながら、教職員一致協力のもと、その成果を報告書としてまとめることができました。まだまだ、多くの課題を山積みしておりますが、教職員各人のこととして、常に研究の原点に立ち帰り、見直しを深めなかでそれぞれの課題に真摯に取り組んでいくことを願っております。

また、この研究を通して得たもう一つのおおきな成果は、これから実施される新しい教育課程、「ゆとり」をもって「生きる力」を育む教育実践への多くの手掛かりことを作ったことであります。「生きる力」についての、その概念の共通理解、それにともなう新しい学力観への内容的、質的指導改善への取り組みは、その最たることとして誇れるものであります。今後もさらに教職員一丸となって、この主題の研究を継続していく所存でございます。

終になりますが、３年間の研究を進めていく上で、私たちにご支援、ご助言いただきました諸先生方、関係各位に心より謝意を表わしますとともに、なお一層のご指導とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

教頭　湯沢　節夫

研　究　同　人

大木　一夫	湯沢　節夫	中山　岫夫	増田　充男	神埼　豊
田中　泰子	添田　二郎	久永　誠	佐藤　則行	伊藤　和也
池下　俊彦	中村　行利	髙橋　健一	今井　謙三	黒田　努
荻原　敬三	田路　文彦	秋葉　弘美	麻生記代子	坂本　緑
岩田　利通	橋本　貴永	柳川　厚子	山根　雅彦	東　準
佐藤　明子	松尾久美子	斉藤　京子	今井　伸尚	山川　美枝
北島　昌人	竹内　清治	中丸久美子	大谷　一	岡太　広恵
室井　一恵	三浦　郁子	宮村　弥生	宮林　貴子	近藤　紀子
川田　真也	田中　広美	青木　澄男	今村たみ子	鳥海たまえ
海鋒　英夫				